

陸軍士官學校編纂  
**兵要地誌**

大日本之部  
遠三河

卷之十二  
卷之十三

3

189

東 泉 園 書 館				
冊	一 八 九 号	七 架	二 函	屬 類

023107-003-8

3-189

兵要地誌 大日本之部

陸軍士官學校／編

M21

ADB-1117



陸軍士官學校編纂

# 兵要地誌

大日本之部

内外兵事新聞局藏

兵要地誌

大日本之部卷之十二 目錄

三河國誌

總論

山論

東北境

東境脈

中央脈

西北脈

水論

灌域ノ區劃

東灌域

地勢總括

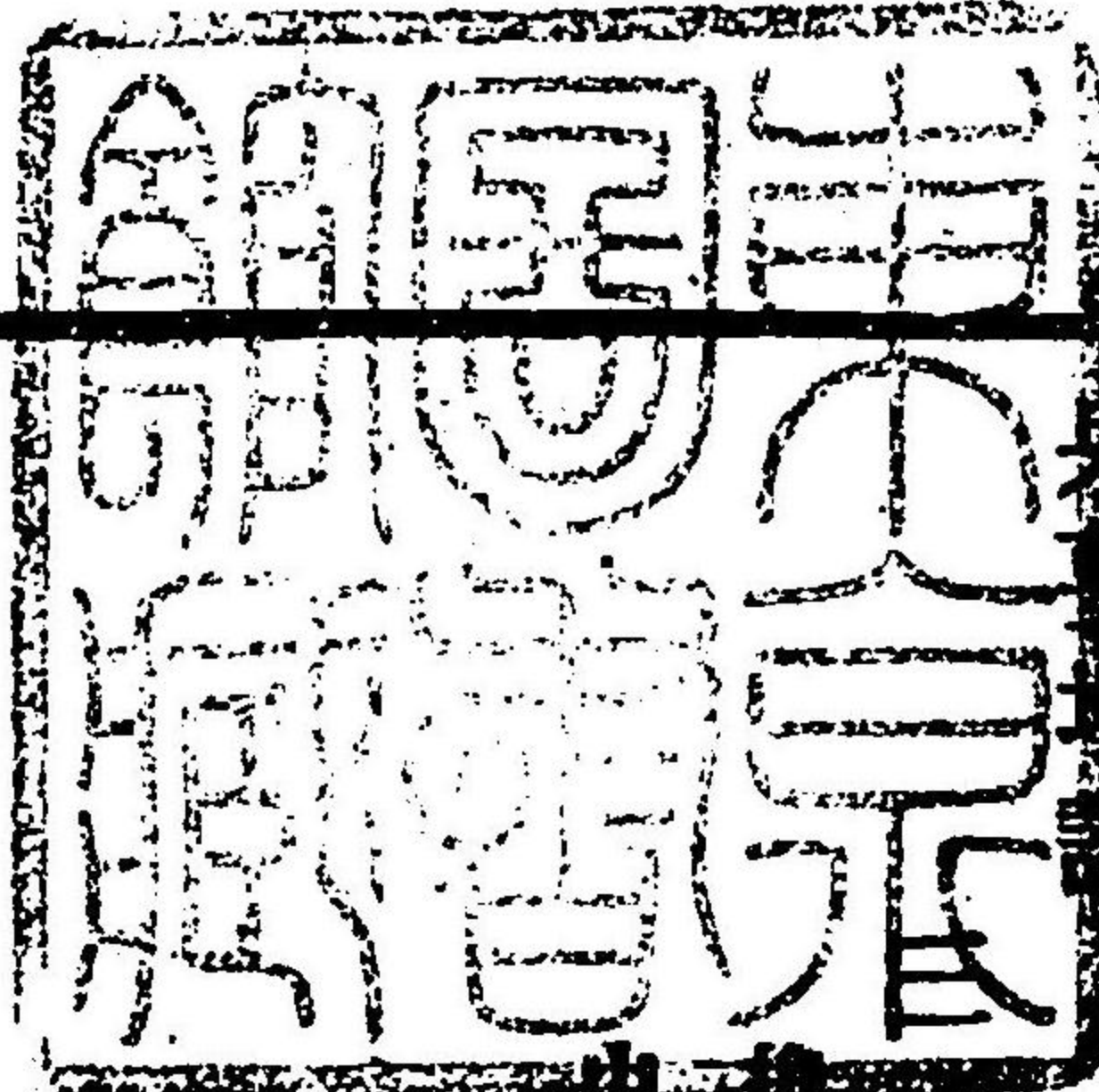
一	二	二	四	六	七	八	九
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁

兵要地誌

日本部

三河國誌目錄

No 9007



大日本帝國 大日本之部卷之十二 目錄



河國  
總論  
山論

西北脈

水論

瀧域ノ區劃

東瀧域

地勢總括

日本部

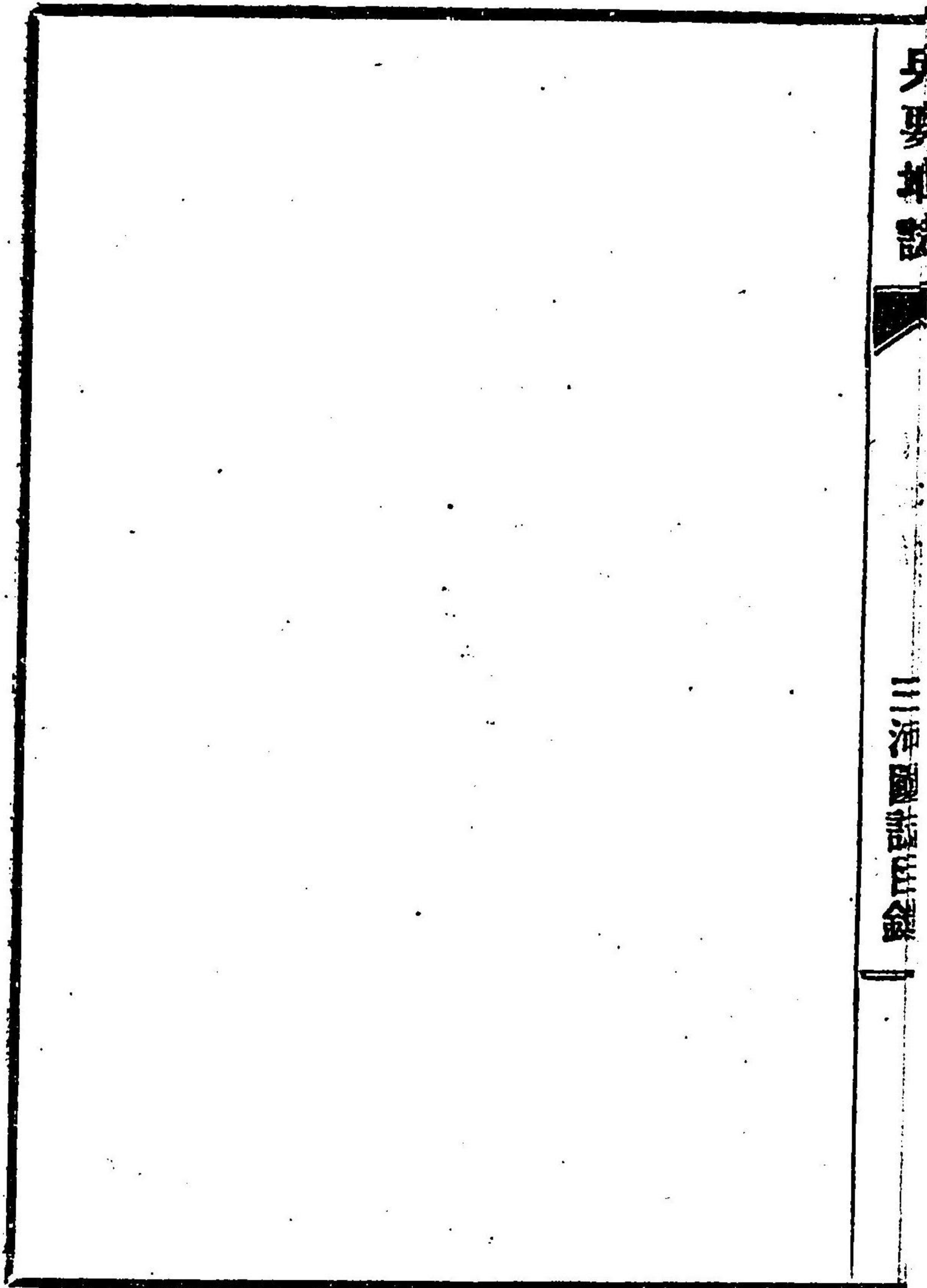
三訂版

九	八	七	六	四	二	二	一
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁



豐河ノ水路及其朝流	九丁
豐河ノ水路	
右朝流	十七丁
左朝流	二十丁
豐河以北ノ諸川	二十二丁
豐河以南ノ諸川	二十五丁
西澁域	二十七丁
矢作河及其朝流	
矢作河ノ水路	二十七丁
左朝流	三十二丁
左支流	三十八丁
右朝流	四十丁

境川ノ水路及其朝流	四十一丁
交通路	四十五丁
沿革略史	四十八丁



兵要地誌

大日本之郡卷之十二

陸軍助教田付直男 纂述

三河國誌

總論

三河國ハ、東海邊ノ第五次ニ位シ、北緯三十四度三十六分ヨリ同三十五度、西經二度ヨリ同五十八分ノ間ニ亘リ、其境界、北・信濃・美濃ニ接シ、東・遠江ニ隣シ、南・海ニ臨ミ、西・濃川ヲ以テ尾張ニ界ス、廣袤東西凡十六里、南北凡十七里、之ヲ割シテ十郡トス、額田郡ハ國ノ中央ニアリ、其狀略、三角形ヲナス、其西一邊ニ接シテ碧海・幡豆ノ二郡アリ、幡豆郡稍小、其南邊ハ水ニ界ス、加茂郡ハ最北ニアリ、其地廣大、其西南ハ額田郡ノ東北ト相界シ、西北境ハ、

尾張及美濃ト隣接ス、近時分ツテ東・西二郡トス、加茂郡ノ東ニアツテ相表裏スル一郡ヲ、設樂郡ト云フ、實飯郡又其西南ニ連リ、設樂郡ハ東北・信濃ニ界シ、實飯郡ハ西南・海灣ニ臨ミ、額田・八名二郡ノ間ニ介在ス、設樂郡稍大ナリ、南北二郡ニ分割ス、八名郡ハ東南境ニアリ、斜メニ遠江ト隣接シ、西南・渥美郡ト連ツテ、其形共ニ長ク、八名郡幅最モ狭シ、渥美郡稍廣ク、三面海水ヲ繞ラシ、地形・半島ヲナス、全國ノ人口、總テ五十二萬三千四百〇三年十四

國ノ形

國ノ形零方、其三方東北及山岳ヲ繞ラシ、枝脈内部ニ連結シテ、谷深シ道險ニ、南ハ海灣ニ瀕シテ田圃平濶、土地概肥へ通路概坦、名邑及村落多シ、全土ノ大勢東北ヨリ斜

メニ西南ニ傾キ、大小ノ河流、地勢ヲ趁フテ概其方向ヲ齊フシ、以テ西南・海灣ニ注ク、氣候ハ、極暑九十五度、極寒三十四度  
 物産ノ主ナル者 鑛物ハ雲母、御影石、鐘乳石、名倉砥石、植物ハ、茶、綿、甘薯、海苔、楮皮、製造物ハ、瓦、紡錘、綿、紙、漆、陶器、麻繩、紙、炭、魚籠、漆、製造食物ハ、干鰯、海鼠、腸、味噌、醬油、酒、酢、索麵

山論

山勢美濃・信濃諸山ト相連接シテ北境ヲ劃シ、其支脈又國內ニ分發シテ長短高低アリ、其最モ西ナルモノハ、尾張境ヲ、東ナルモノハ、遠江境ヲ劃シ、其間ニ東・西ノ數派、國內ニ分ル、モノ、或ハ高ク二河ノ水界ヲナシ、或ハ低ク

二郡ノ區分ヲナス、而シテ中央分脈最モ長ク、其他ハ漸ク東西ニ短フシテ、畧其方向ヲ西南ニ同フス、其形勢ヲ概スルニ、恰モ西南ニ向フテ楓葉ヲ置カ如ク、分裂四出、諸水其凹處ヲ分流シ、山勢ニ隨フテ亦廣狹長短アリ、矢矧川ノ上谷、遠ク北境ヲ中斷シ、東北及西北ノ二大節ニ分割ス

東北境

東北境ハ、山大ニ谷深ク、脈絡稍直フシテ甚ク短ク、東西共ニ二水東ハ天龍河、西ハ矢矧河ハ天龍河ヲ限界トシ、北信濃ノ一隅伊奈ト相接シ、山巒錯雜、其疆界天然ノ水界線ニ從ハス、巨峯峻嶺、支脈ニ多シ、獨リ日原山中央ニアリ、稍高シ、此ヨリ内地ニ發スル一條ノ短支脈アリ、其方向ハ北設樂郡ノ中

鳳來寺山

鳳來寺山

央ヲ南行シ、始メニ隆起シテ御殿山高九六トナリ、左ノ間ニ二派脈ヲ分發シ、次テ又突起シテ明神山高一〇一トナリ、右ノ間リ、餘勢尙ホ南シテ豐川・瀧川ノ間ニ來リ更ニ大ニ崛起シ、鳳來寺山トナツテ盡ク、此山支脈ノ南端ニ位シ、山身廣大、樹林泉水ニ富ミ瀑布多シ、本州中本宮山ニ亞クノ高山ナリ、山中ニ全名ノ巨剎アリ、寺域廣濶、子坊多シ、勝境ヲ以テ稱セラル、其下又同名ノ塞址アリ、南長篠城ニ面シ、西縣道線伊奈街道ニ接ス、武田氏ノ支堡ナリ、信玄父子、南出ノ便ニ供スト云フ、天正元年三月、徳川家康、其將酒井忠次ヲ遣リ、攻メテ之ヲ陷ル、尋テ復、武田氏ニ歸ス、長篠ノ役、其將馬場信房等ノ一隊、國境山第四山徑ヲ踰ヘ、南縣道線前出ノ伊奈街道ヲ經テ此ニ屯シ、次テ大ニ長篠村ニ戰フ、案

田代

南又一小寨址アリ、田代塞ト稱ス、岩古屋山ノ上ニ位ス、初ハ菅沼氏ノ有タリ、尋テ武田氏ニ屬シ、後復徳川氏ニ歸スルト云フ

北境ヲ經過シ、北・信濃奈下郡伊ニ達スル山徑數條アリ、東方ヨリ次ヲ逐フテ左ニ掲ク

第一 天龍河ノ右岸上ヲ通ス、佐太村北設郡伊ヨリ坂部村伊

第二 栗世村北設郡伊ヨリ新野村伊ニ通ス、別所街道ト云フ縣道ナリ、信濃ニ之ヲ豐橋道ト稱ス

第三 日原山ノ東側ヲ通ス、上津具村北設郡伊ヨリ根羽村伊

第四 矢矧河上谷ノ左岸上ヲ通ス、信濃ニ之ヲ岡崎道ト稱ス、野入村北設郡伊ヨリ月瀬村伊ニ出ツ縣道ナリ、天正十年三月、織田信長ノ武田氏ヲ討滅スル、歩騎七萬此ヨリ入ル

以上四道、共ニ山中ヲ經過シテ、險隘零、相同シ、元龜、天正ノ際、武田氏屬、本國ヲ侵スノ進軍路ト云フ

東境脈

本脈ハ、御殿山出前ヨリ右出スルノ一派脈ニシテ、其方向始メハ、豊川上谷ノ北方ヲ繞ツテ後斜メニ西南シ、脈絡低高、幅甚々大ナラス、山脊零直フシテ遠江ノ境ヲ劃シ、遠シ海岸ニ至リ、餘勢尙西ニ轉シテ半島部美ノ中央ヲ起伏シ、終ニ伊良湖岬ニ盡シ、脈中ノ山、皆甚々高カラス、其西坡・豊川ノ左岸ニ傾キ、頗ル緩急アリ、沿河ノ地多



大道寺  
王寺二山  
ノ古址

鷲巢山  
城

少ノ凹凸ヲナス、其一凸處ヲ鷲巢山トヒトス五十凡百ト云フ、水川  
 ヲ隔テ、長篠城及ヒ大道寺・醫王寺二山村ニ山共ニ長篠  
 地ト云フ陣ト相對ス、姥ケ懷・君ケ伏床ノ二山ハ、其北ニ相  
 次キ南ニ接シテ久間山アリ、左岸ニ沿フテ相列起ス、菅  
 小山ナリ、古壘址アリ、天正三年五月、武田勝頼ノ長篠城  
 ヲ攻ムル、勝頼自ラ醫王寺山ニ陣シ、更ニ鷲巢山ニ築キ、  
 築キ、其族武田信實ヲ置キ、其他兵ヲ分ツテ久間山・大道  
 寺等ニ據守セシメ、四面長篠城ニ逼リ、又其糧道ヲ絶ッ  
 城中大ニ困ム、鷲巢山築、長篠城ヲ距ル大約八丁許、其位  
 置最モ堅固ナリ、山徑アリ、其東方ヲ通ス、背後ニ達スヘ  
 シ、松山越間道ト稱ス、凡九里許、吉川トハ八名郡吉川村以北、  
 溪壑山等沼ヲ迂回シテ頗險シ、信實等險ヲ特ニテ備ヲ設

ケス、徳川氏ノ將酒井忠次之ヲ知ル、乃チ輕兵三千ヲ率  
 ヒ、將卒皆甲ヲ脱シ、金森長近等ト夜ル竊ニ其營郡南設樂  
 村ヲ襲シ、二水田川川吉ヲ濟ツテ東方吉川村ニ出テ、更ニ  
 北シテ菅沼山ニ至リ、復甲ス、此間通路最モ險、又大雨ニ  
 遭フ、咫尺暗黒、土滑カニ岩銳シ、將卒衣甲皆濕ヒ、又其方  
 向ニ迷フ、菅沼定盈地理ヲ暗ニス、乃チ教導ヲナス、斷崖  
 ニ逢フ毎ニ皆樹根ニ繩シ魚貫シ登ル、兵卒大ニ疲ル、忠  
 次衆ヲ勵シ復進ム、黎明終ニ鷲巢山ノ背後ニ達シ、火ヲ  
 其寨ニ放テ鼓噪シテ進ニ攻ム、寨兵驚擾四散、忠次等追  
 擊、信實戰死シ、捕斬多シ、寨忽チ陥リ、火烟天ヲ衝ク、勝頼  
 ノ衆、長篠ニ戰フモノ之ヲ願ミ大ニ潰ヘ、諸壘久間山結  
 ノ將卒亦皆逃走ス

國境ヲ除ヘ、東・遠江へ通スル山徑數條アリ、北ヨリ次ヲ  
逐フテ左ニ列記ス

第一 東境ノ最北ニアリ、畑村北設郡ヨリ川上村遠江郡  
ニ出ツ里道ナリ

第二 巢山佐遠郡村八名ヨリ巢山村江引郡ニ出ツ里道ナリ、  
巢山ノ稱二村ニアリ、其本國ニ屬スルモノ山隘ニ在

テ小聚落ナリ、其高キ處古壘ノ址ヲ存ス、本道ニ臨ム、  
古へ西郷・奥山・中山ノ諸氏、相次キ之ニ居リ、國境ニ備

フト云フ  
第三 的場下峠越トス、齋巢山ノ東方ニ在リ、上吉田村八  
郡ヨリ黒田村佐遠郡ニ出ツ里道ナリ

第四 宇利利峠越トス、齋巢山ノ南方ニアリ、富岡村八  
郡ヨリ岡本村江引郡ニ出ツ里道ナリ

第五 狩宿峠越トス、黄揚村八名ヨリ奥山村江引郡ニ  
出ツ、永祿十一年、徳川家康既ニ本國ヲ零定シ、東・遠江

ヲ侵サント欲シ、其兵吉田城今橋ヲ登リテ此山徑ヲ  
除ニ

第六 萩平村八名ヨリ、平山村江引郡ニ出ツ、樵路ナリ

第七 本坂越トス、石巻山ノ東北ヲ通ス、嵩山村八名ヨ  
リ本坂村江引郡ニ出ツ縣道ナリ、三形原江ノ激戰後、

天正元年正月、武田氏ノ兵、此ヨリ本國ニ入り野田城  
樂南郡ヲ圍ム

第八 本坂越ノ南ヲ通ス、多米村八名ヨリ大知波村江引  
郡ニ出ツ里道ナリ

第九 新道ナリ、東海道ヨリ岐分シ、中原村郡温美ヲ經テ新所村知遠郡江敷ニ達ス、路稍濶フシテ險ナラス、車馬容易ニ來往ス

第十 東海道トス、本脈ノ稍南端ニアリ、二川郡驛温美ヨリ白須賀名遠郡江敷ヲ經テ新居港知遠郡江敷ニ達ス、即東海道ニシテ國道線號二ノ通スル所ナリ

中央脈

本脈ハ、御殿山ヨリ左發スル一派脈ナリ、始メハ西走シテ澧川右豐川納庫川左矢朝流川ノ二上谷ヲ界ヒシ、次テ南折シテ後、遙カニ西南ニ延キ、行、小派ヲ左右ニ分ツテ、五郡加茂設樂寶飯額ノ境ヲ劃シ、終ニ海灣ニ盡ク、脈中著大ノ山甚ク寡ク、基面亦隨テ廣カラス、但其方向ハ、東

千兩、其ノ址

北ヨリ斜メニ西南ニ連亘シ、本土ヲ東西ニ中分シテ、天然ノ二瀧城東瀧城ヲ造爲シ、其山脊自ラ本土ノ中央水界線ヲナス、其長、東境脈ニ比スレハ少シク短ク、而シテ派脈多シ、即、其小派ノ左發スルモノ其一、矢矧足助ニ助ニ水ノ間ニ延ヒ、其一稍、西北ニ連リテ、加茂・額田二郡界ヲ劃ス、而シテ其右發スルモノハ、僅カニ東南シテ、設樂・寶飯二郡界ヲ過キ、豐川ノ右岸ニ盡キ最モ短シ、然レハ其分發點ニ位シテ本宮山アリ、基脚廣大數里ニ跨リ、溪谷多シ、南、海灣ニ朝歸スル水、皆此ヨリ出ツ、本州中ノ大山凡一〇三尺七ナリ、國道號二ヲ隔テ、南、宮路山高七九ト相對シテ遙ニ秀ツ、南脚上、千兩ノ址・萩村等ノ諸壘築アリ、位置皆險、共ニ國道線號二ニ臨ム

本脈ヲ過クル山路數條アリ、其一、連谷村東加及ヒ小田、木村北設トス、縣道線飯田ノ通スル所ナリ、其二、大桑村、東加及ヒ黒瀬村南設其三、川尻村南設及ヒ上毛呂村、其四、北島村南設及ヒ宮崎村、其五、長澤村、中村田トス、東海道即國道線二ノ通スル所ナリ、西北境

西北境ハ、美濃諸山ニ屬シ、其形勢三國山ヲ中央トシ、此ヨリ、左右ニ延シカ如シ、其右ナルモノハ、脈絡東ニ延ヒテ、矢矧川ノ右岸ニ盡キ、山脊低フシテ基面北方ニ廣マリ、峻嶺ニ乏シ、嶺投山獨リ南坡中ニ秀出シ、西北・三國山本國及ヒ波ト相對峙ス、左リハ西南シテ境川ノ上谷ニ至リ、一派ヲ南登シテ碧海郡ノ西南ニ及ホシ、本脈ハ更

ニ轉シテ尾張ニ入り、知多郡ノ半島ニ迄ヒ、西坡ハ尾張ニ屬シテ、其傾斜頗緩シ、支脈數條アリ、河水故ニ疾カラズ、東坡ハ本國ニ屬シテ傾斜甚々急ニ、溪流概奔湍ナリ、國境ヲ經過シ、美濃及尾張ニ通スル山徑數條アリ、左ニ枚舉ス

- 第一 矢落峯ノ東南ニアリ、小村加茂ヨリ阿妻村、美濃
- 第二 三國山ノ東側ヲ通ス、白川村加茂ヨリ栢野村、美濃
- 第三 三國山ノ南側ヲ通ス、市野々村加茂ヨリ赤津村
- 第四 八草越トス、大畑村加茂ヨリ北熊村、尾張、知多、愛ニ出

ツ、里道ナリ

第五 境川ノ上谷ヲ横過ス、田初村郡加茂ヨリ米ノ木村

尾張愛知郡ニ出ツ、縣道ナリ

以下二道アリ、一ハ縣道街母ニシテ、一ハ國道東海ナリ、

共ニ境川ヲ濟ツテ路線ヲ通ス、其縣道ハ福田村郡海ヨ

リ都田村尾張ニ屬ス、國道ハ知立驛郡海ヨリ今岡村

上ヲ過キ東阿野村尾張知ニ達ス、此二道境川ノ水路ニ

屬スルヲ以テ此山徑中ニ列記セス

水論

澁域ノ區劃

山河天然ノ形勢、國分レテ東西二澁域ヲナス

東澁域ハ、中央脈ノ東ニアリ、西澁域ト中央脈ヲ以テ相

界シ、北東二方ハ、國境脈ノ南坡若クハ西坡ヲ以テ成リ、  
地形狹長、豐川之カ主流ニシテ、其南北ノ諸川又之ニ屬  
シ、南北設樂郡及八名・寶飯・渥美五郡ノ全地ヲ轄有ス  
西澁域ハ、中央脈ノ西ニアリ、其西北ハ、國境脈ノ東南坡  
ヲ以テ成リ、東澁域ト中央脈ヲ相界シ、地形稍方、矢矧河  
之カ主流ニシテ、境川等ノ諸水又之ニ屬シ、東西加茂及  
ヒ頼田・碧海・幡豆五郡ノ全土ヲ轄有ス

東澁域

地勢總括

此地山岳丘陵多キニ居リ、北部ハ路險ニ谷深ク、河岸ニ  
沿フテ、人家概聚落ヲナシ、雲霧毎ニ深フシテ氣候寒シ、  
中央以下、丘陵田圃相錯雜シ、地勢漸ク西南ニ低ク、土肥



ト云フ、信玄没後、尙勝頼ノ爲ニ守ル、七月、徳川家康來リ  
 攻ム、此城三方及東南水ヲ纏ラシ、北山ニ葦ハレ、位置頗堅  
 固ナリ、家康銳ヲ盡シテ之ヲ攻メ、僅ニ外城ニ勝テ、終ニ  
 拔ク能ハス、甲斐ノ兵、又北境信濃ヲ踰ヘ來リ援ク、家康  
 乃チ圍ヲ解キ、壘ヲ久間山山崎東境ノニ築キ、其將酒井  
 忠次ニ止リ成ラシメテ返ル、甲將馬場信房等來リ、久間  
 山ニ戰フ連晝夜、互ニ勝敗アリ、既ニシテ城内漸ク糧ニ  
 乏シク、信房等又兵疲ル、ナリ以テ退キ、黒瀬南設樂郡ノ  
 北城アノ西ニ屯ス、城中大ニ困ム、家康其弊ニ乘シテ復來  
 リ攻ム、城終ニ陥ル、家康其將松平忠昌ヲ置キ、次年二月  
 ニ至リ、奥平信昌ニ與フ、勝頼之ヲ聞キ大ニ怒リ、大舉シ  
 本國ニ入り、必ラス城邑ヲ復セント欲ス、兵ヲ分ツテ

巢山王寺大通寺久間君ケ伏床等ノ各所ヲ扼守シ、  
 四面長篠城ニ迫リ、又其糧道ヲ絶ツ、信昌衆ヲ屬シ孤城  
 ナ堅守シ、防禦屈セズ、屢敵兵ヲ退ク、既ニシテ家康織田  
 信長ト大衆ヲ合シテ來リ援ケ、勝頼ト大ニ城ノ西南海  
 原ニ戰フ、信昌城ヲ出テ夾ミ撃テ、大ニ甲兵ヲ敗ル、豊河  
 次テ西南シ、行、左右ニ數小流ヲ納レ、河路カサ設樂シラ新城シラ等ノ  
 數村以上共右岸ニ設樂郡ヲ過ク、縣道線一ハ伊奈所街道道河  
 岸ノ左右ニ沿フ、左岸ノ地稍險、新城村ハ縣道線伊奈街道ニ  
 臨ンテ、人家多シ、人口二千、南設樂郡ノ名邑ナリ、警察署  
 電信分局アリ、又郡役所ヲ置ク、南設樂郡新城以北、二水  
 豐川ノ交會ニ至リ、右岸ノ地丘陵起伏、田野樹林其間ニ  
 錯雜シテ、地勢大ニ西南ニ開ケ、一大波狀ヲナス、有海村

樂南郡北ニアリ、瀧川ヲ隔テ、長篠村ト相近シ、其近地最モ坦、有海原ノ稱アリ、長篠ノ役、甲ノ敗兵此ニ聚リ、次テ瀧川ヲ濟ツテ北走スト云フ、清井田村其西南ニ連ル、當初、勝頼醫王寺山ノ本營長篠城北ヲ出テ、自ラ進ムコト十  
余丁、瀧川ヲ濟リ有海原ヲ經テ此ニ陣シ、又移ツテ其西、淺木村ノ東ニ屯シ、一水ヲ南ニ控ヘ、一丘陵上ニ據リ、以テ陣ス、總兵步騎一萬五千余、之ヲ勒シテ十三隊トシ、夜半傳發、中軍ノ先隊、水ヲ渡ツテ前ニアリ、内藤昌豐之ニ將タリ、原安中ノ諸將之ニ次キ、織田氏中軍ノ先隊ト南北相對ス、森長村其西ニアリ、馬場信房、右翼ヲ統ヘ此ニ陣ス、土屋眞田・一條穴山ノ諸將之ニ次キ、南、織田氏ノ左翼ニ向フ、信元村ハ中軍ノ東ニアリ、山縣昌景、左翼ヲ統

ヘ此ニ陣ス、小山田・小幡・跡部ノ諸將、又其東ニ相次キ、南、徳川氏ノ陣織田氏右翼ニ向フ、極樂寺山ハ新城村ノ西北ニアリ、平地中一堆ノ凸處ナリ、當初、信長本營ヲ此ニ置シ、其西北ヲ矢部村ト云フ、一水ヲ隔ツ、信忠ハ其三神山ニ、信雄ハ其御堂山ニ陣ス、信長尋テ茶臼山矢部村ノ西北ニ屬ニ移リ陣シ、勝頼ノ本營ト南北遙ニ相對シ、柴田・丹羽・不破・徳山等ノ諸將之ニ從フ、瀧川一益其前部ヲ統ヘ、新ニ柵ヲ前面ニ構ヘ、内藤昌豐ノ陣ニ對ス、明智光秀・木下秀吉・佐久間信盛等、左翼ニ將タリ、北、馬場信房ノ陣ニ對ス、徳川家康・父子其將卒ヲ率ヒテ、織田氏ノ右翼ニアリ、家康ハ彈正山竹廣村ニ、其子信康ハ松尾山上ニ陣シ、共ニ一水連吾ヲ前ニ控ヘテ高キニ據ル、其將・大久保忠



世・忠佐等、又其先鋒タリ、水川連吾ヲ濟ツテ川路村ニアリ、  
 山縣昌景ノ左ニ向フ、總兵步騎七萬余、之ヲ勒シテ十五  
 隊トス、兩軍ノ先隊相距ル僅ニ十二三丁許、北軍武田氏  
 素ヨリ騎戰ヲ喜フ、二十一日、黎明其先隊直ニ稀突シ來  
 ツテ南軍織田德川ノ柵ヲ破ル、南軍殆ント敗ル、信長諸  
 隊ニ令シテ、一齊ニ銃ヲ發シテ之ヲ防シ、万雷ノ響キ山  
 谷ニ震フ、北軍屈セス烟ヲ衝ヒテ復進ミ、激戰良久シ、既  
 ニシテ北軍ノ良山縣銃丸ニ當ツテ斃ル、者多シ、陣  
 脚稍亂ル、南軍之ニ乘シテ柵外ニ出テ鼓噪齊シク進ム、  
 北軍支ヘス、終ニ大ニ敗レテ北走シ、瀧川ニ陥リ、溺死算  
 ナシ、勝頼僅ニ一二騎ヲ從ヘ、瀧川ニ沿フテ西・黒瀬村設  
 樂北郡ノニ逃レ、菅沼城黒瀬ノ北ニ入ル、史ニ謂フ長篠ノ

野田城址

野田城ノ  
攻守

役即チ是ナリ、豊河次テ野田村ノ東ヲ過シ、村ニ野田城  
 ノ舊址ヲ存ス、永祿中、菅沼定盈之ニ居リ、初ハ今川氏ニ  
 屬シ、後徳川氏ニ降ル、屢今川氏ト戰フ、天正元年正月、武  
 田信玄、步騎三萬五千ヲ率ヒ、三方原江ヨリ西・本坂東越  
 山第六ヲ歴テ來リ圍ミ、攻具ヲ悉シテ晝夜疾ク攻ム、外  
 城陥ル、城主定盈、援將松平忠正ト堅ク内城ヲ守ツテ降  
 テス、信玄乃チ鹿砦ヲ環ラシ、地道ヲ鑿チ、以テ井泉ヲ絶  
 ツ、家康甲兵ヲ憚リ、退キ吉田城源ニ屯シ、援ヲ織田氏  
 ニ乞フ、信長モ亦出テス、城中益困ム、既ニシテ城兵夜ル  
 敵ノ一將ヲ城外ニ銃殺ス、蓋シ信玄ト云フ、敵來リ城ヲ  
 致スヲ諱ス益切ナリ、定盈・忠正終ニ守ル可ラサルヲ計  
 リ、其約ヲ定ム、城ヲ出ル比ヒ、伏起リ虜セラル、二將尋テ

山白子  
ノ二寨址  
中市場  
定池  
根古屋  
古屋

故主ニ歸シ、信玄没後、城復、徳川氏ニ屬ス、其位置甚、要害  
ナラス、野壘又卑シ、後長篠ノ役、織田信長本城ヲ過キ、普  
ク其形勢ヲ觀察シ、定盈ヲ招キ、深ク昔日城守ノ勞ヲ稱  
スルト云フ、城ノ近傍壘築ノ古址多シ、杉山・白子ノ二寨  
址ハ、西北ニアリ、白子寨稍隔ル、定池・根古屋・中市場ノ三  
寨址ハ、東南ニアリ、中市場塞最モ近ク、定池寨稍遠シ、其  
址ヲ屋形谷ト號ス、根古屋寨中間ニアリ、永正中、菅沼定  
則築キ而テ之ニ據リ、其孫定盈ニ至リ、亦信玄ノ陷ル所  
トナルト云フ、三寨皆右岸ニ沿フテ、南北ニ通スル縣道  
線伊奈ニ臨ム、以上ノ數寨以下山寨初ハ今川氏ニ屬シ、中  
コロ武田氏ニ降り、後終ニ徳川氏ニ歸ス、豊河次テ宇利  
川下ニテ左ニ納レ、僅ニ寶飯郡ニ入ツテ、松原村ノ東ニ

加茂和田  
高井三寨  
馬越及  
西川城址

松原日下  
部三渡野  
一ノ宮城

至リ、右ニ寶川ヲ納レ、水路南ニ屈曲シテ左ニ一水ヲ納  
レ、八名・寶飯二郡ノ界ニ出入シ、河幅漸ク廣フシテ、水流  
漸ク遅ク、兩岸ノ地甚ク險峻ナラス、水ヲ夾ンテ城塞ノ  
古址多シ、加茂・和田・高井ノ三塞ハ左岸ニ屬ス、馬越、寨其  
間ニ位シテ稍東ニ隔タル、西川城其東北ニアリ、此城・天  
文以降、天正ノ初ニ至リ、西郷氏累代種良・吉良ノ據シ所  
ト云フ、西・加茂塞ヲ距ル遠カラズ、皆高處ニ位ス、右岸ニ  
松原・日下・部・三渡野等ノ數寨アリ、三橋・瀬木・行明ノ三塞  
址ハ、又其西南ニ相列シ、一ノ宮城址ハ、西北ニアリ、三橋  
皆寶飯郡縣道伊奈ニ臨ム、永祿七年三月、徳川家康築キ、  
而テ其將本多信俊ヲ置キ、東方ニ備フ、五月、今川氏眞、步  
騎一萬余ニ將トシ、本國ニ入り、其五千ヲ以テ本城ヲ圍

牛久保城

ミ、氏真自ラ其余ニ將トシ、進ミ佐脇・八幡郡一城・宮村ニ・豊飯ノ・南ニ・間ニ至ル、既ニシテ家康來リ援ケルト聞キ、退キ牛久保城實飯郡一宮村ニ屯ス、圍。又解シ、信俊尾撃シ斬獲多シ、牛久保城址ハ、其西南ニアリ、二道南ハ東海道北ノ間ニ位ス、弘治年間、牧野成定右馬ノ居城タリ、今川氏ニ屬ス、永祿四年四月、吉良義昭ノ德川氏ニ叛ク、成定當時西尾城細豆ニアリ、義昭ニ應ス、酒井正親ノ攻ムル所トナリ、守禦畢ヘス、東走シテ此城牛久保城ニ保シ、復、今川氏ノ爲メニス、尋テ德川氏ニ降ル、小田原ノ役後、其子康成大胡上野ニ移リ、此城廢ス、豊河次テ俄ニ西折シ、左ニ朝倉川ヲ納レテ、豊橋五百口ニ北ヲ過キ、國道線二ヲ横截ス、此地舊、吉田ト稱ス、市街左岸ニ沿フテ、東西ニ濶シ、

豊橋市街

吉田城址

東凡八丁了治安裁判所・警察署・電信分局等アリ、又郡役所ヲ置ク海美郡大河内氏ノ舊治所ニシテ、東海道ニ列スルノ一名邑ナリ、名古屋鐵道第五師管ノ分營ヲ置ク、城アリ、三方東及南人家ヲ繞ラシ、其一邊亦水ニ濱ス、外郭零方、河水ヲ引イテ壕トナス、古ヘ牧野成時後古柏築ク所ニシテ、始メ今橋城ト號ス、平地ニ位ス、成時自ラ此城ニ居リ、其族右馬允牛久保城出前ヲ守ル、成時・戸田彈正美郡田原ト隙アリ、今川氏親、彈正ヲ援ケテ今橋城ヲ攻ム、永正三年十一月、城陥リ成時之ニ死ス、城今川氏ニ屬ス、成時ノ子傳三信成、兵ヲ起シテ其城邑ヲ復シ、亦本城ニ居リ、東三河ノ地ヲ併ス、兵勢頗ル振フ、享祿五年五月、松平清康額田郡阿崎兵三千ヲ率ヒ來リ、下地村ニ

屯シ、火ヲ其民家ニ放ツ、其地水ヲ隔テ、城北ニアリ、右岸ニ連ル、傳三・烟ヲ望ミ衆ヲ悉クシテ城ヲ出テ、直チニ敵陣ヲ衝カント欲ス、時ニ霖雨連日、豊河大ニ漲リ、流レ疾キ、矢ノ如シ、騎渡スヘカラス、乃チ更ニ舟筏ニ乗シ、激流ヲ横過シテ、直チニ對岸ニ達ス、敵兵衆多、殆ント當ル可カラズ、傳三令シテ、船ヲ棄テ筏ヲ毀ツテ衆心ヲ一ニス、其兵一千、疾ク進ンテ敵陣ヲ衝キ決戦ス、兵鋒甚タ鋭シ、兩軍互ニ死傷アリ、激戦良久、然レモ衆寡敵セス、傳三終ニ其族傳次新藏ト皆戦没ス、清康ノ兵、勝ニ乘シ馳セテ上流ヲ濟リ、吉田城ニ薄ル、守城ノ兵極メテ寡シ、僅ニ七又逃ル、モノアリ、城忽チ陷ル、清康衆ヲ整ヘ城ニ入リ、西・田原城田原郡ヲ降ス、後、清康ノ守山又杜山ニ尾張春日

井郡ニ弑セラル、本國ノ諸城、廣忠ニ叛ク者多シ、此城亦今川氏ニ屬ス、徳川家康ノ西三河ヲ平ク、永祿七年五月、兵ヲ東三河ニ移シ、頓ニ諸城寨ヲ陷レ、勢ニ乘シテ屢來リ薄ル、小原鎮實、今川氏ノ爲メ堅ク此城ヲ守ル、防禦法アリ、俄ニ陷ラス、然レモ四近ノ地、概敵川ノ有ニ歸シ、又援兵ナク、食且竭ク、鎮實終ニ城ヲ開ク、家康其將酒井忠次ニ與ヘ、東境ノ要鎮トシ、屢武田父子信玄ノ兵ヲ防ク、家康ノ關東ニ移ル、豊臣秀吉更メテ池田輝政ヲ封ス、關原役後、松平・水野・小笠原・久世・牧野等ノ數氏ヲ歴テ、正徳二年以降、大河内氏世襲ノ治城タリ、今ハ廢額ニ委ス、其西北ニ木橋ヲ架ス、豊橋ト云フ長八十四間、國道線二東海ヲ互續ス、豊河次ヲ西流シテ、二郡界寶飯ヲ劃シ、水

路甚々蜿蜒セス、高須新田ニ至テ海ニ朝ス、長・大約十七里半、河口廣潤殆ト三丁、其形勢小港ヲナシ、水淺カラス、船舶ヲ泊ス可シ、此ヨリ以上、豐橋ニ至ル兩岸ノ地、頗ル開潤シ、河水甚疾カラス、蒲湖畧、河床ヲ盈シ、舟楫自由ニ來往ス、一水アリ、河口ヲ同フシ、一小島ヲ其間ニ露出シ、畧、其界ヲナスカ如シ、高橋川ト云フ、其源牛久保村實飯郡ヨリ澄陽シ、西南ニ流レテ小坂井村實飯郡ヲ過キ、國道線ニテ横截シ、次テ左ニ二小流ヲ受ケ、前芝村實飯郡ニ至ッテ海ニ朝ス、小坂井村ハ、生久保・豐橋ノ中間ニアリ、其龍徳院内ニ一築址ヲ存ス、水祿五年六月、徳川家康ノ吉田城出前ヲ攻ムル、新ニ一築ヲ此ニ築キ、牛久保城ノ援路ヲ絶ッ、粕塚・樂即是ナリ、其位置二道國道ノ交互點ニ臨ム、

小坂井築址

上島城址

要地ナリ、享祿ノ初、松平清康ノ吉田城ヲ攻ムル、亦此ニ陣スト傳フ、伊奈村其西ニ接ス、村ニ上島城ノ遺址アリ、縣道平坂ニ臨ム、本多忠俊父子此ニ居ルト云フ

右朝流

第一 寒狹川又澮川ト云フ、源ヲ田峯山北設郡ノ東北谷ニ發シ、東南ニ下ッテ大名倉村北設郡ヲ過ク、村ニ清水城ノ古址アリ、東方二道縣道ノ岐分點ニ當ス、天正ノ初、名倉喜八郎之ニ居リ、武田氏ニ屬ス、十年七月甲州ノ亂、喜八郎・本多信俊ニ從ヒ、信州ニ死シ、城尋ト廢ス、次テ左ニ境川ヲ納ル、其源・田枯村大名倉村ノ東北ニ發シ、西南ニ流レテ縣道線伊奈ヲ横截ス、鉾塚築址ハ其北・山上ニアリ、天正ノ初、戸田・松島等ノ諸氏、相次キ之ニ居ルト云フ、寒

清水城址

鉾塚築址

龍城址

狭川。次テ西南ニ彎流シテ田峯村ヲ過ク、龍城ノ舊址ハ  
 右岸ノ山脚上ニアリ、古ヘ稱スル所ノ山家三方中ノ一  
 城ニシテ、其位置、設樂郡ノ北部ヲ占メ、長篠・築手ノ二城  
 ト三方鼎足ノ形勝ニ據ル、史ニ謂フ所ノ田峯、築即、是ナ  
 リ、戰國以降菅沼氏奕世之ニ據リ、傍近ノ壘寨ヲ統轄シ  
 テ武田氏ニ屬シ、後、徳川氏ニ歸ス、此ヨリ以上、水路・段戸  
 山ノ東方、テ環流シテ諸溪水ヲ合シ、岸峻シク、流疾シ、縣  
 道線伊奈僅ニ其左岸ヲ通ス、次テ一水ヲ右ニ納レ、水路  
 漸ク東南ニ轉シテ、恩原村ヲ過ク、同名ノ寨址アリ、次テ  
 足持村ニ至ツテ又右ニ一水ヲ納ル、其上流ヲ西端川ト  
 云フ、源ヲ南設樂郡ノ西境ニ發シ、始メハ東南ニ流レテ  
 中央脈ノ東坡ニ沿ヒ、其凹谷ハ、新城、長者平・間ノ山徑、  
 道里

恩原寨址

龜山古宮  
ノ二城址

ナ開キ、市場・兵庫等ノ數村ヲ過ク、二村各、二城寨ノ舊  
 址ヲ有ス、其市場村ニアルヲ、龜山城ト云ヒ、古宮城ト云  
 フ、二城相距ル甚ク近シ、其古宮城ハ、馬場信房ノ經始ト  
 傳フ、天正ノ初、甲將・小幡・甘利・大熊等ノ數氏交、モ代リ之  
 ナ守ル、其址今ハ樹林トナル、龜山城ハ、奥平氏ノ舊城ナ  
 リ、築造最モ古シ、戰國ノ時、奥平八郎左衛門、上野ヨリ移  
 リ、川尻村樂郡ニ住シ、尋テ本城ヲ市場村ニ築キ、以テ子  
 孫出羽、玄孫左衛門、孫ニ傳フ、族大ニ、士多シ、此邊、往時ハ總  
 テ作手郷手築ト稱ス、故ニ城亦其名ヲ用フ、史ニ稱スル  
 所ノ築手城即チ是ナリ、徳川氏ニ屬ス、武田信玄ノ本國  
 ナ侵ス、城主道文、其強盛ヲ恐レテ之ニ降ル、其位置、設樂  
 郡ノ西方ニアリ、郡中長篠及田峯二城ト三方相對シテ

各要害ヲ占ム、故ニ當時稱シテ山家三方ト云フ、信玄死  
 シ、長篠城陷ルニ迄ヒ、貞能父子、道文ニ勸メテ復讐ヲ圖  
 ル、謀・稍・泄ル、甘利晴吉來リ内城ニ居リ、道文ニ外城ヲ守  
 ラシム、武田信豐ノ營ハ、其北・黒瀬村ニアリ、甚・遠カラス、  
 信豐試ニ貞能ヲ召ス、貞能馳セ至リ之ト盟ヒ、又棋ヲ圍  
 ミ、從容・局ヲ畢ヘテ出ツ、既ニシテ擧族・夜ニ乘シテ西走  
 シ、龜穴城額山田村ニ據リ、徳川氏ノ援兵本多廣ト合シテ、  
 武田氏ノ追兵ヲ反シ撃テ、進ニ築手城即・山田郷ヲ攻メ、晴吉  
 ト戰ヒ復之ヲ破リ、又田原坂ヲ踰ヘ、火ヲ島田郷今ノ島  
 近ニ放テ、援將本多廣ト兵ヲ收メテ濱松ニ返ル、勝頼聞  
 テ大ニ怒リ、終ニ長篠ノ役アリ、當時信昌・長篠城ヲ守ツ  
 テ功アリ、役後・家康仍テ信昌ニ與フ、西端川次テ東北ニ

大和田  
 瀨布里ノ  
 岩址

轉折シテ、大和田・瀨布里等ノ數村ヲ流レテ、寒狹川ニ  
 朝ス、此水・設樂郡ノ西南部ヲ激流シ、山疊リ谷深シ、山路  
 開ケス、人烟隨ツテ繁カラズ、三村大和田・瀨布里皆壘寨ノ址  
 アリ、古ヘ菅沼・與平二氏ノ支堡ト傳フ、寒狹川次テ山隘  
 ナ屈曲シテ東南ニ流レ、鹽谷村ニ至ツテ、左ニ玖老瀨川  
 ナ納ル。其水・北・小野村ノ山中ヨリ濫觴シ、風來寺山ノ西  
 方ヲ南ニ流レテ、水路屢、縣道線伊奈街道ヲ截流シ、岸高シ、水  
 疾シ、數橋ヲ架シ、縣道線伊奈街道ヲ通ス、市場橋最モ長シ、  
 八間幅木橋ナリ、寒狹川數流ヲ合シテ、河幅漸ク廣マリ、  
 東南ニ流レテ、横山村ヲ過ク、橋アリ、寒狹橋ト云フ、  
 二間余幅木橋ナリ、縣道線伊奈街道ヲ互續ス、次テ大海・有海等  
 ノ數村ヲ過キ、長篠村ノ南隅ニ至ツテ、豐河ニ朝ス、此上

出澤村  
址

流・深山中ヲ經過シテ、水路頗ル蜿蜒シ、山徑羊腸高低多シ、中流以下、兩岸次第ニ開ケ、路甚險ナラス、其大海及ヒ有海以西ノ地、豊河ノ右岸ニ連ツテ地勢大ニ開ケ、丘陵樹林相錯リ、小流數條僅ニ其間ヲ過キ、其大勢、山圍中。一大波狀ノ曠野ヲナス、即、長篠役ノ戰地ナリ、出澤村ハ、大海村ノ西ニ隣ス、村ニ菅沼氏支堡ノ址ヲ存ス

第二 連吾川ハ、寒狹川ノ南、細流中ニ在ツテ稍、著名ナリ、源ヲ須長村南郡ノ西山中ヨリ發シ、零、東流シテ竹廣村ヲ過キ、河路村ニ至ツテ縣道線伊奈ヲ横截シ、右ニ一水ヲ納レテ豊河ニ朝ス、長篠ノ役、此水・南北二軍北ハ織田、南ハ武田ノ軍界線ヲ劃ス、南軍右岸ニ沿ヒ、柵ヲ構フル三重、北軍ノ來リ追ルヲ待ツテ、柵内ヨリ銃ヲ發シ、以テ北軍

長山足山  
田二村ノ  
址

一宮松原  
ノ二塞址

ヲ防クト云フ、北將・山縣昌景・土屋直村等、皆其左岸ニ斃ル、其地・竹廣村ニ屬ス、稍、高キ所ニ廣瀬寨ノ遺址アリ、是ヨリ先キ、設樂守通ノ守リシ所ト云フ

第二 室川ハ、寶飯郡ニアリ、亦小流ナリ、源ヲ本宮山ノ西・中央脈ノ南坡ニ發シ、南流シテ縣道線伊奈ヲ横截シ、一宮驛ノ東ヲ過キ、流末屈曲シテ松原村ノ南ヲ繞リ、豊河ニ朝ス、長山・足山田ノ二村ハ上流ノ兩岸ニ沿フ、二村共ニ壘寨ノ舊址ヲ存ス、其位置中央脈ノ南坡ニ屬シ、地勢頗ル北ニ高シ、南ニ下ツテ一宮・松原ノ二塞址アリ、一宮塞右岸ニアリ、縣道線ニ臨ミ、松原寨流末ニ接シテ、東方ハ豊河ニ面ス、橋アリ一ノ宮村ニ架ス、寶橋ト云長七間十

余間縣道線伊奈街道ヲ通ス



左朝流

左朝流頗ル多シ、然レモ國境東境本河河ト相距ル甚近  
 キヲ以テ、概シ短小ノ溪流ニ過キス、今北ヨリ次ヲ逐フテ、  
 其稍著ル、者ヲ左ニ摘記ス  
 第一 阿寺川ノ源ハ、同名ノ七瀑ナナタケ布フ村ハ名ナ郡郡果山ヨリ成  
 リ、上谷險隘、第二山徑東境ヲ開キ、水路屈曲シテ東南ニ  
 下リ、大野村ニ至ツテ縣道線別道所所ヲ横截シ、豐河ニ朝ス  
 第二 黃柳川ハ、黃柳村八名ノ山中ヨリ濫觴シ、始ハ東  
 北ニ流レテ國境ニ並行シ、下吉田村ニ來ツテ一水ヲ右  
 ニ納ル、此村山徑ノ集合點ニアリ、之ヨリ一水ニ沿フテ  
 東スレハ、的場越東境三山徑第ニ達スヘシ、次テ俄ニ西流シテ、  
 鹿巢山北ノ北村乘本本ヲ過キ、縣道線別道所所ヲ截流シテ、豐河ニ

朝ス

第三 大入川ハ、黃柳村ノ西山中ヨリ濫觴シ、西南ニ下  
 ツテ吉川村ヲ過キ、次テ日吉村ニ來ツテ、縣道線別道所所ヲ  
 横截シテ豐河ニ朝ス、日吉村、往時ハ鹽澤・島原二村ニ分  
 ル、岩廣設樂二村南郡設ト東西豐河ヲ隔ツ、此ヨリ以東、吉  
 川村ヲ經テ、竹輪及吉田二村ニ達ス、長篠ノ役、酒井忠次  
 等ノ鹿巢山ヲ襲フ、岩廣村ヨリ豐河河川時ト云フ、廣ヲ濟  
 ツテ吉川村ニ至リ、此ヨリ北方溪壑ヲ經過シテ、終ニ敵  
 寨ニ達スト云フ、此路大約九里許、吉川以北實ニ險隘ヲ  
 極ムト傳フ  
 第四 宇利川ハ、小畑村黃柳村ノ山中ヨリ濫觴シ、西南  
 ニ流レテ中宇利村又宇ヲ過ク、此村國境ニ接連シ、山

左朝流

左朝流頗ル多シ、然レモ國境東境本河河ト相距ル甚近  
 キヲ以テ、概概短小ノ溪流ニ過キス、今北ヨリ次ヲ逐フテ、  
 其稍著ル、者ヲ左ニ摘記ス  
 第一 阿寺川アヂカハノ源ハ、同名ノ七瀑ナナタケ布フ八名ハチナ郡郡巢山ナシヨリ成  
 リ、上谷險隘、第二山徑東境ヲ開キ、水路屈曲シテ東南ニ  
 下リ、大野村ニ至ッテ縣道線別所ヲ横截シ、豐河ニ朝ス  
 第二 黃柳川ワウリウハ、黃柳村八名ノ山中ヨリ濫觴シ、始ハ東  
 北ニ流レテ國境ニ並行シ、下吉田村ニ來ッテ一水ヲ右  
 ニ納ル、此村山徑ノ集合點ニアリ、之ヨリ一水ニ沿フテ  
 東スレハ、的場越東境三山徑ニ達スヘシ、次テ俄ニ西流シテ、  
 鷲巢山トビノノ北村乘木村ヲ過キ、縣道線別所ヲ截流シテ、豐河ニ

朝ス

第三 大入川ハ、黃柳村ノ西山中ヨリ濫觴シ、西南ニ下  
 ヲテ吉川村ヲ過キ、次テ日吉村ニ來ッテ、縣道線別所ヲ  
 横截シテ豐河ニ朝ス、日吉村、往時ハ鹽澤・鳥原二村ニ分  
 ル、岩廣設樂二村南設ト東西豐河ヲ隔ツ、此ヨリ以東、吉  
 川村ヲ經テ、竹輪及吉田二村ニ達ス、長篠ノ役、酒井忠次  
 等ノ鷲巢山ヲ襲フ、岩廣村ヨリ豐河岩時川ト云フ、廣岩ヲ濟  
 ヲテ吉川村ニ至リ、此ヨリ北方溪壑ヲ經過シテ、終ニ敵  
 寨ニ達スト云フ、此路、大約九里許、吉川以北實ニ險隘ヲ  
 極ムト傳フ  
 第四 宇利川ハ、小畑村黄柳ノ山中ヨリ濫觴シ、西南  
 ニ流レテ中宇利村ニ又宇作理ヲ過ク、此村國境ニ接連シ、山



仁連木城

木村郡美ヲ過キ、飽海村上全ニ來ツテ縣道線川道所ヲ横截シ、流末豐橋驛出前ノ東北ニ接シテ豐河ニ朝ス、中央以下兩岸零垣、流甚々疾カラズ、仁連木村ハ末流ノ左岸ニ沿フ、村ニ一城址ヲ存ス、西吉田城出前ニ近シ、天文十年、戶田憲光築キ而テ其族主殿等之ヲ守リ、今川氏ニ屬シ、屢徳川家康ト戰フ、永祿七年、小原鎮實ノ吉田城ニ鎮スル、諸將士服セス、概徳川氏ニ應ス、主殿亦此城ヲ以テ家康ニ屬シ、吉田城ヲ攻メ克タスシテ死ス、子ナシ、家康命シテ其姪・孫六ニ後ヲ受ケシメ、更ニ姓名ヲ與ヘテ、松平康長ト改メ、亦此城ニ置シ、吉田城、徳川氏ニ歸スルニ及ヒ、仁連木城ヲ用テ其東支堡トシ、共ニ東南境ニ鎮スト云フ

豐河以北ノ諸川

白鳥山

大平寺脇ノ岩址

豐河ノ北・國境ニ近フシテ二小流アリ、其東ニアルヲ黒川ト云ヒ、西ニアルヲ納庫川ト云フ、左ニ揭シ

第一 黒川ハ、天龍河江邊ノ右朝流ナリ、其上流ヲ血食川ト云フ、源ヲ上津具村北股ノ山中ニ發シ、東南ニ下ツテ、下津具村ヲ過シ、白鳥山左岸ニアリ、同名ノ寨址ヲ存ス、本郡諸道ノ中集點ニ臨ム、天正ノ初、武田氏ノ將、中村・長谷川等ノ諸氏、相次キ之ヲ守ルト傳フ、次テ左右ニ諸溪流ヲ納レ、水路屈曲シテ兎鹿島村トカシヲ過シ、同名ノ木橋ヲ架ス、幅一六間、縣道線街道所ヲ互續ス、次テ俄ニ南折シテ、右ニ谷川ヲ納レ、天龍河ニ朝ス

第二 納庫川ハ、矢作河ノ左朝流ナリ、大久保村北股ノ中、央ノ山中ヨリ濫觴シ、諸溪流ヲ合シテ西北ニ赴キ、大平

武節寨址

寺脇等數村ヲ過ク、此間三寨址アリ、其二ハ、寺脇村ニ屬シ、其一ハ、大平村ニアリ、古ヘ小應、寨ト呼フ、天正ノ初、共ニ武田民ニ隸シ、位置皆險、又北境ノ要路ニ臨ム、納庫川、次テ北流シテ稻橋、武節二村間ヲ過ク、橋アリ、大橋ト云フ、長一十四間、木橋ナリ、縣道線、飯田ヲ互横ス、武節村ニ二寨址アリ、共ニ菅沼氏ノ支堡ト云フ、始メ武田氏ニ屬ス、後徳川氏ニ歸ス、次テ左ニ一水ヲ納ル、其上谷ハ、西瀧域ニ通スル山徑ヲ開キ、水路頗、蜿蜒シテ、屢、縣道線、飯田ヲ截流ス、納庫川次テ山隘ヲ西北ニ彎流シ、川手村ヲ過キ、矢作河ニ朝ス、此村亦同名ノ寨址ヲ有ス、東南、武節、寨ト相近シ、古ヘ川手大藏之ニ居リ、亦武田氏ニ屬スト云フ、

第三 音羽川ハ、豊河下流ノ北ニアリ、其地、寶飯郡ニ屬

川手營址

長澤村二城址

ス、源ヲ長澤村ノ西、中央脈ノ東、坡ヨリ發シテ、千束川ト稱シ、長澤村ヲ過キテ、國道線、東海ト相沿フ、長澤村郡界、額田ニ接連シ、其地高低畧、相半ス、二城址アリ、南ニアルハ、松平氏祖先ノ世襲セシ古城ニシテ、南ニアルヲ鳥屋根城ト云フ、始メ粕谷善兵衛、今川氏ノ爲メ、此城ヲ守ル、永祿四年七月、徳川家康、別將ヲ遣リ、攻メテ之ヲ陷ル、音羽川次テ赤坂驛ノ西北ヲ過キ、國道線ヲ横截シ、次テ東南ニ流レテ、御油驛、三百一十八ノ北ヲ過ク、此驛、警察署及郡役所、寶飯郡アリ、驛南ニ接シテ、古寨址アリ、又其南ニ茂松、寨、茂一、松重、村ニ作ルノ舊址ヲ存ス、位置共ニ高シ、次テ南折シテ、國道線、東海ヲ横截シ、國府村ヲ過ク、此村古ヘ國府ノアリシ所ニシテ、寶飯郡ノ中央、三、道、國、道、縣、道、交互

御油及茂松ノ寨址

ノ要點ニアリ、地勢西北ニ閉テ、舊城寨<sup>長澤御</sup>油<sup>多ク</sup>東南ニ開キ、古戰場<sup>八幡白</sup>ニ富ム、次テ南流シテ一水ヲ納ル、其上流ハ白川・西瀬・古川・帶川ノ三水ヨリ成ル、其源皆北中央脈ノ南坡ヨリ出テ、共ニ西南ニ下ツテ、二道線<sup>縣國</sup>ヲ截流シ、上佐脇村ニ合シテ、終ニ西音羽川ニ朝ス、市田<sup>市田八幡</sup>八幡<sup>村ノ新</sup>・梶村等ノ數寨址ハ、其三水古川<sup>西瀬</sup>・帶川<sup>間</sup>ニアリ、位置甚高カラス、皆縣道<sup>本坂</sup>ニ臨ム、永祿ノ初、或ハ今川ニ附シ、或ハ徳川ニ屬ス、八幡・市田ノ間、地勢最モ開ク、本野原ノ稱アリ、即チ當時ノ戰地ナリ、音羽川、既ニ一水ヲ合シテ河幅頓ニ廣マリ、尙南流シテ縣道線<sup>平坂</sup>ヲ横截シ、御馬・佐脇二村間ヲ過キ海ニ朝ス、二村各城寨ノ舊址アリ、御馬寨址ハ最モ近シ、池田輝政ノ吉田城ニ主タル、其臣

市田八幡  
村ノ新

御馬佐脇  
二寨址

山田左衛門之ヲ守ルト傳フ、佐脇城址ハ稍遠ク、永祿ノ初、板倉彈正之ニ據ル、五年九月、彈正・徳川家康ト赤阪<sup>赤坂</sup>ニ戰ツテ之ニ死シ、城又陷ル、後今川氏ノ有タリ、七年、氏眞修シ、而シテ其將三浦左馬ヲ置キ、牛久保・吉田二城ノ進堡トシ、徳川氏ニ當ツ、二寨<sup>御馬</sup>共ニ平地ニアリ、南海灣ヲ控ヘ、共ニ縣道線<sup>平坂</sup>ニ臨ム、音羽川以西、郡界<sup>豆田</sup>ニ至ルノ間、尙數流アリ、然レハ山脈<sup>中央</sup>及<sup>山脚</sup>近ク海岸ニ迫ルヲ以テ、其水路皆極メテ短ク、概北出南下シ、直チニ海ニ朝スル細小流ニ過キス、故ニ其地東西ニ長ク、北ニ高フシテ南ニ傾キ、平坂街道海岸ヲ通シテ概北出、北部ヲ經過スル里道ハ稍險ナリ、壘寨ノ遺址多シ、海岸ニ濱スルモノヲ大塚<sup>大塚</sup>・竹谷<sup>竹谷</sup>村

大塚竹谷  
壘寨ノ遺

丹野寨址  
五井上郷  
ノ二寨址

形原村形原トス、形原寨最モ西ニ遠シ、郡界豆飯ニ接連シ、地勢最モ狭マル、其寨甚タ古シ、鎌府ノ初、形原師光ノ築造ニ係ルト云フ、後松平家忠父子之ニ居ル、中部ニ在ルモノ丹野村丹野寨トス、稍高處ニアリ、北部ニ五井村五井上郷村上郷ノ二寨アリ、上郷寨最モ北ニアリ、位置高ク要害堅固ナリ、永祿ノ初、今川氏真築キ、其將・鶴殿長持父子ヲ置シ、五年三月、徳川氏ノ將・松井忠次ノ陷ル所トナリ、長持父子之ニ死ス

豊河以南ノ諸川

第一 柳生川、上流ヲ山中川ト云フ、豊橋市街ノ東南ヨリ濫觴シ、水路豊河ノ末流ト零、相并行シテ平地ヲ西ニ赴キ、二道線縣國道ヲ横截シテ、牟呂村温美郡ノ南ニ至ッ

李呂城址

テ海ニ朝ス、兩岸低平、流速シ、小流ナリ、牟呂村海濱ニ連ツテ概々夷、其稍高キ處、同名ノ城址アリ、天文四年、松平廣忠・叔父信定ノ逼ル所トナリ、始メ伊勢ニ逃レテ、後今川氏ニ依ル、此城當時駿河ニ屬ス、義元乃チ廣忠ヲ此ニ置キ、尋テ吉田城ニ移ス

天白原

第二 梅田川ハ、東境脈ノ稍南端ヨリ濫觴シ、西方ニ變流シテ、國道線東海ヲ横截シ、二川驛ノ南ヲ過ク、左岸ノ地大ニ東西ニ開ケテ、漸ク南方ニ高シ、天白原ノ稱アリ、次ヲ稍西北ニ流レテ、縣道線田原ヲ横截ス、橋アリ、植田大橋ト云フ、長三十九木橋ナリ、次テ草間村ヲ過キ、大崎村ノ北ニ來ッテ海ニ朝ス、二村共ニ寨址アリ、又其西南ニ大津・杉山二村アリ、境川ヲ挾ミ、西・海灣ニ連ル、各村亦

大崎  
八津杉山  
ノ四寨址

寨址アリ、以上永祿ノ初、戸田氏戸田原城主ノ族、分據セシ  
所ト云フ

田原町

田原城址

波加治ノ二寨址

境川以西、小流多シト雖ヒ、半島地脊ノ側偏ニ屬シ、地勢  
頗南北ニ狭ク、水路故ニ種メテ短シ、其諸水中、汝川ノ左  
岸ニ沿ヒ、東北・海灣ニ面スルノ市街ヲ田原ト云フ、人口  
五百五、渥美郡中、豊橋ニ亞クノ名邑ナリ、城アリ、本多氏  
ノ舊治所ナリ、明應中、戸田宗光築キ、而テ其本據トシ、子  
孫ニ傳フ、永祿・天正ノ際、今川・徳川二氏、前後相次キ之ヲ  
有シ、小田原ノ役後、池田輝政ノ封内ニ屬シ、其將・伊木清  
兵衛之ヲ守ルト云フ、關ヶ原役後、復本多氏ニ歸シ、世襲  
以テ明治ノ初ニ至ル、今ハ額廢ニ委ス、其南北ニ二寨址  
アリ、北・半島上ニアルヲ波瀨ト云ヒ、南・取手山ニアルヲ

加治ト云フ、昔田原城ノ支堡ト云フ

西瀧域

此地ハ、三方山岳鬱結、丘陵起伏、河水其北ニ發スルモノ、  
流レ概速ク、山路北スルニ隨ツテ益險、土味厚ラス、人烟  
隨ツテ薄シ、而シテ中央以南・殊ニ西南ニ連ナルノ地海沿  
郡開濶平夷、道路縱横、田園肥美、名邑多シ

矢作河及其朝流

矢作河ノ水路

矢作河一ニ作ルハ、源ヲ信濃ノ南境下伊奈郡ニ發シ、西南  
ニ流レテ本國北設郡ニ入リ、次テ左右ニ二朝流ヲ受ク、其  
右朝流ハ、美濃ニ屬シ、美濃美濃郡左朝流ハ、納庫川東瀧域ノ  
ナリ、矢作河、此ヨリ西流スル數里、水路甚々蜿蜒セズ、兩



市郷大車  
永太郎ノ  
遺址

國美濃ノ境ヲ劃シ、兩岸山・聳へ路・險ナリ、水幅濶處平時ハ大約四五十間許、數渡アリ、美濃ノ東南隅郡ニ達ス、可シ、左右亦二朝流アリ、其右ナルモノハ美濃ニ屬シ、美濃橋ノ左ナルモノハ段戸川ト稱ス、南發北流、東加茂郡ノ山隘ヲ經過シ、上流ハ縣道線飯田街道ヲ横截ス、兩岸ノ地亦險シク、人烟繁カラス、矢作河次テ西南ニ轉シテ、東西加茂二郡界ヲ劃流シ、市場・大艸・永太郎等ノ數村ヲ過シ、三村皆壘築ノ遺址アリ、戰國ノ時、鈴木氏ノ支堡ニシテ、其族分チ之ニ據リ、今川氏ノ爲ニ北・美濃ニ備フ、後武田信玄ノ攻零スル所トナリ、尋テ徳川氏ニ屬スト云フ、位置皆險ナリ、次テ左右ニ數小流ヲ納レ、水路稍屈曲シテ、月原・廣瀬等ノ數村ヲ過シ、此間數渡アリ、水幅濶キ處、大約

四條橋  
廣瀬ノ二  
遺址

六十間、兩岸開ケス、流レ稍疾シ、廣瀬村ヲ貫流シテ東西二村ニ分ツ、二村共ニ古壘址アリ、河ヲ隔テ、東西ニアリ、戰國ノ時、共ニ織田氏ニ屬シ、其將佐久間・三宅等之ヲ守ル、位置皆險ナリ、永祿元年二月、徳川家康西廣瀬、築テ攻メテ下ラス、後二氏織田和成ツテ家康ニ屬ス、次テ平井村ヲ過キ、母村ノ東ヲ流ル、此間二橋アリ、上ニ架スルヲ平井橋ト云ヒ、長中凡八十四間飯田街道ヲ通ス、次ニ架スルヲ久澄橋ト云フ、長凡六十四間舉母街道ヲ互續ス、此邊水幅大約八十間許、平井橋以下、兩岸稍開ケ、水流漸ク勢ヲ殺シ、久澄橋ノ北、一水ヲ右ニ納ル、籠川ト稱ス、次テ郡界加茂郡ニ來ツテ左ニ巴川下ニテ納レ、河水順ニ其量ヲ増シ、流レ漸ク緩ク、水路南方ニ蛇行シテ、二

矢作橋

宗定橋目矢作橋  
大友針字本郷  
小針ノ字本郷

上野城址

郡界ノ界ヲ劃シ、岡崎驛九口一萬二千ノ西ニ至ル、橋アリ矢作橋ト云フ、長幅二百五十間木橋ナリ、國道線二號東ヲ互續ス、此邊河水殆ント其床ヲ充シ、流疾カラヌ、右岸ノ地最モ西南ニ開ケ、田園錯雜、兩岸附近ノ地、城寨ノ遺址多シ、鶯鴨、宗定、橋目、矢作、筒針、ノ五寨址ハ、河西ニアリ、南北ニ連接ス、本郷、大友、字頭、小針、ノ四寨址ハ、又其西方ニアリ、殆ント接ス、位置皆高カラス、區域共ニ小、徳川氏ノ初、大概部下ノ居リシ所ト云フ、小針ノ北、大約半里許、古へ上野城アリ、其地上野上村郡界ニ屬ス、天文四年十二月、松平信定異圖アリ、本城ニ據リ、款ヲ織田信秀ニ通ス、信定没後、酒井忠尙代リ守タリ、永祿六年九月、一向宗ノ亂、忠尙城ヲ以テ賊ニ應シ、八年又叛キ、今川氏眞ニ通ス、

細川仁木  
岩津西藏前  
井田ノ寨

家康ノ兵忽チ城下ニ至ル、忠尙駿河ニ出奔シ、内藤正成父子、相代ツテ之ヲ守ルト云フ、細川仁木、岩津、西藏前、東藏前、井田等ノ諸城寨址ハ、河東ニアリ、岸ヲ距ル甚ク遠近アラヌ、南北ニ相連リ、概縣道線足助ニ接シ、東方ニ山若シハ、陵ヲ控フ、徳川氏祖先以來ノ本城、若クハ支堡ナリ、岩津城ノ址ニアリ、一ハ信光明寺額田郡津村ノ山林中ニアリ、始祖泰親、始メテ築キ之ニ居リ、邑ヲ畧定シ、兵勢漸ク強ク、以テ子孫ニ傳フト云フ、壘郭甚ク廣カラス、位置堅固ナリ、一ハ村ノ西北、妙心寺内ニ存ス、支堡ナリ、其族、親則之ヲ守ルト云フ、後、親長ノ信光明寺城岩津城ニ守タル、永正三年八月、今川氏親、步騎一萬余ヲ發シ、北條長氏之ニ將タリ、吉田額田郡吉田城以テ西、本道略道今ノヲ進ンテ

大樹寺

井田ノ古

東牧内佐  
小川櫻井  
野寺櫻井  
ノ案址

頼田郡ニ入り、大平川ヲ濟リテ、岡崎城ノ東北ヲ繞リ、又井田村ヲ過キ、大樹寺ニ陣シ、北本城信光明ニ迫ル、城兵僅ニ五百許、親長險ニ據ツテ防戦屈セス、終ニ授軍ト夾ニ撃テ、大ニ散兵ヲ破ル、斬獲頗多シ、大樹寺ハ巨剝ナリ、區域甚廣シ、八十坪七千、其地鴨田村ニ屬ス、岩津村ノ南、凡一里許ニアリ、文明七年、松平親忠ノ創建ト云フ、井田村其東南ニ隣ス、四近ノ地、古ヘ總テ井田ノ郷ト稱ス、地勢廣潤、岩津・岡崎間ノ縣道線足助其中央ヲ貫ク、古戰場タリ、矢作河次テ西南ニ赴キ、木戸村郡磐海ニ至ツテ一水ヲ南三分ツ、矢作古川ト稱ス、下ニ許古ヘ矢作河ノ水路ト云フ、故ニ名トス、此ヨリ以上、兩岸低平、流疾カラス、水ヲ夾ンテ城寨ノ遺址今尙多シ、東牧内ヒヤシキ佐々木・川島・小川・櫻

六名赤邊  
上和田上  
青野土井  
三木ノ案

上宮寺

一向宗ノ

本證寺

一向宗ノ

井野寺・藤井等ハ河西ニアリ、六名・赤邊・上和田・上青野・土井・三木等ハ河東ニアリ、概テ河岸ニ接近シ、各廣狹アリ、位置皆高カラス、其佐々木、寨最モ北ニアリ、永祿六年十月、家康・菅沼定顯ニ築カシム、史ニ所謂、佐崎城即是ナリ、其地、今ノ佐々木村ニ屬ス、當時此寨糧儲ニ乏シ、上宮寺ハ邑中ノ一古刹ナリ、一向宗ヲリ、頗資糧ニ富ム、定顯諫シ之ヲ徵ス、寺僧聽カス、乃チ之ヲ奪フ、僧徒大ニ怒ル、一向宗ノ亂之ヨリ起ル、川島野寺・藤井ノ數寨、其西南ニ相次ク、當時松平家次、櫻井ニ在リ、叛キ以テ賊ニ應ス、本證寺ハ野寺村ニアリ、僧徒寺ニ據リ、塹壘ヲ爲ス、岡崎城ノ西南、凡一里半許ニアリ、即賊ノ本據ナリ、藤井寨其西ニ近シ、天文申、松平利長築キ而シテ之ニ居ル、亂ノ一向宗起ル

ニ迄ヒ、其子・松平信一、徳川氏ノ爲ニ守リ、南・西尾城郡ニ居リ、酒井正ト相連リ、以テ本證寺ノ背ヲ扼ス、賊・遠シ出ルアヲハス、土井城址ハ、河東諸城寨ノ中央ニアリ、最モ固シ、本多廣孝・松井忠次之ヲ守リ、北・上和田城ト緩急相應ス、東・針崎又作針崎ニ備ヘ、西・野寺トノ應援ヲ絶ツ、故ニ賊・東西ニ離隔シテ聲息通セズ、其衆遂ニ崩潰ス、上和田寨ハ、太平川ヲ隔テ、岡崎城ノ南、二十丁許ニスリ、史ニ輪田城ト記スルモノ即、是ナリ、亂・起ルニ迄ヒ、酒井忠俊其邸ニ就キ、壘壘ヲ設ケテ臨時寨トシ、其從子・忠世・忠佐等ト固守以テ急ニ應ス、寨小ト雖ヒ南方諸道ノ中集點ニ位シ、北・岡崎城ニ密運シ、南・諸城寨ヲ統轄シ、當時ニ在ツテ、其守否實ニ岡崎城ノ利害ニ關ス、土呂。

妙國寺

針崎ノ賊、頻リニ來リ之ヲ爭フ、忠俊等防戰撓マズ、家康急ヲ聞ク毎ニ、自ラ岡崎ヨリ來リ援ケ、本多廣孝等、土井ヨリ横ニ賊兵ヲ衝ク、賊終ニ志ヲ遂ル能ハス、宮地村ハ上和田ノ南ニ隣ス、一刹アリ妙國寺ト云フ、地勢平濶、西南・土井城ニ連ツテ、池沼水田多シ、忠俊ノ針崎ヲ攻ムル、賊・密ニ策ヲ設ケテ、兵ヲ妙國寺ニ分テ、忠俊ノ歸路ヲ絶チ、夾ミ之ヲ擊テ、其兵西・土井城ニ走ルニ及ヒ、迫リ之ヲ汗田ニ殲ント欲ス、忠俊悟リ兵ヲ退ク、三ツ木・中島ノ二村ハ、土井城址ノ南ニ相接ス、地勢平濶、坂左右、下和田・野畑ノ數村又其東北ニ連ル、各村皆古ヘ城寨アリ、天文中、清康ノ弟・松平信孝、三木城ニアリ、其宗忠成ニ叛キ岡崎ヲ窺フ、十七年、廣忠ノ殺ス所トナル、中島村ニ二寨アリ、其

一板倉重定ノ居シ所ト傳フ、永祿四年二月、家康命シテ松平好景ニ之ヲ攻シム、勝定支ヘス岡城岡田郡ニ走ル、家康仍テ好景ニ與フ、此寨郡界額田郡豆ニ接連シ、丘陵ヲ隔テ、南東條城額田郡ヲ距ル遠カラス、屬吉良義昭ト戰ヒ、終ニ善明堤善明村ニ死ス、其子伊忠相襲キ、此寨ニ主タリ、一向宗ノ亂、伊忠深溝城額田郡ヲ下ニ辭ニスニアリ、此寨及シ三木城ト、皆徳川氏ノ爲メニ守リ、土井上和田出前ノ諸寨ト首尾相應シ、大ニ賊兵ト戰フ、淺井村ハ、郡界豆海ヲ隔テ、中島村ノ西ニアリ、地勢稍高シ、村ニ東西二寨址アリ、天文中、松平康孝、其西寨ニ居ル、其東寨ハ、石井十郎或ニハ津之ニ據リ、永祿六年、門徒ニ黨シ、其ニ上和田寨ヲ攻メテ戰死シ、寨廢ス、矢作河、次テ西

淺井村

南ニ流レテ米津村郡ヲ過シ、全名ノ木橋ヲ架ス、長百五間半、縣道線西尾ヲ互續ス、橋北ニ同名ノ壘址アリ、天文永祿ノ際、米津直壽父子ノ居シ所ト傳フ、西尾ハ橋南大約半里許ニアリ、人家縣道西尾ヲ夾ンテ南北ニ長ク、東凡十五丁南警察署及郡役所郡ヲ置ク、松平氏ノ舊治所ニシテ、本郡郡豆中ノ名邑ナリ、城アリ市街ノ西南ニ偏シ、三道ノ交叉點ニ臨ム、始メ西條ト號ス、吉良氏累代ノ舊城ナリ、義虎ニ至リ、牧野右馬允之ニ代ル、一向宗ノ亂、酒井正親此城ニアリ、北藤井寨松平信一ト相應授シ、野寺八面ノ賊背ヲ襲フ、賊兵因テ北スルヲ得ス、後田中本多太田井伊増山土井三浦諸氏ヲ經テ、明和以降、明治ノ初ニ至ル、松平氏世襲ノ治城ナリ、矢作河、次テ西

米津壘址

西尾市

西尾城

南ニ流レテ、瀧塚郡海田貫豆等ノ敷村ヲ過キ、中流ニ  
 郡磐豆ノ界ヲ劃シ、兩岸低平、水・濶シ、流遅フシテ奥田新  
 田碓豆ニ至リ内海ニ朝ス、源委通シテ二十七里、濶處殆  
 ント四丁許、國境以下、渡津頗ル多シ、就中、西小那海碓二郡  
 同ニアリ、水幅凡赤碓水幅凡二碓百アリ、二渡、水幅最濶シ  
 皆下流ニアリ

左朝流

第一 巴川又足助川ト云フ、水路畧三方西南北及ニ曲折  
 シ、其間又蜿蜒ス、源ヲ南・段樂郡菅沼村ノ山中ニ發シ、西  
 流シテ許多ノ溪流ヲ合シ、六所明神山東南境ノ東ニ  
 來ツテ、俄ニ折レテ、北流スル數里、岩神村東加ニ至ツテ、  
 一水ヲ右ニ納レ、復其方向ヲ西ニ轉ス、此ヨリ以上、山岳

足助市街  
及城址

左右ニ連峙シ、兩岸峻岨、人烟繁カラス、其一水トノ交會  
 點ニ臨ンテ一聚落アリ足助ト云フ、市街東西ニ濶シ、東  
 北凡二十五丁余、南岸ニ沿フ、山中ニ在テノ名邑ナリ、入千口  
 余郡役所ヲ置ク、東加茂郡此地三城址アリ、飯森・高村・豊  
 樂ト云フ、初メ中條・足助・星野ノ諸氏、分チ之ニ據ルト云  
 フ、天文中、鈴木越中父子之ニ居リ、威ヲ加茂全郡今加茂  
 ニ震ヒ、南額田郡ヲ窺フ、元龜二年四月、武田信玄、兵ヲ率  
 ヒテ北境信州高遠城ヲ進ムト云フヨリ入り、兵ヲ分  
 ツテ三城ヲ圍ム、越中父子敵ス可カラサルヲ計リ、城ヲ  
 開イテ退ク、信玄其將下條伊豆・戸田下野等ノ四將ヲシ  
 テ三城ヲ分チ守ラシム、後、勝頼ノ長篠ニ敗ル、三城共ニ  
 徳川氏ニ歸スルト云フ、巴川次テ野林村ヲ過ク、此間ニ

井ノ口

酒呑矢野ノ二寨

九久平寨

橋アリ、上ニ架スルヲ巴橋ト云ヒ、幅凡二八間、次ニ架スルヲ野林橋ト云フ、同幅凡二十四間、共ニ足助街道ヲ通ス、木橋ナリ、次テ字ヲ退分ヲ過ク、山路ノ岐分點ナリ、地勢稍坦、同名ノ寨址アリ、其西北ニ連ル一村ヲ井ノ口ト云フ、同名ノ壘址アリ、高ニ位シ足助街道ニ臨ム、鈴木氏ノ支堡ナリ、戸田忠勝之ヲ守ルト傳フ、次テ西南ニ流レテ河幅漸ク縮マリ、兩岸險阻、六木・九久平二村界ニ至ル、橋アリ、湊橋ト云フ、幅一四三間、飯田街道此ヨリ東北ニ通シ、右岸ヲ距ル漸ク遠シ、酒呑村其中央ニアリ、地勢開ケス、村ニ一寨址ヲ存ス、矢並寨ハ其北ニアリ、相距ル半里許、西寺部及太平二村ニ通スル里道ニ臨ム、九久平寨、橋ノ南ニ近シ、山ヲ東ニシ水ヲ西ニシ、道路ノ交叉點ニ

田代東大沼ノ二寨

瀧脇村寨

德川祖先ノ舊地

大給寨址

奥殿寨址

臨ム、以上ノ三寨共ニ鈴木氏ノ支堡ト云、後、皆德川氏ニ歸ス、次テ左ニ蘭川ヲ納ル、其源、蘭村、田東加ノ山中ヨリ發シ、初ハ西流シテ郡界、東加、茂ヲ劃シ、田代、田東大沼、東加、兩村間ヲ過ク、二村各、寨址アリ、其大沼寨、安倍新九郎ノ居リシ所ト云フ、武田信玄ノ足助城、前ニテ圍ム、此寨亦其陷ル所トナル、次テ西北ニ流レテ瀧脇村ヲ過ク、又寨址アリ、戰國ノ時、松平ノ支族、瀧脇、乘清父子之ニ居ル、松平村其東ニ隣ス、德川祖先ノ舊地ナリ、今ニ其居城ノ址ヲ存ス、大給村ハ其西ニアリ、瀧脇村ノ西北ニ近シ、村ニ寨址アリ、初、長坂新左衛門、後、松平乘元ノ居シ所ト云フ、次テ奥殿村ヲ過テ、巴川ニ朝ス、此村飯田街道ニ臨ミ、人烟稍繁シ、寨址アリ、松平氏ノ舊治所ナリ、明治ノ

初、信濃田、口南佐ニ移リ、城隨テ廢ス、巴川次ヲ桑原村田額郡ノ西北ヲ過キ、細川村上ニ至ツテ矢作河ニ朝ス、長十三里余

大井野阿知百々三

第二、青木川ハ、安戸村額田ノ東山中ヨリ濇陽シ、西南ニ流レテ大井野村ヲ過キ、次テ西北ニ轉シテ、阿知百々二村ヲ過キ、次テ足助街道ヲ横截シテ、矢作河ニ朝ス、三村皆寨址アリ、大井野ノ寨、最モ高ニ位シ、余ハ皆平地ニアリ、共ニ德川氏ノ支堡ト云フ、

龜穴寨址

第三、大平川一名大屋川ハ、源ヲ石原村額東郡ノ山中ニ發シ、西南ニ下ツテ龜穴村上全ヲ過ク、同名ノ寨址アリ、天文中、奥平道文ノ築キシ所ト云フ、道文ノ先、初、上野國ヨリ川尻村南ノ西境ニ移リ、尋テ其南、龜山城全ニア郡市豐川村

龜山寨址

ノ右朝流ニ詳ニ流ニ居ル、道文ノ時ニ至リ、更ニ此寨ヲ構ヘ、父子又移リ住ス、天正元年、德川氏ノ爲メ、父子復出テ、龜山城ニ移リ、北、武田氏ニ備フ、道文ノ武田氏ニ通スル、其子貞能、孫、信昌ト室ヲ携ヘ西走ス、敵兵追撃、貞能、信昌急ニ此寨ニ保ス、四近ノ地、山聳ヘ谷深ク、位置頗ル要害ナリ、貞能險ニ據リ、殊死戰ス、敵終ニ敗レ走ル、雨山水ヲ隔テ、其南、半里許ニアリ、亦道文ノ築シ所ニシテ、其子貞能暫ク此ニ居ル、弘治中、今川義元ノ攻陥ル所トナル、大平川次テ西流シテ、牧平村ノ北ヲ過ク、此邊地勢稍開ケ、鹿勝川村ハ、牧平村ノ東ニ連リ、大幡村ハ、西ニ接ス、皆壘寨ノ遺址アリ、大幡ニアルモノ、鴻巢寨ト號ス、山徑ノ岐分點ニ臨ム、初メ和田某之ニ居ル、天正二年、武田氏

大幡川及ノ寨址



ニ歸シ、其將・城・慮庵ヲ置クト云フ、其西ニ壘平鹿川ハ共ニ菅沼氏ノ支堡ナリ、位置皆高シ、山徑此ヨリ三方ニ岐分シ、一ハ南シテ東海道ニ、一ハ東北シテ加茂郡ニ、一ハ東シテ南設樂郡ニ通ス、概險隘ナリ、次テ西北ニ流レテ茅原澤村ニ至リ、右ニ一水ヲ納ル、其水毛呂村ノ西・山中ヨリ濫觴シ、山隘間ヲ西ニ流レテ、富尾トシヒカ名内保久・柳田・大河岩戸等ノ數村ヲ過キ、末流南ニ轉折シテ大平川ニ朝ス、左右山連リ、兩岸開ケス、路狹シ、以上ノ數村、皆壘寨ノ遺址アリ、初ハ概奥平氏ノ支屬タリ、後悉ク徳川氏ニ歸ス、獨リ岩戸寨、泰親以來徳川氏ノ舊屬ト云、泰梨村ハ流末ニアリ、其地稍開ク、二寨址アリ、弘治ノ初、栗生・酒井等相次キ、之ニ居ルト傳フ、大平川次テ西流シテ、左ニ鉢地

富尾名内保久柳田大河岩戸

泰梨村

寶藏寺古陣地

山中城址

川ヲ納ル、其源本宿東田郡ノ南、二村山ノ東ニ發ス、寶藏寺ハ其麓ニアリ、街道ニ接ス、天正二年、徳川信康ノ陣地ナリ、次テ南流シテ國道線東海ヲ横截シ、山中村ヲ過ク、同名ノ城址アリ、其位置郡界飯田ニ接シテ本道線國道ニ臨ミ、長澤城西飯田郡ノト相連ツテ共ニ要地ニ位ス、當時ニ在ツテ、東今川氏ニ對スル岡崎城ノ進堡ト云フ、松平清康其族親貞ヲ岡崎城ニ置キ、兼テ此城ヲ守ラシム、親貞驕豪、漸ク其宗清康ニ抗ス、大永六年、清康安祥城安祥郡ニアリ、計ヲ設ケテ此城ヲ陷レ、其族重弘ヲ置ク、天文十七年十一月、重弘亦叛ス、廣忠ノ兵、忽チ城下ニ至ル、重弘支ヘス出奔ス、後一向宗ノ亂、其徒亦之ニ據ル、家康石川家成ニ命シ、攻メテ之ヲ下スト云フ、鉢地川、次テ西北ニ

保母村寨址

岡崎ノ址

流レテ、保母村ニ至リ、大平川ニ朝ス小流ナリ、村ニ小寨址アリ、西岡村寨ト相近ク、北大平川ヲ隔テ、小美寨ト相對シ、三方畧、鼎足ノ形ヲナス、岡村、寨稍廣シ、天文・永祿ノ際、松平信孝、板倉守定、相次キ之ニ據リ、前後共ニ廣忠及ヒ家康ニ敵シ、皆亡フ、太平川次テ大平・生田二村間ヲ流ル、橋アリ大平橋ト云フ、長凡四十一木橋ナリ、國道線二ヲ互續ス、二村ノ地共ニ開ク、數寨址アリ、大平村其三ヲ有スト云フ、其西聚落アリ、西大平ト號ス、西岡崎ニ近シ、大岡氏ノ舊治所ナリ、大平川次テ左ニ山綱川ヲ受ク、其源二村山ノ西北山綱ヨリ發シテ、國道線二ヲ截流シ、次テ舞木・藤川二村ノ南ヲ過キ、水路畧、國道線東海ニ平行ス、舞木・藤川皆古壘アリ、國道ニ臨ム、天正以前、内藤家

舞木藤川  
址

小豆坂

長其藤川ニ居リ、竹尾・太田・松平ノ三氏、相次キ其舞木ヲ守リ、共ニ岡崎城ノ東進堡ヲリ、次テ左ニ生田川ヲ納レ、國道線ヲ横截シテ、大平川ニ朝ス、生田川ノ源、小豆坂厚一木坂ニノ東南ヨリ出テ、東北ニ流レテ、國道線東海ヲ横截ス、小流ナリ、小豆坂ハ、中央脈出ヨリ分發スル左支脈ノ稍西北端ニアリ、大平川ヲ隔テ、岡崎ノ南、大約一里半許、其西坡ハ、上和田・針崎二村ノ間ニ延キ、山路甚々峻峻ナラス、天文十一年八月、織田・今川二氏ノ軍、東西齊シク此頂上ニ會戰ス、織田ノ兵、終ニ敗レテ西ニ退ク、後一向宗ノ亂、大久保忠俊此ニ陣シ、大ヒニ針崎ノ賊ト戰フ、大平川、次テ岡崎市街ノ南端ニ接流ス、河幅漸ク濶フテ、流レ疾カラス、兩岸ノ地、平夷ナリ、明大寺村ハ河南ニ

明大寺村  
寨址

伊賀村寨  
址

岡崎城

連リ、今ハ西及上下ノ三村ニ分ツ、東西ニ廣シ、生田村ヨ  
リ岐分スル里道、河ト相并行シテ、村ノ中央ヲ西ニ貫ク、  
二寨址アリ皆舊シ、一ハ足利尊氏ノ憩シ所ト傳ヘ、一ハ  
永享中、西郷彈正左衛門ノ居リシ所ト傳フ、天文中、松平  
信孝叛キ岡村城出<sub>前</sub>ニ據リ、出テ戰ツテ此ニ死ス、大平川  
次テ伊賀川ヲ右ニ納レ、福島新田ニ至ツテ、矢作河ニ朝  
ス、長九里五丁余、濶所四十間余、伊賀川ハ、箱柳村<sub>岡崎ノ</sub>  
ヨリ濫觴シ、西流シテ伊賀村ヲ過キ、岡崎市街ノ西北ヲ  
劃流ス、二村共ニ壘寨ノ址アリ、伊賀村ノ寨、南・岡崎ニ接  
シ、北・井田村ニ近シ、岡崎城ノ支堡ト云フ、松平康安之ニ  
居ル、岡崎驛ハ、二水<sub>大平川</sub>ノ間ニアリ、東海道ニ列ス、市  
街頗ル東西ニ長シ、<sub>東西北凡一里</sub>丁三始審裁判所・警察署・電

岡崎城

備川家康  
出生ノ地

信分局・郡役所<sub>額田郡</sub>等ヲ置ク、城市街ノ西南ニ偏シ、平  
地ニ位ス、其形恰モ蟠龍ノ如シ、故ニ内湊今ニ清海堀ノ  
稱アリ、此地往古ハ、一塞村ニ過キス、<sub>菅生村</sub>ト云フ、永享  
ノ末、西郷彈正左衛門、新ニ本城ヲ此ニ築キ、明大寺城<sub>出前</sub>  
ヨリ移リ往セシヨリ、人家漸ク聚落ヲナス、後松平清康、  
本據ヲ此ニ定メシ、以降、其孫家康、天正十八年ニ至ル、三  
世ノ舊治所ニシテ、家康出生ノ所タリ、家康ノ關東ニ遷  
ル、豊臣秀吉、其將田中吉政ヲ封ス、爾後此城、數主ヲ歴テ  
明和六年以後、本多氏之ヲ世襲シ、以テ明治ノ初ニ至ル

左支流

古川ハ左支流ナリ、往時ハ矢作河ノ水路ニ屬ス、故ニ矢  
作古川ノ稱アリ、其水・幡豆郡ノ北・志賀野村ヨリ分レ、南

日本部

小島村

八面村

江原

流シテ小島村ヲ過シ、同名ノ木橋幅長一二十間ヲ架ス、縣道  
 線土呂ヲ通ス、此間兩岸丘陵連結、地勢開ケス、橋東高キ  
 處、一壘址アリ、戰國ノ時、鷹部谷・伊奈諸氏ノ據シ所ト云  
 フ、次テ八面山ノ東麓ヲ過シ、其山同名ノ城址ヲ存ス、吉  
 良ノ族・荒川頼持之ニ居リ、一向宗ノ亂ニ關カル、永祿七  
 年、家康ノ陷ル所トナル、江原、樂ハ、水古川ヲ隔テ、其東  
 ニアリ、守將ヲ江原丹波ト云フ、今川義元ニ從ツテ桶峽  
 間ニ死ス、次テ一水ヲ右ニ分派シ、又左ニ廣田川ヲ納ル、  
 其水東方菱池ヨリ出テ、水路北方ニ彎張シテ、初メハ二  
 郡額田界ヲ劃シ、末流高河原村ヲ過キテ、矢作古川ニ朝  
 ス、其源菱池甚々廣カラス、周回約二丁許右岸以西ハ、丘陵起  
 伏シ、野場一作野羽六栗等ノ數村アリ、地勢開ケス凸凹

深溝城址

一向宗ノ古戰場

多シ、左岸ノ地、最モ南北ニ開ケ、鷺田・岩堀・大草・高力・坂崎  
 ノ數村相連リ、道路平坦、北ハ土呂及針崎、南ハ深溝等ノ  
 諸村ニ通ス、以上數村ノ地、壘寨ノ遺址多シ、其深溝城ノ  
 址、最モ東南ニアリ、余ハ皆湖池ヲ圍ンテ其西北ニ羅列  
 シ、土呂・針崎・羽根ノ三寨、又其北ニ次リ、永祿六年、一向宗  
 ノ亂、夏口正吉、其族ト野場野羽ニ六栗ニ據リ賊ニ應ス、  
 松平伊忠、深溝城ニアリ、高力清長・本多重次、高力及坂崎  
 二寨ヲ分守シ、共ニ徳川氏ノ爲ニス、伊忠攻メテ野場六  
 栗・二寨ヲ陷イレ、正吉ヲ擒ニシ、又吉良義昭ヲ東條城深溝  
 ノ西駿馬ニ擊ツ、清長・重次皆兵ヲ出シテ、土呂・針崎ノ背  
 ヲ劫カシ、又西・土井、寨本多ヲ守ルト、犄角ヲ相爲シ、以テ賊  
 兵北向ノ謀ヲ撓マス、岡崎城因テ以テ安キヲ得、是ヨリ

須美寶二村ノ寨址  
善明堤古  
東條城址

先キ土呂・針崎ノ二寨、共ニ岡崎城ノ支堡タリ、亂起ルニ  
迄ヒ、僧兵其二寺一ヲ正善秀又寺ト號スト、土呂村ニア  
ニ據リ、追甄ヲ設ケ、又兵ヲ分ツテ二寨ヲ守リ、佐崎野寺  
共ニ碧海郡矢ト東西相應シ、將ニ北・上和田、寨大之ヲ保  
ルヲ奪ヒ、次テ岡崎城ニ追ントス、戰爭連日、越ヘテ明年  
ニ至リ、終ニ大ニ敗潰ス、古川次テ左ニ須美川ヲ納ル、其  
源東方須美村ヨリ發シ、西流シテ寶村・善明二村ノ間ヲ  
過キ、古川ニ朝ス小流ナリ、須美村・寶村皆寨址アリ、永祿  
ノ初、鶴殿康孝其須美ニ居リ、富永半五郎其寶村ヲ守ル  
ト云フ、善明村ハ河南ニ連ル、長堤アリ、善明堤ト云フ、永  
祿四年、松平好景戰死ノ所タリ、駿馬村其南ニ近シ、縣道  
線平坂ニ連ル、東條城ノアリシ所ナリ、吉良氏累世之ニ

矢田德永  
巨海寺澤  
中野ノ三  
友國小牧  
池村

居ル、義昭ニ至リ、永祿六年、一向宗ノ亂ニ黨シ、終ニ家康  
ノ降ス所トナル、津平、寨其南ニアリ、一水ヲ隔テ、甚々  
近シ、永祿四年、家康・松井忠次ニ築カシメ、北・東條城ヲ攻  
ム、義昭降ル、仍テ忠次ニ與フ、其西・友國・小牧・中野ノ三壘  
アリ、亦水ヲ隔ツ、永祿ノ初メ、友國・小牧ハ、徳川氏ニ中野  
ノ寨、獨リ吉良氏ニ屬スト云フ、古川次テ鶴ヶ池村ヲ過  
ク、村ニ富永左京ノ寨址アリ、次テ縣道線平坂ヲ截流シ、  
吉田村ニ至ツテ内海ニ朝ス、長三里十五丁余、此河・橋豆  
郡ノ中央ヲ南ニ貫キ、流レ甚々疾カラス、河東ハ丘陵多  
キニ居リ、土壤肥瘠相半ス、河西ハ地勢大ニ開ケ、河脈縱  
横、田園遠ク海ニ連リ、人烟繁シ、長繩村中央ニアリ、地勢  
最モ夷、矢田・徳永・巨海寺澤ノ四壘寨、其西南ニ相次ク、天

文・永祿ノ際、大河内氏ノ族、分チ之ニ據リ、吉良氏ニ屬ス  
ト云フ

右朝流

右朝流數流アリ、然レモ山脈國境近ク西北ニ迫ルヲ以  
テ、概テ短少ノ奔湍ニ過キス、今其一ニ左ニ掲ク  
第一 廣瀬川ハ、北・三國山ヨリ濫觴シ、諸溪水ヲ合シテ  
山隘ヲ南下シ、西廣瀬村ニ至ツテ矢作河ニ朝ス  
第二 籠川、上流ハ二水ヨリ成ル、一ハ八草・西廣見二村  
ニ接ス、北ノ山中ニ發シ、上伊保村西加ナ過キテ東南シ、一  
ハ猿投山東ニ近シノ南谷ヨリ濫觴シ、共ニ縣道線田飯  
道ヲ横截シ、花本村ノ西ニ來ツテ相會ス、八草・西廣見ノ  
二村ハ、國境ニ接シテ其地皆險ナリ、又各壘寨ノ遺址ア

八草西廣見ノ遺址

リ、尾張ニ通スル山徑ニ臨ム、初、那須・阿部・中條・小栗等ノ  
諸氏、相繼キ二寨ヲ分守シ、中コロ織田信長ニ屬シ、後復テ  
徳川家康ニ歸ス、明應二年、此寨及コホモ母・寺部・上野・伊保下皆  
ヲニ掲ク、四城、兵ヲ合セテ南下シ、松平親忠ト伊田額アノ  
掲クニニ戰ヒ、大ニ親忠ノ破ル所トナル、今ハ僅ニ土壘ノ  
址ヲ存ス、二水籠川ノ上流ノ間ニ伊保城ノ址アリ、天文ノ末、  
三宅彈正・丹羽氏信等相次キ、織田氏ノ爲メニ守ル、高ニ  
位シテ要害ト稱ス、永祿元年、徳川家康之ヲ攻メテ下ラ  
ス、二年再ヒ兵ヲ發シテ疾ク攻ム、終ニ陷ル、梅坪城址ハ  
其南ニアリ、流末ニ接ス、當時ノ守將ヲ三宅康貞ト云フ、  
亦織田氏ニ屬ス、天文十七年、松平廣忠之ヲ攻ム、城堅ク  
シテ拔ケス、後家康ノ伊保城ヲ陷ル、此城亦其圍ヲ受ク、

伊保城址

梅坪城址

舉母市街

舉母寺部  
ノ二城址

福ヶ谷  
城址

康貞險ニ據ツテ能ク防キ亦下ラス、二氏織川和ヲ構ス  
 ルニ迄ヒ、城・終ニ家康ニ屬スト云フ、其南ニ近フシテ一  
 名邑アリ、舉母ト云フ、市街稍南北ニ廣シ、東北四三丁余  
 本郡諸道ノ中集點ニ臨ミ、警察署アリ、又郡役所ヲ置ク、  
 四加茂郡管内藤氏ノ舊治所ナリ、全名ノ城址アリ、河矢作  
 ナ隔テ、東寺部城址ト相對シ、共ニ高ニ位ス、天文・永祿  
 ノ際、織田氏ノ將、中條秀長舉母城ヲ守リ、今川氏ノ將、  
 木重則寺部城ニ居リ、東西相對シテ南岡崎城ヲ窺フ、後  
 皆家康ノ逐フ所トナル

境川ノ水路及其朝流

境川・西境ヲ劃流ス、故ニ其名アリ、源ヲ狹投山ノ西南、田  
 初村茂郡加ニ發シ、南ニ流レテ福ヶ谷村ヲ過ク、同名ノ城址

尾張國

アリ、二山徑ノ北ニ位シ、其地高シ、國境ニ在テノ要塞ナ  
 リ、初メ酒井忠次之ヲ守リ、尾張ニ備フ、大久保忠勝・忠佐  
 等ノ諸將之ヲ援ク、弘治二年正月、柴田勝家・荒川新八・織  
 田氏ノ兵千余ヲ率ヒ來リ攻ム、忠勝等衆ヲ率ヒテ城ヲ  
 出テ、擊ツテ勝家・新八ヲ走ラス、次テ西南ニ轉シテ、國境  
 尾張國ヲ劃流シ、舉母街道及ヒ新街道ヲ橫截シ、今川村海  
 郡ノ西ニ至ル、橋アリ、大島橋長五十四間ト云フ、木橋ナリ、  
 國道線東海ヲ互續ス、次テ南流シテ、荻谷四百口ヲ過ク、  
 又木橋アリ、對岸ノ大府村尾張知ニ架ス、中瀬橋長三十一  
 間ト云フ、縣道線師崎ヲ通ス、刈谷ハ名邑ナリ、人家多  
 シ、城址アリ、河ニ濱ス、天文中、水野忠政、緒川城尾張知ヨ  
 リ移リ治シ、其子信元ニ傳フ、信元讒死シ、佐久間信盛之

若林宮口  
明知ノ三  
明址

知立驛

尾張驛  
照ス

ニ代リ、幾モナクシテ故主ニ復歸ス、爾後此城數主ヲ換  
 へ、延享四年以降、明治ノ初ニ至ル、土井氏世襲ノ治所タ  
 リ、今ハ額廣ニ委ヌ、境川次テ元刈谷村ニ至リ、河幅頓ニ  
 廣マリ、水稍深シ、左ニ逢妻川ヲ納ル、其源西宮口村西宮加  
 ヨリ澄篠シ、西南ニ流レテ碧海郡ニ入り、縣道線新街ヲ  
 横截ス、若林村其左岸ニ沿フ、道路ノ交叉點ニアリ、西宮  
 口ミヤノ明知ヲ併セテ皆壘寨ノ遺址アリ、次テ西流シテ國道  
 線東海ヲ横截ス、木橋ヲ架ス、逢妻橋長幅二十四間ト云フ、  
 橋東ニ近フシテ知立驛百六十口ニ四千三アリ、東海道ノ驛次  
 ナリ、諸道ノ集合點ニ位ス、警察署及ヒ郡役所碧海郡ヲ  
 置ク、寨址アリ、永祿三年、今川義元、此ヨリ尾張ニ入ルト  
 云フ、尾張驛照スヘシ參義元ノ桶峽ニ死スル、此寨、徳川氏ニ歸

重原半城  
土ノ寨址

シ、尋テ廢ス、次テ西南ニ流レテ刈谷ノ北ヲ過キ、流末屈  
 折シテ境川ニ朝ス、境川次テ小垣江村ニ至リ、左ニ濃濃  
 川ヲ納レ、河幅益濶シ、猿渡川ノ源、碧海郡ノ東北隅ヨリ  
 澄篠シ、西南ニ流レテ、新街道ヲ横截シ、次テ今村・牛田二  
 村間ヲ過キ、國道東海及ヒ縣道西尾ヲ截流ス、二村各寨  
 址ヲ存ス、天文・永祿ノ際、其牛田ハ水野氏ニ、今村ハ徳川  
 氏ニ隸ス、次テ重原・半城シノ土二村間ヲ過キ、小垣江村ニ至  
 ヲテ、縣道線大街道ヲ截流シテ、境川ニ朝ス、小流ナリ、河幅  
 濶處十間許、平地ヲ貫流シテ水多カラヌ、重原・半城土皆  
 壘址アリ、共ニ水野氏ノ支堡ト云フ、其重原ハ、文久以降、  
 板倉氏ノ治所トナリ、明治ノ初ニ至ル、重原・知立ノ間ヲ  
 引馬野ト曰フ、地勢平濶、陸田多シ、小樹各處ニ林ヲナス、



天文二十三年正月、重原ノ兵今川氏ト此平原ニ戰フ、今川ノ兵勝ニ乘シテ終ニ重原、寮ヲ下スト云フ、境川次テ南流シテ左右細流數條ヲ納レ、高濱村ニ至ッテ内海ニ朝ス、水路大約十里半、刈谷以上、濶大約三十間許、以下頓ニ濶ク、汪洋トシテ海ノ如シ、高濱ノ西ニ對スル、一村ヲ龜崎ト云フ、尾張知多郡岬頭突出、東ヲ指シ、河口ヲ束ス、河口以南、矢作河ニ至ルノ間、尙ホ數小流アリ、新川稍著ハル、其上流ハ衆水ヨリ成ル、就中源ヲ安城村ニ一作安發スルモノ最モ長シ、此村同名ノ城址ヲ存ス、其地ヲ城森ト稱ス、根平親忠以下、清康ニ至ル四世ノ根據ナリ、其位置獨リ平地中ニ高シ、清康岡崎ニ移ルニ迄ヒ、其族安祥長家ヲ置ク、後織田信秀攻メ之ヲ陷レ、其庶子信廣ヲ置

安城城址

福釜東端ノ繪址

キ、矢作河以西ノ地ヲ略シ、漸ク岡崎城ニ迫ル、天文十八年三月、今川義元兵ヲ遣シ、攻メテ之ヲ復スト云フ、次テ西南ニ流レテ縣道線西尾ヲ横截シ、福釜村ヲ過キ、東端西端二村間ニ至ッテ油淵ニ入ル、油淵又北浦ト云フ、小湖ナリ、一里許東北諸小流ノ相會シテ一凹地東端西端ニ瀦スルモノナリ、其西瀆口アリ、西南ニ流レテ新川ノ稱アリ、其水大濱村ノ北ヲ過キ、縣道線大濱ヲ横截シテ内海ニ朝ス、福釜東端皆築址アリ、西端ハ本多氏ノ舊治所ナリ、人家稍聚落ヲナス、弘治二年、家康福釜ニ築キ、酒井忠次ニ與フ、大濱村海ニ濱シテ人家多シ、八百八十五八名邑ナリ、永井直勝ノ舊寨アリ、天正十年、本能寺ノ變、徳川家康其難ヲ免カレ、伊勢ヨリ航シテ知多郡尾張ヲ經、其

大濱築址



里余ニアリ、西南篠島・日間賀島ニ屬ス尾張ト相近シ、本州  
小嶼中ノ稍大ナルモノナリ、周八回一千里三百五十丁居民漁  
業ヲ勤ム

交通路

國道二

東海道

二川八里三十三丁 豐橋丁四十二間十三 御油丁十六間十二  
赤坂五里四十九丁 藤川十二里九間二 岡崎丁三十五間十八 知  
立三十五間一 鳴海驛合十六里三十丁五十四間三尺

縣道

本坂街道 愛知縣三河國遠江國飯沼郡御油三町  
スヶ日路村ニ途

御油丁三十一間八 北金屋村三十八間丁 嵩山村丁三里六  
遠江國濱名郡三ヶ日村合六里九丁十二間

秋葉風來寺路 愛知縣三河國飯沼郡御

豐田郡大路平ニ

御油八里九尺丁十 大木丁二十間十 新城三里 門谷九丁里  
大野八丁十 巢山三丁里 遠江國豐田郡大平合十二

同別路

御油八里九尺丁十 大木丁二十間十 新城丁一里九間十七  
半原八丁十 遠江國濱名郡三ヶ日村合九里二丁四十  
九間三尺

新所街道 愛知縣三河國遠江國飯沼郡二川

二川十四里丁三 新所

路ス線ル

伊奈街道 愛知縣三河國信濃國飯伊奈御油根

ス羽ル村路ニ線連

御油八二間三九尺丁十 大木丁二里二二間十 新城七三間三七尺丁 田

代三同里三五尺丁二 東田内十一里二間三丁四尺 口町四三間八三間丁

尺三 上津具丁二里三三三三 信濃國伊奈郡根羽村合十八

里九丁三十六間

足助街道 愛知縣三河國額田郡足助郡岡崎

線分

岡崎九一里三十四尺丁 岩津十一里三二尺丁三 桑原三十一里四二間丁

九牛平三二里三九間丁 大島丁三十二里四三間三 足助合七里十六

丁二十一間

別所街道 愛知縣三河國信濃國伊奈郡界橋

路連スル

豐橋丁十五里三三間十九 本郷丁六二里三三間七 三河國設樂郡

坂宇場合二十二里二十一丁六間

飯田街道 愛知縣三河國信濃國伊奈郡久平

界路ニ線連ス

九久平三十三里三九間丁 大島丁三十三里四三間三 足助丁二十一里一八

明川丁三九里一 武節町丁二十里四八 信濃國伊奈郡根羽

村合十二里八丁四十一間

土呂街道 愛知縣三河國額田郡二福

線分

日本部 四十七

福岡三十九里一四尺四  
西尾十九里二尺二  
三河國幡豆郡平  
坂合四里四丁十九間一尺

田原街道 愛知縣三河國幡豆郡美達郡豐橋分

豐橋二四里五三間五尺丁  
田原三十四里一八丁  
三河國湍美郡  
畠村合五里十七丁五十六間三尺

平坂街道 愛知縣三河國寶平坂郡小坂井

小坂井<sup>コサカ</sup>九里九六間丁  
西尾十九里二尺二  
三河國幡豆郡平  
坂合十里九丁十八間三尺

西尾街道 愛知縣三河國幡豆郡西尾郡知立郡

知立二四里九間九丁  
西尾

藤川街道 愛知縣三河國幡豆郡藤川郡田邊郡

福岡丁一里三間四  
藤川

沿革零史

本國上古ハ、遠江ト一國タリ、遠淡海ト稱ス、後割テ本國  
ヲ置ク、國ニ三大河川<sup>大平川豐</sup>アリ、因テ三河國ト號スト  
云フ、文武帝、慶雲三年九月、下阪合部宿禰三田磨ヲ以テ、  
始メテ三河守ニ任シ、國府ヲ寶飯郡<sup>今村ノ</sup>ニ置ク、爾後  
國守ノ任、歴世絶ヘス、鎌府ノ初、源賴朝奏請シテ、其第範  
頼ヲ三河守ニ任ス、建久・正治ノ間、安達盛長ヲ守護ニ補  
ス、南北朝ノ時、足利尊氏其族・吉良滿貞ヲ假ニ守護タラ

シム、滿貞、幡豆郡西條今ノニ居リ、其弟、尊義ヲ同郡東條  
幡豆郡今ニ置ク、寛正ノ初、吉良氏大ニ衰ヘ、國內漸ク亂  
 ル、將軍義政、細川成之ヲシテ守護ヲラシム、先是新田氏  
 ノ裔、世良田有親、本國ニ至ル、其子泰親、松平氏ニ養ハル、  
 子孫漸ク其土ヲ廣メ、兵勢漸ク強ク、岩津額田ニ築キ安  
 祥郡ヲ陷ル、又岡崎城ニ治ス、其八世ノ孫ヲ徳川家康  
 トス、家康幼ナルヤ、織田氏屢來リ侵ス、今川氏親兵ヲ發  
 シテ之ヲ救ヒ、小豆坂額田ニ戰フテ之ヲ走ラス、天文中、  
 氏親ノ子義元、本國ヲ侵シ、東條義安八義安ヲ駿河ニ  
 幽シ、西條義昭七義昭ヲ東條ニ徙シ、州東ノ地濱美飯  
八名設ヲ奪ヒ、又徳川氏ヲ却掣シ、其地額田ヲ攘有ス  
 ル、十一年、義元敗死スルニ及ヒ、テ家康其舊土ヲ復シ、遂

ニ東條ヲ取り、西尾牧野吉田小原諸城ヲ拔キ、概々全州ヲ  
 平ク、亦岡崎城ニ治ス、尋テ遠江ニ移ル、天正二年、織田信  
 長ト力ヲ戮セ、武田勝頼ヲ長篠ニ破リ、北部ノ地今ノ樂  
 及東加ヲ復ス、天正十八年、其關東ニ遷ル、豊臣氏池田輝  
 政ヲ吉田今ニ、田中吉政ヲ岡崎ニ封ス、關原役後、徳川  
 氏、二氏ヲ徙封シ、松平家清ヲ吉田後ニ松平ニ、本多康重ヲ  
 岡崎後ニ本多ニ、本多康俊ヲ西尾後ニ松平ニ、戸田尊次ヲ田  
 原後ニ松平ニ封シ、水野勝成ヲ刈谷ノ舊邑ヲ襲カシ  
 ム、後利ニ土其後國內封ヲ受クル者、舉母初本多忠利與殿  
 乘平西大平大相西端本多トス、凡テ九藩、文久中、與殿藩  
 橋ト稱シ、板倉勝達ヲ重原額田ニ、安部信發ヲ半原武

岡部ニ移封シ、十藩トナス、既ニシテ皆改メテ縣トナシ、  
 又悉ク之ヲ廢シ、頼田縣ヲ置キ、岡崎ニ治ス、尋テ之ヲ廢  
 シテ愛知縣ヨリ兼治ス、軍管ハ、六管鎮臺設置以來、第三  
 軍管、名古屋鎮臺、第六師管ノ管内ニ屬シ、豐橋ヲ以テ其  
 分營ニ充ツ、十七年一月、師管ノ番號ヲ第五ト改メ、全國  
 尙舊管ニ依ル

兵要地誌 大日本之部卷之十三 目錄

遠江國誌

總論	一	丁
山論	二	丁
北境脈	二	丁
西境脈	六	丁
水論		
天龍河ノ水路及其朝流	八	丁
天龍河ノ水路		
左朝流	十一	丁
左支流	十四	丁
右朝流	十五	丁

天龍河以東ノ諸川	十六丁
天龍河以西ノ諸川	二十九丁
交通路	三十九丁
沿革史畧	四十一丁

兵要地誌 大日本之部卷之十三

陸軍助教田付直男 纂述

遠江國誌

總論

遠江國ハ、東海道ノ第六位ニアリ、北緯三十四度三十六分ヨリ、同三十五度二十一分、西經一度三十分ヨリ、同二度十六分ニ亘リ、其境界、北・信濃ト連山ヲ界ヒシ、東・大井河ヲ以テ駿河ニ界ヒシ、西・山河ヲ以テ三河ニ界ヒシ、而シテ南方一帯、大平洋ニ面ス、廣袤、東西凡十八里、南北凡二十里、之ヲ割シテ十二郡トス、濱名郡ハ、西南隅ニアリ、極メテ小、磐田・鹿玉ノ二郡ハ、其東北ニ散位シテ亦狹ク、豊田郡ノ兩側ニ附ク、豊田郡ハ、最大ナリ、其地、南北境ニ



遼ノテ國ノ中央ニ位シ、引佐敷知・長上ノ三郡其西南ニ相次キ、周智ノ南部及ヒ、佐野・山名・城東ノ三郡ハ東南ニ相列シ、廣狹甚相懸隔セス、山名郡稍狹シ、敷知郡・湖濱名ヲ抱イテ僅ニ其北ニ聯ナル、周智郡ハ豐田郡ノ東北ニ隣接シ、其地廣シト雖モ、中央頗檢束シテ大小南北ニ開キ、北・信濃ト交壤シ、東・一半ハ榛原郡ニ界ス、榛原郡頗ル南北ニ長シ、幅亦極メテ狹シ、其形勢西方ニ彎張ンテ恰モ弓様ヲナシ、大井河、其東ヲ界シテ水路略、其弦ヲナスカ如シ、以上總テ十二郡、全國ノ人口四十二萬七千二百三十一明治十四年ノ調査ニ據ル、

國ノ形勢、南ニ開キ、北ニ閉チ、零、二等邊三角形ヲナシ、其角頂即チ北・信濃ニ入ルノ處、山岳最モ連結シ、其支脈南ニ

延ヒテ、山嶮シシ、谷深シ、山路通セス、殆ト人烟ヲ絶ツ、中央以南丘陵漸ク低フシテ、地勢漸ク開キ、海濱・即チ角・底邊ニ連ナルノ地、平衍開濶、直ニ大洋ニ面シ、風多シト雖モ、河渠頗ル多シ、土壤概膏沃、時ニ漲溢ヲ免カレス、全土ノ大勢、北ヨリ南ニ陵夷シ、大小ノ河流、其地勢ニ隨フテ皆其源ヲ北ニ發シテ、南・大平洋ニ朝ス、氣候、北部ハ寒、南部ハ温、平均極暑九十二度、極寒三十二度、平時風多シ

物産ノ主ナル者 鑛物ハ石腦油、石灰、雲母、動物ハ馬、鯨、魚、鮫、鯛、年魚、石斑魚、鰻、鱧、鯉、蛤、植物ハ茶、蜜柑、柿、楊梅、白甜瓜、茄子、大角豆、荒和布、綿、石花菜、椎茸、製造物ハ葛布、葛、麩、表、雲齋織、白木綿、製造食物ハ砂糖、葛粉、水飴、納豆、鹽

山論

山勢、北・信濃ヨリ來リ、其最高處ハ北・國境ヲ劃シ、派脈遙ニ南方ニ連發シテ、長短高低アリ、其間・大小ノ凹谷ヲナシ、其最長脈ハ東・大井河ト相并行シテ遠ク海濱ニ延キ、恰モ東境ヲ劃スルカ如シ

北境脈

本脈甚ク短シ、東西二大河東ハ大井河ニ盡ク、然レ北境ニ中央・大山脈ノ一支脈ニ屬シ、信濃南境ノ諸山ト相連互シ、南方内地ニ數派ヲ分ツテ、基面廣大、巨峯・峻嶺・鬱結シテ、溪壑深阻、實ニ人跡ヲ絶ツ、故ニ之ヲ過クル山徑・西方僅ニ一條アルノミ

青崩嶺越トス、領家村周智郡ヨリ和田村信濃郡ニ出ツ、縣道ナリ、此山徑、南・秋葉山周智郡ノ麓ニ沿フテ掛川驛

武田信玄ノ南侵路

大日八光ノ山

佐野ニ達ス、大約二十一里許、山隘ヲ經過シテ往時ハ最モ險隘ト云フ、永祿・天正ノ際、武田信玄父子・南侵ノ軍路ナリ、其中途・平山村アリ、北境子崩ニ近シ、峻坂崎嶇、通過ニ艱ム、當時稱シテ平山越ト云フ

本脈ヨリ岐發スル派脈、大小數條アリ、大別シテ東西二條トス、西派ハ短ク、東派ハ長シ、其西派直ニ南シテ天龍・氣田二水天龍河ノ間ニ亘リ、南端・大ニ隆起シテ秋葉山トナリ、南脚・延イテ二水天龍ノ交會點ニ盡ク、東派ハ始メ南馳シテ、周智・榛原二郡界ヲ劃シ、脈絡畧直フシテ山脊鋭ク、豐田・佐野二郡界ニ來ツテ盤結シテ大日・八光二山トナリ、是ヨリ小派又更ニ三方西南南ニ岐出シテ長短アリ、其西南ニ分ル、モノハ、天龍・諸井二水天龍河ノ

光明山  
ノニ山

間ニ延キ、幅甚廣カラス、脈絡最モ短シ、光明山其西部ニ  
聳ヘ、本宮山其東部ニ峙ツ、其南ニ分ル、モノハ諸井、曾  
我ニ水會我井川ヲ分割シテ幅頗ル狹ク、北ニ尾美山アリ、  
南ニ颯起スルヲ高平山ト云フ、東南ニ赴クモノハ即主  
脈ニシテ東大井河ト相并行シ、脈絡最モ長フシテ起伏  
高低アリ、其凸處ハ笠懸・淡岳等ノ諸山トナリ、凹處ハ國  
道東海道及二郡佐野ノ通路線里道ニ當リ、脈端又各方  
ニ分裂シ、主脈ハ東南ニ延ヒテ幅漸ク狭ク、海中ニ突出  
スル凡ソ貳里許、其端末ヲ御前崎ト云フ、巖壁立暗礁  
多シ、燈明臺ヲ其角頭ニ設ク、煉化石造、高十七丈三尺、燈  
光旋轉白色、照射九里余ニ達ス、脈中地脊廣平ノ處アリ、  
一場ノ小高原ヲナス、之ヲ牧之原又布引原ト云フ、南北

御前崎

牧之原

牧之原城

ニ長ク、北東一里南西七里四望曠漠、南大洋ニ面シテ風每ニ  
強ク、北金谷驛カヤヤ二百余ニ連リテ又水ニ乏シ、土俗稱シ  
テ金谷原ト云フ、維新以後、専ラ開墾ニ從事シ、今ハ僅ニ  
田園ヲ見ル、驛ノ北、牧之原城ノ舊址アリ、正門ノ蹟、南、諏  
訪神社ニ密接シテ國道東海道ニ臨ム、其遺址今ニ金谷臺  
ノ稱アリ、天正元年九月、武田氏ノ將、馬場信房ノ經始ニ  
係ルト云フ、始メ諏訪原城ト號ス、東ニ大井河ヲ帶ヒ、西  
日坂日坂野ノ險ヲ控ヘ、南、駿遠間ノ要路ニ臨ミ、築造精巧、  
位置要害、當時稱シテ名城トス、武田氏之ニ據レハ西、遠  
江ヲ制スヘク、徳川氏之ヲ得レハ東、駿河ヲ窺フヲ得、要  
地ナリ、勝頼其將諸將、小泉・海野等ヲ置キ、兵ヲ西南ニ發  
シテ高天神城ニ迫ル、徳川家康之ヲ憂フ、三年六月自ラ

掛川カケガハ郡佐野ニ陣シ、松平眞乘等ニ先隊ヲ率ヒテ城ヲ攻メシム、諸賀等固守下ラス、眞乘等ノ兵死傷多シ、家康來リ先是掛川驛南ニ屯シ、北向シテ疾ク攻ム、八月二十四日城陥リ、諸賀等小山城東南ニ大井河ノニ逃ル、家康城名ヲ改メテ牧野ト號シ、松井忠次ヲ諸將中ニ拔イテ城主トシ、小笠原・牧野二氏ヲ以テ之ニ附ス、忠次據守七年、勝頼屢來リ争フ、忠次毎戰皆勝テ、終ニ河ヲ濟ツテ駿河ノ諸城ニ迫ル、城址今尙辨スヘシ、近時新道零、其中六チ東西ハ日坂東ニ通ス、車馬容易ニ來往シ、行旅概此ヨリス、笠懸・淡岳ノ二山ハ其西北ニ連絡シテ二郡勝原智原ヲ界ヒシ、山脚西南ニ跨ツテ共ニ高ク、樹木鬱鬱、榎木川等ノ衆水、概此ヨリ出ツ、高天神山ハ其西南ニアリ、國道東洋道ヲ

笠懸淡ヶ岳ノ二山

高天神山

隔テ、稍遠ク、東脈ノ西南派ニ屬ス、山嶮シト雖モ高カラス、西・法多山ト相接シテ海岸ニ近シ、山頂ニ小社アリ、往時ノ城址タリ、高、大約五六丁、高天神城即是ナリ、應永ノ末、今川氏築キ而シテ其兵山内玄蕃九ヲ置ク、天文十一年以降、小笠原氏ノ有トナル、徳川家康ノ本國ニ徇フ、永祿七年、與八郎長忠之ニ降ル、此城要害ニ名アリ、元龜・天正ノ間、武田氏類リニ來リ寇ス、長忠・嶮ニ據ツテ始メハ能ク防キ、後終ニ勝頼ニ降リ、諏訪原城後牧原城ト稱スト相連ツテ頗、濱松城ノ害ヲナス、家康先ツ諏訪原城ヲ陥レテ其應援ヲ絶テ、尋テ兵ヲ移シテ屢之ヲ攻ム、其山嶮シク、城固シ、俄ニ下ス能ハス、天正九年ニ至リ終ニ之ヲ復スト云フ、西ニ連ル一山ヲ小笠山ト云フ、山身廣大、法多・

高天神城ノ址

篠原御殿  
址

三井寨址

秋葉山

曾我及ヒ高天神ノ三山皆其兒山タリ、山中赤松多シ、皆極メテ秀ツ、其西陣營ノ址ヲ存ス、土俗傳ヘテ篠原御殿址ト稱ス、四近ノ地目下ニアリ、家康ノ今川氏眞ヲ掛川城ニ圍ム、小笠原長忠ヲ高天神城ニ攻ムル、皆此ニ陣ス、ト傳フ、三井寨ハ東南全名ノ山脚上ニアリ、國安川其下ヲ流ル、天正七年、家康其將松平伊忠ニ命シテ此寨ヲ修治シ、以テ高天神城ニ追ラシム、其址狹小、今尙辨ス可シ、以上ノ諸山、多少高低アリト雖ヒ、皆東脈ヨリ岐出スル細派脈中ニ位シ、山身亦隨ツテ大ナラス、其高ク且ツ大ナルモノハ、本土ノ中央ニ在ツテハ、秋葉・光明・本宮ノ三山上ニ揚ク位置トス、此三山、氣田川ノ凹谷ヲ狹クテ南北三方ニ相鼎峙シ、秋葉山特ニ西派脈出ノ南端ニ蟠踞シ、

秋葉大居  
小川ノ三  
寨址

山脚・延イテ二水天龍ノ交會ニ迄ヒ、北ハ遙ニ國境ニ連結シテ、東北・黒法師・京丸等ノ峻嶺ニ連リ、溪壑深阻、雲霧毎ニ深フシテ、氣候良カラズ、實ニ人烟ナシ、山中・大木深鬱、松杉多ニ居ル、同名ノ縣社アリ、南脚上ニ秋葉・大居・小川等ノ數寨址ヲ存ス、秋葉寨最モ近フシテ且ツ高ク、位置頗險ナリ、南北朝ノ時、天野景隆父子其族ヲ率ヒ、井伊道政等ト宗良親王ヲ奉シテ之ニ據リ、國主今川範國ト戰、テ屢勝ツ、後興良親王モ亦此ニ潛ムト云フ

西境脈

本脈ハ始メ三河ノ東北隅北設郡ヨリ來リ、天龍河ノ屈折點豐田郡ニ至ツテ其方向ヲ南ニ轉シ、次テ西南ニ走ツテ、其余派遠ク西ニ去リ、三河渥美郡ノ半島ヲナシ、主脈

ハ復南シテ山勢漸ク陵夷シ、終ニ海岸ニ盡キ、西國境河  
 境ノ東ナリ劃ス、中央以上、山岳最モ脈中ニ列起シ、枝脈之ニ  
 隨ツテ亦其始メニ長ク、終リニ短シ、其稍長キモノハ、天  
 龍河ト零、相并行シテ二郡界佐田郡引ヲ劃シ、山多ク、谷又  
 多シ、然レモ河東天龍河ニ連亘スル本支脈ノ長ク且ツ  
 險シク、秋葉・本宮・光明・諸山ノ高ク且ツ大ナルニ如カス、  
 觀音山、獨リ郡界引佐田郡ニ峙立シテ稍著ハル、此山一名阿  
 多古又愛宕ト稱ス、西北三河設樂郡ニ通スル諸山徑越樂山  
 等、越ノ鞍合點ニ位シ、山頂平夷、南方ノ地一望ニ屬ス、永  
 祿・元龜ノ際、武田氏ノ將山縣昌景・秋山信友等、北設樂郡  
 河三ヲ經テ此ニ陣シ、掛川及濱松ヲ窺フ、三岳城址ハ其西  
 南ニ近シ、永正中、斯波義達之ニ據ル、十一年三月、今川氏

觀音山

甲將ノ古陣址

三岳城址

奥山城址

親ノ攻ムル所トナリ、西走シテ奥山城ニ入ル、奥山城址  
 ハ三岳ノ西一里許ニアリ、其地奥山村引佐田郡ニ屬ス、城址  
 ハ村中・高平ノ處ニアリ、西境ニ密邇シ、狩宿峠ノ山徑ニ  
 臨ム、往時井伊氏ノ族・奥山朝藤ノ築シ所ト傳フ、此邊往  
 時ハ總テ井伊谷ノ郷ニ屬ス、西境脈ノ偏坡ニアツテ、地  
 勢頗險隘ナリ、延元元年京師ノ亂、井伊道政・宗良親王ヲ  
 奉シテ朝藤等ト之ニ據ルト云フ、後永祿十一年十二月、  
 徳川家康ノ始メテ兵ヲ本國江遠ニ用ユル、此地ヲ以テ屯  
 軍ノ要地トシ、狩宿峠ヲ越ヘテ此ニ陣ス  
 國境ヲ經過シ、西三河ニ通スル山徑數條アリ、左ニ枚舉  
 ス  
 第一 黒瀬越トス、天龍河ノ右岸ニ近シ、川上村引佐田郡ヨ

第一 畑村設三河北ニ出ツ、里道ナリ  
 第二 巢山越トス、巢山村引佐ヨリ巢山村設三河北ニ出  
 ヲ、風來寺路ト稱ス、里道ナリ  
 第三 的場峠越トス、黒田村引佐ヨリ上吉田村設三河南  
 ニ出ツ、信州道ト稱ス、里道ナリ  
 第四 狩宿峠越トス、奥山村引佐ヨリ寶楊村設三河南  
 出ツ、永祿十一年十二月、徳川家康本國ヲ零セント欲  
 シ、先ツ諸將ヲ集メテ本國ノ地圖ニ就キ、備サニ山河  
 ノ形勢及ヒ道路ノ險夷ヲ檢察シ、次テ其軍ノ向フ所  
 ヲ議定シ、遂ニ吉田城三河豊橋ヲ發シテ此ヨリ入  
 リ、奥山村出前ニ屯スト云フ  
 第五 宇利峠越トス、岡本村設智ヨリ富岡村三河八ニ

出ツ、里道ナリ  
 第六 平山村設智ヨリ萩平村八名ニ出ツ、樵路ナリ  
 第七 本坂越トス、本坂村長上ヨリ嵩山村八名ニ出ツ、  
 此線路、濱松以西、湖名ノ北涯ヲ繞ツテ國境ニ達ス、  
 路稍濶シ、縣道ナリ、三方原激戦後、天正元年正月、武田  
 氏ノ兵此山徑ヲ踰ヘ、參河ニ入り、野田城設南ヲ圍ム  
 第八 大知波村長上ヨリ多米村八名ニ出ツ、里道ナリ  
 第九 新所道トス、新所村長土ヨリ中原村三河ニ出  
 ヲ、道概坦夷、車馬容易ニ來往ス、維新以降ノ新開ニ係  
 ル、故ニ新道ノ稱アリ、此新所以東ハ、水路湖名ヲ横  
 キツテ鑿渠ヲ過キ、濱松驛ニ達シ、西ハ上之原設知ノ  
 原ヲ經テ三河ニ入り、國道線ニ合ス

第十 東海道トス、西境脈ノ稍、南端ニアリ、白須賀驛名  
郡ヨリ二川驛三河郡ヲ經テ豐橋驛上ニ達ス、國道線  
號二ノ通スル所ナリ

水輪

天龍河ノ水路及其潮流

天龍河ノ水路

本河ノ源、遠シ、北信濃ノ諏訪湖諏訪郡ニ發シ、其伊奈郡ノ  
中央ヲ南ニ流レ以上信濃次テ東西ニ國境脈ヲ兩斷シ、  
其東脈ハ本國ノ北境ヲ劃スルモノニシテ、西脈ハ三河  
ノ東北境ナリ、此處、兩崖峭立、水面頗低フシテ、激流毎ニ  
聲ヲナス、遠クヨリシテ之ヲ望メハ、其峽口、恰ハ凹字形  
ヲナス、左岸上一山徑アリ、即アヲシメテ青崩嶺越ナリ、北境脈ノ次

水輪

宗良親王  
行宮ノ址

大井村  
川氏ノ碑

テ南流シテ兩國ノ境三河ヲ劃シ、中部村豐田ニ至ツテ  
右ニ一水ヲ納レ、水路此ヨリ俄ニ東南ニ轉折ス、山脈ア  
リ、此屈折點ヨリ遠ク西南ニ連ツテ國境ヲ劃ス、即チ西  
境脈ナリ、其山脚北、諸山ト兩岸ニ對峙シ、地勢頗峻、水  
卷連址ハ中部村ニアリ、河ノ屈折點ニ臨ム、往時、奥山定  
實此ニ居ル、永祿三年、徳川家康、片桐家正ニ命シテ之ヲ  
廢シト云フ、東ニ近フシテ行宮ノ遺址ヲ存ス、佐村久其地  
亦險、南北朝ノ時、宗良親王ノ居リシ所ト傳フ、二寨共ニ  
河ニ濱シ、東北ハ水窪郡ノ一村、西南ハ黒瀬郡越一山徑第  
ニ通スル山徑線ニ列ス、次テ左ニ水窪川又生川ヲ納ル、大  
井村此交會ニアリ、秋葉山ノ西北脚ニ屬シ、其地高シ、天  
正四年六月、徳川家康ノ陣地ナリ、次テ豐田郡ノ中央ヲ



南ニ蛇行シ、右ニ數小流ヲ納ル、秋葉山ノ西麓ヲ流レテ  
 左ニ氣田川ヲ納レ、次テ東南ニ轉シテ光明山ノ西南ヲ  
 過キ、右ニ阿多古川ヲ納レ、次テ二俣驛ニ入リ、千ノ南ニ至  
 リ、其水ニ大深ニ分レテ數小島豐田郡瀬木島等ナケリ、ナ抱擁シ、  
 根木島ニ至リ復合シテ南流ス、其間左ニ一朝流ヲ納レ、  
 一支派ヲ分ツ、其朝流ヲ二股川ト云フ、支派ヲ小天龍ト  
 云フ、共ニ下ニ二股驛ハ其北、光明山ノ南脚上ニアリ、濱松  
 以北國境ニ通スル兩道線信州道秋葉道ニ列スルノ驛次ニシ  
 テ人烟稍繁シ、豐田郡ノ名邑ナリ、全名ノ城址アリ、驛ノ  
 西ニ懸壁上ニ位シ、河水天龍遙ニ其下ヲ流ル、文龜中、二股  
 昌長・築キ而シテ之ニ據リシ以降、久シク今川氏ノ屬城  
 ナリ、永祿ノ終ニ至ツテ德川氏ニ歸ス、元龜三年十月武

二股驛  
 二股城址

田氏ノ圍ヲ受ク、此城素ヨリ要害ニ位シ、守備又堅固ナ  
 リ、獨リ用水ニ欠ク、毎ニ遙ニ河水天龍ヲ汲ミ、其用ニ供  
 ス、勝頼等ノ敵將之ヲ覺ル、乃チ筏ヲ水面天龍ニ浮ヘ、其汲  
 道ヲ絶ツ、城中忽チ困ミ、守將中根等、城ヲ開イテ退ク、信  
 玄其將依田信蕃ヲ置ク、家康・壘寨ヲ其南・鳥羽山等右岸  
 ノ渡ケ島村ニアリニ築キ、大久保忠世等ナシテ頻リニ  
 追リ之ヲ攻ム、信蕃據守僅ニ一年、終ニ支ヘス高天神城  
 ニ逃ル、城復テ德川氏ニ歸ス、家康因テ忠世ニ與フ、天正七  
 年、家康ノ長子信康、織田信長ノ嫌疑ヲ受ケ、此城中ニ自  
 殺ス、城・明年ニ至ツテ廢ス、天龍河次テ豐田郡ノ中央ヲ  
 南ニ貫キ、中野町村ノ東ニ至ル、長橋アリ、天龍橋ト云フ、  
 長橋十三間、余十六、木橋ナリ、國道線二號東ヲ互續ス、次テ鶴

日本部 十

見村郡長上ニ來リテ水復、兩派ニ分レテ數島ヲ抱キ、其西派ハ長上郡ノ東南端ヲ流レテ、再ヒ豐田郡ニ出テ、東派ト合シテ南海ニ朝ス、國境以下、水路大約三十里許、瀾處・七丁半、中央以上、山岳左右ニ連結シ、北スルニ隨ツテ兩岸益、險、中央以下、東西ノ地、漸ク開ケ、南スルニ隨テ急、坦、下流東派ノ末、小天龍川ノ水ヲ合シテ、河口瀾大、一小嶼中渡アリ、其西南口ヲ遮リ、内ニ一港ヲナス、掛塚港東十四、海岸ノ北、十八丁ニ條ト稱ス、此ヨリ以北十數丁、往時ハ總テ海水浸入シ、一大灣ヲナス、之ヲ稱シテ磐田海ト云フ、爾後年ヲ經ルノ久シキ、上流ノ砂土、漸ク堆積シテ南北二小島ヲナス、此南島ノ南、河口ニ面シテ一名邑アリ、亦稱シテ掛塚百八、人口三千五百ト云フ、人烟稍繁シ、永祿十二年

掛塚

三月、今川氏ノ水兵、戰艦ニ乗シテ來リ侵ス、家康・大須賀・柳原・鳥居ノ三將ヲ遣シ、擊テ之ヲ退ク、

左朝流

第一 水窪川又村生川ト云フ、源ヲ北・國境ノ村生山ニ發シ、深山ノ阻隘ヲ西南ニ激流シ、青崩嶺等ヨリ瀝陽スル諸溪水ヲ合シ、水窪村郡ヲ過キテ、蜿蜒・南ニ流レ、相月村ニ至ル、水窪村・山隘中ニ在ツテ、稍聚落ヲナシ、北ハ青崩嶺、南ハ秋葉・光明二山ヲ過キテ、掛川及濱松ニ達スルノ山徑ニ列ス、元龜・天正ノ際、武田父子信玄伊奈信濃郡ヨリノ南侵路ニ當ル、其對岸ニ古城址アリ、位置頗險、建武・延元年間、奥山正定一作則築キ、而シテ之ニ據リ、勤王ス、爾後子孫世襲、其裔貞益ニ至リ、永祿中、遠山土佐信濃

水窪

大洞若子  
ノ集址

勝坂ノ集  
址

八ノ陷ル所トナル、其弟定吉退キ、大洞若子、集相月村ニ保ス、其遺址左岸ニアリ、地勢亦險ナリ、次テ西南ニ流レテ秋葉山ノ西北ヲ過キ、大井村ニ至ツテ天龍河ニ朝ス、水窪以上、峻嶺巨峯連互シ、雲霧毎ニ深クシテ人烟ナシ、第二 氣田川ハ、京丸山周智郡ノ北、深山中ヨリ濫觴シ、南流シテ京丸・龍頭二山ノ間ヲ過キ、勝坂村ニ至ツテ左右ニ二溪流ヲ納ル、此ヨリ以上、萬山重疊、溪谷深遠、實ニ人跡ヲ絶ツ、勝坂村ニ集址アリ、南ニ近キ峻坂ヲ鹽見坂ト云フ、又其東北、牡丹谷ニ連ツテ凹谷ヲ南北ニシ、地勢極メテ險阻ナリ、天正ノ初、天野宮内・勝坂ノ寨ニ據リ、始メ今川氏ニ屬シ、後武田氏ニ通ス、四年四月、徳川家康之ヲ攻ム、宮内出テ鹽見坂ノ險ニ要ス、家康ノ兵、死傷多ク、

征峯ノ寨  
址

金川

田河内  
ノ集址

家康更ニ大久保忠世ニ命シ、銃手ヲ率ヒテ其後山石ヶニ上リ、直ニ敵陣ヲ下射ス、敵兵驚擾、宮内終ニ寨ヲ捨テ、逃ル、氣田川次テ氣田村ヲ過ク、村ノ東ニ笹峯山アリ、氣田川其北ヲ繞リ、山南峻急絶壁ヲナス、山ニ寨址アリ、永祿中、天野虎景父子ノ據シ處ト云フ、次テ左ニ金川名一川ヲ納ル、其源東北、川上山中ノ瀑布七十五ヨリ成ル、兩岸山迫リ、谷深シ、川幅濶所殆ト四十間、氣田川次テ西南ニ流レ、熊切川ヲ左ニ納ル、其水大日山隣原周智二ノ西北谷ヨリ發シ、西流シテ田河内ガナ・筏戸イカ・大上オシキ・長藏寺チヤウ等ノ數村ヲ過キ、河内村ニ至ツテ氣田川ニ朝ス、小流ナリ、幅濶所僅ニ十五間許、三村長藏寺以上各、壘寨ノ遺址ヲ有ス、其田河内ニアルヲ梅山寨ト云ヒ、筏戸・大上ニアルヲ萩野

寨ト云フ、共ニ天野氏ノ支堡ト傳フ、樽山、寒山徑ノ四出  
 點ニ位シ、四方山谷ヲ繞ラシ、位置最モ險ナリ、天正ノ初  
 武田氏ニ屬ス、尋テ德川家康ノ陷ル所トナル、氣田川次  
 テ市場、若身平二村間ヲ過リ、渡アリ、川幅大約八十間許、  
 水少シ、幅約十間、右岸ノ地、秋葉山ノ東南麓ニ屬シ、數村ヲ  
 合稱シテ、堀内村ト云フ、西、犬居村ニ連リ、地勢最モ西北  
 ニ險阻ナリ、其市場村、古ヘ犬居城又乾トノアリシ所ニ  
 シテ、今ノ瑞信庵一寺中ノ其遺址ト傳フ、僅ニ斷壘ノ蹟ヲ  
 存ス、元弘以降、天野氏世襲ノ本據ニシテ、久シク今川氏  
 ニ隸屬シ、此村以北、周智郡ノ大半ヲ畧有シ、兵勢頗強シ、  
 永祿・天正ノ際、其裔宮内景貫ニ至リ、土地ノ險、兵馬ノ強  
 キヲ特ニ、又密ニ武田氏ニ通シ、以テ德川氏ニ抗ス、天正

犬居城址

二年四月、家康兵ヲ分ツテ二道豐田郡本宮山ヨリ入リ、  
 先隊進ンテ若身平出前和田谷市邊村ノ西、河ノ左等ノ各  
 所ニ屯シ、家康本營ヲ瑞雲坂若身平ノ小、奈真安ニ置キ、諸  
 軍ヲ督シテ河川氣田ヲ濟リ、直ニ犬居城ヲ攻ントス、時ニ  
 大雨滂沱、氣田川俄ニ漲リ、濟ルヲ得ス、曠日彌久、河ヲ隔  
 テ、南北相對ス、左岸以南ノ地、本宮山ニ連ツテ山岳連  
 屹、山徑險隘、又大雨ニ逢フ、車馬通セス、糧運絶ヘ、徳川  
 氏ノ軍、俄ニ糧食ニ欠ク、家康退キ三倉山本宮山ニ接スニ陣  
 ス、城兵犬居城樽山・光明寺二寨ノ兵ト前後ヲ遮リ、追擊  
 益急ナリ、大久保忠世等殿戰殆ト敗レ、士卒死傷頗多シ、  
 三倉山・地理惡シ、敵ヲ防クニ便ナラス、家康復退テ天方  
 城三倉山ノ東南ニ入ル、四年二月、家康再舉シ犬居城ヲ

攻ム、景貫退キ、勝坂（前出）ニ保ス、家康進ミ、樽山（前出）ニ陷  
 イレ、勢ニ乗シテ勝坂寨ヲ攻ム、（前條ニ）氣田川次（和）田  
 谷村ヲ過ク、渡アリ、此處河床濶ク、（凡）水幅狹シ、（北）  
 ハ秋葉山、南ハ光明山ヲ經テ二股驛（出前）ニ達スル山徑線  
 ナ通ス、次テ西流シテ豊田郡ニ入り、末流縣道線（信州）ヲ  
 横截シテ千草村ニ至リ、天龍河ニ朝ス、長大約十六里  
 第三 二股川ハ本宮山ノ西、（方）瀬村（田）ノ山中ヨリ濫  
 觸シ、始メハ西流シテ只來山（東）ニ村ヲ過キ、後西南ニ轉  
 シテ二股驛（出前）ノ東ヲ過キ、瀬崎村ニ至ツテ天龍河ニ朝  
 ス、小流ナリ、只來山（東）ニ村ハ上谷ニアリ、其地共ニ險、各  
 寨址アリ、其山東ニアルテ光明寺寨ト號ス、享祿中、朝比  
 奈時茂ノ築シ所ニシテ、天正ノ初其孫又太郎襲キ、亦之

只來山東ノ二寨址

ニ居リ武田氏ニ屬ス、家康ノ犬居城ヲ攻ムル、又太郎密  
 ニ之カ備ヲナシ、北、景貫ニ應シ、東、樽山寨ト相約シ、東西  
 齊シク兵ヲ出シテ家康ノ退軍線ヲ絶ツ、家康苦戰、其良  
 爲メニ多ク死ス、三年六月家康兵ニ將トシ來リ攻メ、二  
 將（本多忠勝）ヲ遣リ攻メテ其前門ヲ破リ、自ラ移ツテ横  
 川村（上谷）ニ陣ス、寨後ノ一山ヲ鏡山ト云フ、山徑アリ、  
 頗險隘ナリ、横川村ヨリ達スヘシ、家康自ラ輕兵ヲ率ヒ  
 テ山上ニ出テ直ニ下ツテ寨後ヲ襲フ、寨兵驚擾支フ能  
 ハス、又太郎俄ニ降ヲ乞フテ甲州ニ奔リ、寨忽テ陷ル、家  
 康大久保忠世ノ兵ニ之ヲ守ラシム

左支流

天龍河支流多シ、其最モ長ク且、大ナルモノヲ小天龍ト

句坂ノ古  
戰場

稱シ、本河ヲ大天龍ト云ヒ、以テ本支ヲ區別ス、小天龍ノ  
 水、掛下村ニ又作ル下ヨリ分レテ南流シ、句坂村ニ一置坂ノ  
 西ヲ過ク、此村、長堤ニ沿フテ南ニ長ク、村上分ル下、東、磐  
 田、原、南、北、約三、里、中ニ連ツテ頗、開ク、建武二年十二月、官  
 軍、東、兵、ト、古、戰場、ナリ、次、テ、加、茂、東、村、ヲ、過、ク、一、官、村、其  
 南ニ隣ス、村ニ一官坂ノ名ヲ存ス、元龜三年十月、家康ノ  
 先隊、本多忠勝等、袋井及見附ヨリ退キ、竹木藪柴ヲ集メ  
 テ此坂頭ニ堆積スル恰モ丘陵ノ如ク、又銃手ヲ竹林中  
 ニ伏セ、以テ武田氏追兵ノ至ルヲ待ツ、追兵果シテ來リ  
 追ル、忠勝令シテ火ヲ其薪ニ放チ、又銃ヲ發シテ敵ノ進  
 軍線ヲ遮リ、煙塵ニ乘シテ兵ヲ退ク、萬能村ハ水ヲ隔テ  
 、其西南ニアリ、此邊往時ハ河幅頗、廣シ、建武三年十二

月、官軍大ニ伊豆府島伊豆三ニ潰ユ、新田義貞退キ天龍河  
 ニ至リ、浮橋ヲ造リ軍ヲ濟スト、當時ノ河床想フ可シ、爾  
 後、年ヲ經ルノ久シキ、水路屢轉變シ、砂礫漸ク中流ニ委  
 積シテ河身ヲ分ツ、大小天龍ノ名因テ以テ起ルト云フ、  
 小天龍ノ水、今ハ甚、濶カラス、平時ハ極メテ淺ク、遙ニ往  
 時ト異ナリ、天正二年九月、武田勝頼歩騎二萬ニ將トシ、  
 見附ヨリ進ミ天龍河ニ當テ、大、小、ナ、濟、ツ、テ、將、ニ、濱、松、城、知、數、  
 郡ヲ攻ントシ、左岸、龍、今、ノ、左、岸、天、ニ、陣、ス、時、ニ、霖、雨、連、日、天、龍、  
 河、大、ニ、漲、リ、奔、流、矢、ノ、如、ク、涉、ル、能、ハ、ス、德、川、家、康、步、騎、七、  
 千ヲ分ツテ九隊トシ、家康自、上、流、ニ、陣、シ、諸、隊、右、岸、ニ、相、  
 沿フテ南方下流ニ相列シ、田、村、ノ、東、ニ、ア、リ、ト、云、フ、勝、頼、  
 ノ、軍、半、濟、ル、ヲ、待、ツ、テ、南、北、ヨ、リ、夾、ミ、撃、ント謀ル、勝、頼、覺

水路ノ退

ラス濟リ戰ハント欲ス、馬場山縣ノ二將之ヲ諫止ス、乃  
ナ北・右岸天今ノ小沿フテ二股城ニ入り、終ニ井伊谷佐引  
一ノ村ヲ過キ、平山越周智北青崩山徑ノ四麓ニテ經テ信濃  
ニ歸ルト云フ、小天龍川次テ平地ヲ西南ニ貫流シテ、島大中瀬二村ノ間ヲ過キ、切増川ト合シテ西ニ折レ、掛  
標港ニ注ク、水路略、大天龍ト相並行シ、其間一長島ヲ挾  
ミ、地勢平夷、左岸ハ國道線海道東東西ニ通シ、長堤連延、  
其東方ニ連ルノ地、丘陵起伏シテ波狀ヲナシ、處々ニ小  
坂坂坂坂等一アリ

右朝流

西境脈ノ北部、本河天龍ト相距ル最モ近キヲ以テ、其東  
坡ニ發シテ本河ニ注ク諸朝流ハ、皆甚短フシテ奔湍ニ

渡カ島村

過キス、獨リ阿多古川稍著ル、源ヲ熊神村豐田郡ノ山中  
ニ發シ、觀音山北引佐郡前出ノ東北ヲ繞ツテ東南ニ流レ、  
水路畧郡界線佐豐二郡引ニ並行シ、渡島村ニ至ツテ天龍河  
ニ朝ス、熊神村ハ山徑ノ四集點ニアリ、北ハ黒瀬越四山  
中ノ僻村ナリ、渡島村ニ寨址アリ、位置高シ、二水天龍阿  
河ノ交會ニ臨ム、土俗稱シテ砦山ト云フ、徳川家康ノ二  
股城光明山前山麓ヲ攻ムル、元龜三年六月、鳥羽山城二股  
南ニ出テ和田島島即渡等ノ三寨ヲ築キ、以テ之ニ迫ルト、渡  
島寨即其一ト云フ  
天龍河ノ東西ニ列シテ大小數流アリ、其水路地勢ニ從  
フテ概其方向ヲ齊フシ、畧相并テ長短緩急アリ、其  
東部ヲ流ル、モノハ、概長ク且直フシテ南海ニ注入シ、

西部ヲ流ル、モノハ、皆短フシテ多少屈曲アリ、流末概々  
腋發スル本支山脈ノ形勢及遠近ニ隨ヘハナリ、今先ッ東  
諸川ノ水路ヲ左ニ列記シ、次テ西諸川ヲ其尾ニ揭ク

天龍河以東ノ諸川

第一 太田川上流ヲ葛布川ト稱ス、源ヲ本宮山ノ東ニ  
倉村ノ東北ニ發シ、右ニ小流ヲ納ル、其上谷ニ田能及ヒ大  
窪ノ二村アリ、北ハ若身平岸氣田一川左南ハ三倉村ニ通ス  
ル山徑ニ連ナル、徳川家康ノ犬居城出前ヲ攻ムル、大雨川  
漲リ氣田又糧餉ニ缺ク、因テ軍ヲ返シテ此二村大窪ヲ  
過ク、土寇蜂起、榑山・光明寺二寨ノ敵又出テ、東西ヨリ  
其後軍ヲ夾ミ撃ツ、家康先ッ退キ三倉山ニ據ル、大久保

天方城

忠世等嚴戰甚勉ム、此地險隘、頗進退ニ艱ム、敵之ニ乘ス、  
家康ノ兵死傷多シ、僅カニ敗兵ヲ收メテ天方城ニ退ク、  
此城・太田川ヲ隔テ、城下村ノ東南ニアリ、其地ヲ向天  
方ト云フ、南・吉川左朝トノ交會ニ臨ミ、北山ヲ負フ、位置  
堅固ナリ、永祿・元龜ノ際、今川氏ノ將天方四郎・山内山城  
相次キ之ヲ守ル、氏眞ノ掛川城後ヲ去ル、家康ノ先隊  
大須賀康高・榑原康政等來リ攻ム、城將山城出降ル、家康  
因テ山城ヲ置ク、元龜三年九月、武田信玄ノ多々良・飯田  
二城後ヲ陥ル、天方城亦之ニ降ル、信玄其將久能忠宗  
ヲ置ク、天正元年三月、家康平岩親吉ヲ遣リ之ヲ攻ム、忠  
宗甲州ニ奔リ、山城再ヒ降リ、城復シ、徳川氏ニ屬ス、城ノ西  
南・河川太田ヲ隔テ一名邑アリ、森町七八百ト云フ、警察署

森町



飯田古城

敷知川

社山

磐田ヶ原

及郡役所周智郡アリ、本郡周智郡諸道ノ中集點ニ位ス、太田川次テ西南ニ流レテ飯田村ヲ過シ、其一山上飯田山古、全名ノ城アリ、今ノ崇信寺其址ト云フ、天方城ノ徳川氏ニ降ル、守將山内大和此城ニアリ、敢テ降ラス、戦ヒ死シテ城陷ル、太田川次テ豊田郡ヲ經テ山名郡ニ入り、右ニ敷知川ヲ納ル、其水本宮山ノ西南豊田山川中万瀬ヨリ濫觴シ、南流シテ山田村ヲ過シ、社山社山村其西ニ隣ス、其高キ處凡八同名ノ寨址ヲ存ス、四方峻急、恰モ絶壁ヲナシ、南磐田ヶ原ニ連ツテ地勢頗開シ、天正元年六月、家康更ニ數寨ヲ築キ、以テ二股城二股川ノ右岸ニ追ルト、此寨即其一ナリ、菅沼定平之ヲ守ルト云フ、次テ磐田ヶ原ノ東ヲ流ル、平原廣漠、頗南北ニ長シ、東凡三里半、山名郡ノ西

向笠寨

北ニ及フ、往時ハ大道稱ト其中央ヲ東西ニ貫クト云フ、今ハ縣道南北ニ貫キ、北ハ社山村ヲ經テ二股驛ニ、南ハ句坂句坂及一言村ニ、又一路アリ、其中央ヨリ東北ニ岐分シ、河川敷知ヲ經テ向笠村ニ達ス、木橋アリ、路線ヲ通ス、明治橋ト云フ、長四三間一水アリ、東北ヨリ來ッテ橋南ニ會ス、其濼滙ニ臨ンテ古ヘ一寨アリ、天正元年三月、家康酒井忠次ヲシテ鳳來寺三河國設樂郡ニスリ、ヲ拔カシメ、次テ向笠一作六一宮飯三河寶兩寨ヲ陷ルト、向笠ハ即此寨ト傳フ、當時ハ向笠伯耆此寨ニアリ、武田氏ニ屬スト云フ、其址平地ニアリ、今皆陸田トナリ、里俗稱シテ城跡ト呼フ、次テ東南ニ流レテ、山名郡ニ入り、太田川ニ朝ス、水路概平地ヲ貫流シテ甚疾カラス、太田川既ニ敷知

原野谷川

本郷西山  
細谷吉岡  
高田ノ五  
案址

川ヲ合シテ水漸ク増加シ、始メテ太田川ノ稱アリ、國道  
線二號東ヲ截流シテ稍東南ニ赴キ、中村ニ至ッテ左ニ  
 原野谷川ヲ納ル、此水東北淡岳周智郡ニアリヨリ澄  
 觴シ、西南ニ流レテ本郷村ニ至リ、一水ト相會シ、次テ南  
 ニ蛇行シテ西山細谷・吉岡・高田等ノ數村ヲ過ク、以上ノ  
 五村各壘築ノ遺址ヲ有ス、其位置多クハ高處ニアリ、水  
 ナ隔テ、相近シ、皆僅ニ辨スヘシ、獨吉岡ニアルモノ壘  
 壘今ニ依然タリ、丁方一其地スモメ・田原吉岡村ノ北畔ニアリ、  
 或ハ長者屋敷ト呼フ、元龜天正ノ際、飯田和泉之ニ據ル、  
 初、今川、後武田ニ屬スト云フ、高田ノ寨、東・各和村ノ境ニ  
 跨ル、其址ヲ金塚ト呼フ、水戸口ノ稱ヲ存ス、傳ニ曰フ、天  
 正元年、家康遠州ノ地ヲ定ム、遠州ノ諸將多ク甲州ニ奔

掛川

佐夜中山

リ信玄ニ屬ス、信玄遠州ヲ畧スルニ至リ、皆其鄉導ヲナ  
 ス、軍ヲ旋スニ及ヒ、諸將ヲ遠州ニ留メテ余黨ヲ招集シ、  
 天方・六笠・可久和客又客及ヒ二股ノ諸城寨ニ據リ、以テ  
 濱松城ニ逼ル、三月家康・石川家成・久能宗能ヲシテ可久  
 和城ヲ攻メシム、城兵戰ハスシテ走ルト、高田村ノ寨即チ  
 是ナリト傳フ、次テ國道線海二號東ヲ截流シ、原川村ノ南  
 ニ至ッテ左ニ掛川ヲ納ル、其源東北・日坂驛ノ北・山中ニ  
 發シ、初ハ南流シテ日坂驛ノ東ヲ過キ、次テ西南ニ流レ  
 テ國道線海二號東ト相並行シ、次テ復國道上ニ截流シテ  
 掛川驛九八〇三ノ北ヲ過ク、其上谷ハ日坂峠ノ山徑國道  
 即東ヲ開キ、東・金谷驛ニ通ス、佐夜中山其中途ニアリ、屈  
 曲高低頗多シ、著名ナリ、近時ハ新道其北ヲ通シ、西ハ日

掛川

坂、東ハ金谷二驛ヲ連繫シ、古道國ノ險且狹キカ如クナ  
 ラス、山隘ヲ迂廻シテ車馬容易ニ來往ス、掛川驛ハ日坂  
 ノ西南大約二里許ニアリ、人家稍東西ニ長ク丁東南北十五  
 余南岸ニ沿ヒ、國道線海道二號東ニ列ス、治安裁判所、警察署、  
 郡役所郡佐野城東ニ等アリ、太田氏ノ舊治所ニシテ、明治  
 ノ初、徳川氏ノ封ニ屬ス、城址ハ驛ノ北ニアリ、牙城最モ  
 高シ、本丸山ト稱ス、東北天王山ト相對シテ殆ト密接シ、  
 南、青陀山一作青田山ヲ距ル亦遠カラズ、永正十年八月、今  
 川氏築キ而シテ、朝比奈泰能ヲ置キ、本國ノ要鎮トス、後  
 氏眞ノ駿河ヲ失シテ此城ニ居ル、塹壘頗堅固ト云フ、永  
 祿十一年十二月、徳川家康諸將酒井成忠等石ヲ率ヒテ來  
 リ圍ミ、堡壘ヲ築キ繞ラシ、自ラ移ツテ天王山ニ陣シ、諸

掛川城址

倉真川

倉真村

曾我山

軍ヲ督シテ四面齊シク城ニ迫ラシム、朝比奈泰朝、氏眞  
 ナ助ケテ守禦甚力ム、又兵ヲ出シテ敵營ヲ襲フ、城險ニ  
 人勇ナリ、俄ニ下ラス、家康乃軍ヲ返ス、明年正月復來リ  
 圍ム、亦下ラス、終ニ和ヲ媾ス、城、徳川氏ニ屬ス、五月家康  
 石川家成ニ與フ、沿革史事後山内一豊ノ此城ニ主マ  
 ル、更ニ遑ヲ浚フテ水ヲ深フシ、松平定勝之ニ代ツテ又  
 新ニ天守閣ヲ造ル、今ハ廢頽ニ委ス、掛川次ヲ右ニ食眞  
 川ヲ納ル、其源、倉真村淡岳ヨリ發ス、此村掛川驛ノ北、山  
 中ニアリ、豪戸多シ、又二築址アリ、一ハ世樂院内一村ノ字ニ  
 アリ、松浦兵庫之ニ居ル、一ハ字、松原ニアリ、川井成信之  
 ニ居リ、共ニ今川氏ニ屬スト云フ、掛川次ヲ國道線東海道  
 道ヲ截流シ、高御所村ヲ過シ、地勢南ニ高シ、其曾我山ニ

久能城址  
ノ二城址

宇刈川

一築址アリ、永祿ノ初、小笠原長忠城主天神ノ支堡タリ、家  
康ノ掛川城ヲ攻ムル、堀クニ酒井正親・松平玄蕃ノ二將之  
ニ據リ、諸壘寨ト相應援シテ掛川城ニ迫ルト云フ、次テ  
西流シテ右ニ垂木川ヲ納レテ原野谷川ニ朝ス、以上ノ  
數流、山脈若クハ丘陵間ヲ經過シテ、兩岸ノ地、概テ開ケス、  
道路道國高低アリ、水路・屈曲多シ、原野谷川既ニ掛川ヲ合  
シテ其水増加シ、西流シテ山名郡ニ入り、袋井驛ノ南ヲ  
過キテ右ニ宇刈川ヲ納ル、其水・北・馬谷・三澤二村間周智郡ノ  
南ヨリ出テ、南流シテ山名郡ニ入り、袋井驛ノ西ヲ繞ッ  
テ原野谷川ニ朝ス、上流ハ岡陵起伏シ、末流ハ稍平夷ナ  
リ、二城址アリ、東西・水ヲ隔ツ、其東ニアルヲ久能城トス、  
其地高平、左岸ニ臨ム、永正以降、久野又久能宗能之ニ據

リ、初ハ今川、後徳川ニ屬ス、宗能・佐倉下總郡印ニ移ルニ迄  
ヒ、松下重綱・代リ封セラレ、次テ數主ヲ歴テ、元和中、廢城  
トナル、堀越城ハ其西南ニアリ、海藏寺其址ト傳フ、右岸  
ニ近シ、往時今川仲秋ノ居シ所ト云フ、位置甚高カラス、  
又狹シ、天正元年八月、武田信綱本國ヲ畧シ、森村今ノ森  
ア北ニテ經テ來リ攻ム、大須賀康高・柳原康政等邀ヘ戰  
ツテ大ニ勝ツ、信綱僅ニ身ヲ以テ免ル、水路次テ山名郡  
ノ中央ヲ南ニ蛇行シ、中村ニ至ツテ太田川ニ朝ス、太田  
川諸朝流ヲ合シテ河幅漸ク廣マリ、南流シテ大島村ニ  
至リ海ニ朝ス、長、大約十六里、濶處一丁十五間、水路三郡  
山豐田周智郡ヲ經過シテ甚直カラス、森町周智郡以上、山隘  
間ヲ流レテ岸概高ク、水甚淺シ、森町以下、兩岸ノ地漸ク

開ケ、水又深フシテ舟筏ヲ通スヘシ、本州中・天龍・大井二河ニ亞クノ長流ナリ、流末・木橋ヲ架ス、港橋ト云フ、長一十間、東ハ靜波町、西ハ掛塚湊ニ達スル路線ヲ互續ス、橋南ニ一名邑アリ、福田ト云フ、六八口、南・同名港ニ濱シテ人烟稍繁シ、其西一水アリ、西北ヨリ來ツテ西南ニ注ク、今、蒲川ト云フ、其源見附・中泉間ノ一小池ニ發ス、見附ハ國道二道、東ニ列スルノ驛次ニシテ、市街稍東西ニ廣シ、東四十八丁、西四十四丁、南北警察署・電信分局及郡役所、田舎田ニ等アリ、城址アリ、見附・端城又古城ト稱シ、其地ヲ御所道場ト呼フ、南北二郭ニ分ル、南郭方正、十方七許、内ニ大見寺ヲ建ツ、北郭ハ南北ニ長シ、南北六十步、其址今皆田圃トナル、堀越用山、今川氏ノ築キ、所ト傳フ、

福田港

見附驛

見附端城

城崎城址

國府ノ址

其南ニ接シテ又一城址アリ、城崎城又新城ト稱ス、西貝ノ塚村ニ屬ス、外郭亦方十步、凡五今ニ土壘ノ形ヲ存ス、古ヘ國府ノアリシ所ニシテ、鎌府ノ初、守護安田義定之ニ居リ、西・平氏ヲ防クト云フ、南北朝以後、今川氏ノ本國ヲ領スル、天文十年ニ至リ、國府ヲ廢ス、府廢シテ後、永祿十二年正月、徳川家康見附端城ヲ毀ツテ更ニ城崎城ヲ府址ニ築キ、以テ治所トナサント欲ス、故ニ新古兩城ノ別稱アリ、新城・東北ノ地、遠ク平原、原田ニ連ツテ土味乾燥ニ過キ、西南ノ地、海水近ク、變入ノ今浦川ニテ、地質沮洳、殆ト清水ニ欠ク、家康因テ又引馬、今松ノニ築キ、終ニ移リ治スト云フ、或曰、家康其地ヲ織田信長ニ問フ、信長引馬ヲ以テ答フ、當時武田氏頻リニ東方ヨリ來リ侵ス、信長ノ意、

中泉

蓋シ天龍河ヲ以テ一大防禦線トシ、且尾張以東、應援ノ路稍近キヲ以テナリ、故ニ家康治テ濱松ニ定ムト云フ、中泉ハ見附ノ西南一里許ニアリ、西小天龍川ノ左岸ニ近シ、人家多シ九口三千、警察署ヲ置ク、名色ナリ、往時ハ東海道見附驛ヨリ此處ヲ通ス、今ハ見附以西其北ヲ過キ、直ニ河岸小天龍川ニ達ス

第二 横須賀川ハ高天神山ノ西、法多山ノ南谷中ヨリ濫觴シ、南流シテ水路二郡界城東山名ヲ出入シ、松下名郡三輪城東等ノ數村ヲ過キ、流末東南ニ轉シテ横須賀五口余五千ノ南ニ至リ、池沼中ニ入ル、左右ノ地丘陵起伏シテ甚開ケス、松下村ノ西ニ隣スル一村ヲ岡山ト稱ス、馬伏塚一馬由作ノ古壘址アリ、今ハ概田圃トナリ、郭

馬伏塚

横須賀城址

跡僅ニ存ス、往時ハ海水直ニ壘南ヲ浸スト云フ、四近ノ地卑温沮洳、今ニ汗田多シ、初小笠原美作今川之ヲ守ルト傳フ、天正二年八月、徳川家康修治ヲ加ヘテ大須賀康高ニ與ヘ、東北高天神ノ敵ニ備フ、後之ヲ移シテ横須賀城ヲ築ク、城東郡ノ名因テ以テ起ルト云フ、横須賀城址ハ左岸ノ山腹上ニアリ、北高天神山ニ連ツテ其位置高シ、南ハ蒼海ニ面シテ沿海及東西ニ通スルノ諸道皆目下ニアリ、往時徳川家康其要地ヲ相シ、天正六年三月、岡山村馬伏塚ヨリ移シ築キ、八年ニ至ツテ工ヲ竣フ、乃大須賀康高ニ與ヘ、以テ東北境ニ備フト云フ、今ハ樓櫓ヲ撤シ、單ニ壘郭ヲ存ス、頗東西ニ長シ、大約二百市街其南ニアリ、亦東西ニ連ル、南北凡一十七余丁名邑ナリ、家康ノ關

東ニ遷ル、豊臣秀吉・有馬豊氏ヲ封ス、爾後數主ヲ換ヘ、天和以降、西尾氏世襲ノ舊治所ナリ、維新ニ至リ、徳川氏ノ封内ニ隸ス

第三 國安川處ニ隨ツテ其名ヲ異ニス小鮎、行田、菊川、等アリ數源ヲ淡岳周智、模原二郡界ニノ東北ニ發シ、初ハ東南ニ流レテ新古二道線東海道ハヲ横截シ、水路畧郡界線ト並行シ、山隘間ヲ激流シテ、岸高ク水淺シ、次テ南流シテ城東郡ニ入り、西横地村ヲ過ク、築址アリ、東横地村ニ屬ス、古ヘ横地家長源義家ノ庶子ト云フノ居シ所ト傳フ、次テ平川・大石・梅戸等ノ數村ヲ過ク、三村皆壘寨ノ遺址ヲ有ス、其平川ニアルヲ堤、寨ト稱ス、横地氏ノ支堡ナリ、其臣松井某ノ守リシ所ト傳フ、大石村ニアルヲ獅子鼻ト云

横地村寨址

平川大石梅戸ノ三寨址

フ、北ヨリ連延スル山嶺上ニ位ス、故ニ名ツクト云フ、西北・廻嶺壘ニモ、森村ト其位置皆高キヲ占メテ而テ險、梅戸寨最モ南ニアリ、高天神ヲ距ル大約一里許、亦山上ニ位ス、今ニ城山ノ稱アリ、明應ノ初、雜賀肥後之ニ居リ、今川氏ノ滅ス所トナル、天正七年、徳川家康ノ高天神城ヲ攻ムル、皆成兵ヲ置キ、敵ニ迫ルノ用ニ供スト云フ、次テ左ニ赤土川ヲ納ル、其上流ヲ牛淵川ト云フ、牧之原ノ西坡牛淵ヨリ濫觴シ、西南ニ流レテ赤土山ノ西北ヲ過キ、國包村ニ至テ國安川ニ朝ス、山隘ヲ經過シテ水路頗、蜿蜒ス、國安川次テ右ニ小笠川ヲ納ル、其源・西北・同名ノ山中ニ發ス、斜ニ東南ニ流レテ、兩岸山連リ、路險ナリ、三井、寨ハ末流ノ右岸上ニアリ、北・廻嶺、寨出ト水ヲ隔テ、亦高天

三井寨址

神ニ對スルノ一寨タリ、山<sub>中ニ掘</sub>國安川既ニ左右二水  
 小笠川ヲ合シテ水漸ク増加シ、兩岸ノ地稍開ケ、南流シ  
 テ國安村ヲ過キ、海ニ朝ス、此川甚大ナラスト雖、三方  
 北及ニ山脈若クハ高原ヲ纏ヒ、南方一帶海水ニ沿ヒ、郡  
 中郡東ノ衆水、地勢ニ隨フテ概、此川ニ朝貢シ、其形勢本  
 國ノ東南端ニ在ッテ、別ニ一部ノ小瀆域ヲナスカ如シ  
 第四 萩間川ハ、牧之原ノ東坡中<sub>南萩原</sub>村ノ東ヨリ濫觴  
 シ、初ハ東南ニ流レテ、後西流シ、相良<sub>平田</sub>ノ間ヲ過キテ  
 海ニ朝ス、相良ハ名邑ナリ、市街右岸ニ沿フテ、東海岸ニ  
 近シ、其西ニ接シテ城址アリ、平地ニ位シ、三面水田ヲ繞  
 ラシ、西一方ハ高原野<sub>牧</sub>ヲ負フ、寶曆以降、田沼氏ノ舊治所  
 ナリ、四百余ノ木橋アリ、平田村ニ架ス、港橋ト云フ、長二  
 間十

相良市街  
及相良城  
址

四一尺間縣道線<sub>上</sub>新田ヲ互續ス、橋北ニ又寨址アリ、其地平  
 田村ニ屬ス、古ハ相良某ノ居リシ所ト傳フ、今ハ概田圃  
 トナル  
 第五 勝俣川<sub>一</sub>勝間田ノ源、切山村<sub>原</sub>ニ出ツ、其地亦  
 牧之原ノ東坡ニ屬ス、勝間田氏ノ城址ハ切山村ノ西上  
 谷ヲ隔テ、永代切山村ノ山腹<sub>南</sub>小山谷ニアリ、古來久  
 シシ勝間田氏ノ有タリ、建武以降、今川氏ニ屬ス、文明七  
 年ノ春、其裔修理、横地某<sub>城東郡前</sub>ニ據ル、今川義忠駿府ヲ發シ  
 波氏<sub>尾張</sub>守<sub>河</sub>ニ通シ、此案ニ據ル、今川義忠駿府ヲ發シ  
 テ來リ攻ム、其兵五百、分ツテ二隊トナシ、二寨<sub>横間田</sub>ヲ  
 圍ミ、攻撃七晝夜、二氏<sub>同</sub>敵セズ、共ニ戰死シ、二寨皆  
 陷ル、次テ東南ニ流レテ數小流ヲ合シ、中村ヲ過ク、村北

勝間田氏  
古城址



中村ノ寨

ノ山上ニ一寨址アリ、其地低平。段階ヲナス、今ニ城ノ段ト號ス、南・蒼海ヲ目下ニシ、眺望絶佳、位置又要害ナリ、勝

武田信玄

間田氏支堡ノ址ト傳フ、其傍ニ一刹アリ、成安寺ト號ス、

静波町

天正ノ初、武田信玄此ニ營ス、爾後此寺兵燹ニ罹リ、今ハ

静波町

僅ニ堂宇ヲ存ス、次テ南流シテ静波町三人口ニテ過ク、

市街兩岸ニ跨リ、稍東西ニ廣シ、南北一四丁余、木橋ヲ架ス、

後川橋ト云フ、長一三七尺、東西相通ス、郡役所ヲ置ク、

管郡ス、次テ西折シテ川崎村ヲ過キ、縣道線街上新田ヲ截流

シテ海ニ朝ス、此河下流ハ最モ屈曲シテ水稍深ク、小舟

遡ッテ静波町ニ達スヘク、河口東ニ開イテ川崎・鹿島ニ

アリ、水亦深シ、船舶ヲ泊ス可シ、流末橋アリ、川崎・鹿島ニ

村間ニ架ス、港橋ト云フ、長一三二尺、縣道線街上新田ヲ互

續ス

第六 湯日川ハ、西北・高原原ノ東坡湯日ヨリ濫陽シテ

岡田村ヲ過シ、此地ノ田圃中、稍高キ處僅ニ塹壘ノ形ヲ

存ス、慶長中、水野正重居城ノ址ト傳フ、次テ東南ニ流レ

テ上吉田等ノ數村ヲ過キ、次テ小山村ノ南ヲ流レ、片岡

村ニ至ッテ海ニ朝ス、小山村同名ノ城址ヲ存ス、其位置

山ニ據リ、二水大井川ヲ南北ニシ、東南・海ニ臨ム、元龜二

年三月、武田信玄國境大井ヲ侵シテ此ニ築キ、初、能滿寺

城ト號シ、尋テ小山ニ改ム、築造精巧、位置又要害ナリ、初、

大熊備前ヲ置キ、西・濱松城ニ迫ルノ根據トシ、又沿海ノ

地ヲ徇フ、本國ノ諸城多ク之ニ應ス、信玄死シ、諏訪原城

城野陷ルニ迄ヒ、天正三年九月、徳川家康銳ヲ盡シテ來

小山城址

リ攻ム、城堅ク地險ナリ、守將三浦朝比奈・小原ノ輩、力ヲ盡シテ拒戦シ、互ニ死傷多シ、城俄ニ陥ラス、勝頼又甲斐ヲ發シテ來リ援ク、家康乃チ兵ヲ退シ、爾後勝頼大井河ヲ濟ツテ屢、此ニ屯シ、西・横須賀城ヲ爭フ、武田氏滅フルニ及ビ城隨ツテ廢ス

湯日川以南・萩間川ニ至ルノ數流ハ、其水流・西北・高原原牧ノ東坡内ニ屬シテ、長短皆其方向ヲ同フシ而テ東坡ノ傾斜甚、緩急ナキヲ以テ、水流モ亦隨ツテ疾徐ヲ異ニセズ、皆一齊ニ東南・海ニ朝ス、其上流ハ山谷概峻、下流ハ地勢大ニ開イテ、白砂海濱ニ連リ、道坦夷ナリ

第七 大井河ハ最モ東ニアリ、國境<sup>遠</sup>河<sup>近</sup>ヲ劃スルノ大河ニシテ、東海道中・著名ノ奔湍ナリ、源ヲ甲信兩境ニ發

シ、斜メニ駿河ノ西北隅ヲ流レ、犬間村<sup>原</sup>ニ至ツテ右ニ關澤川ヲ納ル、激流ナリ、駿遠ノ境ヲ劃シ、兩岸ノ地・山岳鬱結、雲霧隱翳、氣候良カラス、人烟ヲ絶ツ、犬間村對岸ノ地ヲ梅地村<sup>太</sup>郡<sup>河</sup>志ト云フ、河幅凡六十間、渡アリ、來往スヘシ、此ヨリ以下、水路南方ニ蛇行シテ、中流兩國<sup>遠</sup>江<sup>河</sup>ノ境ヲ劃シ、兩崖峻絶、山徑僅カニ岸ニ沿フテ頗峻シク、東<sup>北</sup>原<sup>二</sup>郡<sup>ヲ</sup>劃スルモ<sup>ノ</sup>近ク河西ニ迫ルヲ以テ、其東坡ニ發シテ本河ニ朝スル衆水、皆頗短シ、故ニ奔湍ヲナス、聲喧シ、次テ水川村ヲ過ク、渡アリ、對岸ノ堀内村<sup>河</sup>志<sup>太</sup>ニ達ス、俗・盤越ト呼フ、大桶ヲ泛ヘ以テ過ク、往時ハ舟ヲ用ユ、次テ下長尾・葛籠二村ヲ過ク、此間・水路屈曲スルコト凡テ七回、俗・呼ソテ七曲ト云フ、兩岸岩石崎嶇ト

横岡古城

シテ勝景奇絶ナリ、次テ横岡村ヲ過シ、岩石・俄ニ東方ニ  
 突出シ、恰モ岬角ヲナス、河水爲ニ濼洄シテ頗激ス、次テ  
 牛尾村ヲ過シ、岸ニ迫ツテ最モ崛起スル小山ヲ湖山ト  
 云フ、山頂平夷、方五丁許、鋤シテ陸田トナス、此地・往古ハ  
 東方・相賀村河駿ニ連リ、駿河ニ屬ス、河水來ツテ此山ニ觸  
 レ、俄ニ轉シテ北・横岡トノ間ヲ西流シ、南・川原町金谷ノ東  
 ヲ經テ東南ニ赴キ、島田驛河駿ノ西南ニ至ル、其水路畧、大  
 代川右朝ノ如シト云フ、中村一氏ノ駿河ニ主タル、天正  
 ノ末、山東湖山ヲ斷截シテ直ニ水ヲ東南ニ導キ、更ニ横  
 岡トノ間ニ堤ヲ築キ、其古道ヲ鋤シテ田圃トナスト云  
 フ、其西北ニ連ツテ高平ノ地アリ、田圃多シ、長者ケ原ト  
 稱ス、東横岡原ニ接ス、横岡村ニ一城址アリ、明應ノ初、鶴

大井橋

見榮壽之ニ居リ、今川氏ニ叛キ、河井成信ヲ松葉城佐野  
 前ニ揚クアリニ襲フ、榮壽敗レテ成信ニ殺サル、既ニシテ  
 今川氏ノ兵來リ相賀村山前ニ陣シ、輕兵疾シ馳セテ長者  
 ケ原ニ出テ、急ニ攻ム、城兵主ナシ、城忽ニ陷ル、往時中長  
 ハ東海道・元島田河駿ノ屬スルヨリ河ヲ濟ツテ牛尾ニ  
 登リ、横岡村ヲ過キテ、西・大代川ヲ濟リ、西北ヲ繞ツテ日  
 坂驛ニ達スト云フ、大坂ノ役ニ東軍亦此道ヲ經ルト云  
 フ、大井河次テ東南ニ流レテ河幅次第ニ廣マリ、金谷驛  
 ノ東ニ至ル、橋アリ大井橋ト云フ、長大約十一丁余、兩岸  
 ヨリ相架シ、中央ニ交互シ左岸ヨリ架スルモノ長八丁  
 同許五十以テ國道線海二東ヲ互續ス、次テ右ニ大代川ヲ  
 納ル、其水西北白山ニ發シ、諸溪流ヲ合シテ東南ニ流

レ、長者ヶ原ノ西ヲ經テ、横岡・牛尾等ノ數村ヲ過キ、金谷  
驛ノ東ニ來ツテ國道線海二號東ヲ截流シ、流末東ニ折レ  
テ大井河ニ朝ス、長大約七丁許、濶所大約十三間、大井河  
次テ東南ニ流レテ坂本村郡原ヲ過ク、此處往時ハ徒涉  
ナリ、水淺フシテ底ニ岩石多ク、迅流往々人ヲ溺ラス、又  
潦時ハ渡ヲ絶ツ、近時石ヲ浚フテ水ヲ深フシ、長橋ヲ架  
シ、以テ往來ニ便ス、舊ニ比スレハ迅流稍其勢ヲ殺ク、舟  
筏ヲ通ス可シ、橋アリ亦大井橋ト云フ幅長一五丁余假橋ナ  
リ、冬春ハ架シ、夏秋ハ除ク、此ヨリ國境、左岸ノ地ニ彎入  
シ、御請御請以下、下小杉ニ至ル數村ノ地、嘗テ遠江ニ隸ス、次  
テ大幡村ヲ過キ、川尻村ニ至ッテ海ニ朝ス、源委通シテ四  
十六里、河口廣濶、大約十八丁許、大幡川尻皆假橋ヲ架ス、

川尻橋最長シ幅長一四丁余此河漲潦屢臻リ、迅流岩石ヲ轉  
流シテ河底深淺常ナシ、兩岸ニ長堤アリ、其氾濫ヲ防遏  
ス、潮山以上、兩岸屈曲シテ水毎ニ激シ、金谷以下、水路稍  
直フシテ川原清曠、左岸ハ山盡キ地平カニ右岸ハ丘陵  
尙連延シテ地勢稍高シ

天龍河以西ノ諸川

天龍河ノ西ニ在ッテ、本河川天龍ニ并行スルモノ、僅ニ數  
流アリ、皆甚長カラス、余ハ悉ク濱名灣ニ朝ス、今其最モ本  
河ニ近キモノヲ首メニ掲ケ、次テ其西諸流ニ及フ  
第一 馬込川上流ヲ鹿玉川ト云フ、鹿玉郡南界ノ一小  
池ヨリ發シ、南流シテ長上郡ニ入り、廣瀬川ト稱シ、稍西  
南ニ流レテ馬込村ニ至リ、馬込川ノ稱起ル、橋アリ馬込

濱松城

明馬古城

明馬古城

橋ト云フ間長二十五間、国道線二號東ヲ互續ス、濱松驛一人万口  
 百子余ハ河西ニアリ、營テ濱松縣廳ノアリシ所ニシテ、市  
 間廣潤、稍南ニ長ク、東北凡七十四丁半、其東口ハ右岸ニ接  
 ス、裁判所・警察署・電信局等アリ、又郡役所郡長上敷智ニテ  
 置ク、東海道ニ列スル本國中最大ノ驛次ナリ、名邑ヲ以  
 テ稱セラル、城アリ市街ノ西北ニ偏シ、位置高カラズ、外  
 郭北ニ開イテ丘陵ヲ控ヘ南ニ閉チテ三面遑ヲ繞ラス、  
 正門ハ其南端ニアリ、南ニ向フ、其東北ニ接シテ引馬城  
 ノ古址ニス、詳アリ、永正中、三河ノ人大河内貞綱吉氏將  
 築キ而テ之ニ據リ、西・斯波氏ニ通シ、東・今川氏ニ抗ス、四  
 近ノ城寨之ニ應スル者多シ、兵勢頗振フ、今川氏親之ヲ  
 聞キ、十年三月、歩騎一萬二千三百ニ將トシ、駿府今ノ静岡ノチ

發シテ來リ攻ム、貞綱救ヲ斯波氏ニ乞フ、義達來リ、深岳  
 城ニ其址引佐郡三岳村ニ入り、其後援ヲナス、氏親謀テ曰  
 ク、先ッ深岳ヲ陷レハ、此城戰ハスシテ自ラ潰ント、乃チ  
 其將朝比奈泰以テ遣ル、泰以輕兵ニ將トシ、馳セテ深岳  
 ニ至リ、夜ニ乘シテ俄ニ攻メテ之ヲ拔ク、氏親乃チ銳ヲ  
 盡シテ引間城ヲ攻ムル連晝夜、貞綱支ヘス、城ヲ開イテ  
 退ク、氏親其將三谷爲連等ニ代リ守ラシム、明年貞綱敗  
 兵ヲ招集シ、俄ニ起ッテ引間城ヲ攻ム、城忽チ陷ル、貞綱  
 勝ニ乘シテ近邑ヲ畧定シ、又天龍河ヲ濟ッテ諸壘寨ヲ  
 陷イル、義達復來リ助ク、六月氏親復來リ攻ム、城兵出テ  
 戰ツテ大ニ敗レ、貞綱等城ニ嬰ツテ殊死戰ス、然レモ衆  
 寡敵セズ、八月十九日城終ニ陷イリ、貞綱戰死シ、義達復

逃ル、後永祿十一年、徳川家康ノ本國ヲ零スル、小野田某  
 加賀ノ江間城ヲ以テ家康ニ獻ス、家康就テ此ニ治セント  
 欲ス、城惡シ、乃之ヲ撤シ、永祿十二年改メ其西南ニ築キ、  
 明年元元正月徙リ治シ、更ニ命シテ濱松ト號ス、其子信  
 康ヲ岡崎城三河額ニ置シ、家康初、掛川城佐野ニ居ント  
 欲シ、織田信長ニ詢フ、信長引間ヲ以テ答フ、因テ此ニ定  
 ムト云フ掛川水路ヘシ條、小田原ノ役後、堀尾吉晴此ニ封  
 セラル、爾後此城數主ヲ歴テ弘化二年以降維新ニ至ル、  
 井上氏世襲ノ舊治所ナリ、今ハ頽廢ニ委ス、元龜三年十  
 月、武田信玄大舉方步入寇シ、頻リニ東部ノ諸城寨ヲ  
 陷レ、進ニ袋井ヲヲ・見附ヲヲニ陣ス、徳川氏遊ヘ戰ツテ利ア  
 ラス、甲斐ノ一軍武田信玄又ニ股城前ヲ拔キ、全軍勝

三方原  
 戦場

ニ乘シテ火ヲ濱松城ニ放テ其兵勢ヲ示シ、終ニ三方原  
 ナ經テ西・三河ニ入ラントシ、刑部村川三方原ノ下流ニアリ、後  
 ニ群ニ陣ス、三方原又三形原又其方原ハ城ノ北、大約一  
 里許ニアリ、二郡引敷ニ巨リ頗廣シ東南北三里地勢乾燥、  
 水ニ乏シ、高原ナリ、本坂・伊奈ノ二道其中央ニ交互シ、略  
 十字形ヲナス、家康援將佐久間等ト出テ此地ニ陣ス、步  
 騎八千、分ツテ九隊トナス、酒井次忠石川正教柴田忠廣青木直吉  
 中根照正小笠原氏儀松平忠家松井次忠本多勝忠等各隊ニ將トシ、  
 東西ニ相列シテ北向シ、各隊稍先後アリ、其西南ノ一凸  
 地ヲ蜂打山ト云フ、家康本營ヲ此ニ置ク、榊原康政其先  
 隊ヲ統フ、大久保忠世援將瀧川一益ト兵ヲ合シテ其左  
 ニアリ、佐久間信盛・平手汎秀又其左ニ相列シ、少シク退

ク、信玄先ニ井伊谷刑部ノ北ニアリ、謀者走ツテ家康ノ  
 出ルヲ告ク、即チ旆ヲ返シテ亦三方原ニ陣シ、其前鋒ヲシ  
 テ鋒ヲ交ヘテ偽リ退キ、以テ南軍細川ヲ誘ク、南軍果シ  
 テ之ヲ追フ、北軍乃チ返シ戰フ、佐久間信盛先ツ逃ル、南軍  
 尋テ大ニ敗績シ、其良多ク斃レ、余衆南ニ走ツテ犀淵城  
 接スニ、陥リ死スル者又算ナシ、家康退キ、濱松城ニ保シ、  
 故ラニ城門ヲ鎖サス、燎ヲ設ク、北軍武田兵追尾シ城ニ迫  
 リ、門啓クヲ見テ敢テ進マヌ、鳥居元忠等城ヲ出テ其前  
 ニ防キ、敗兵ノ城ニ歸ル者又其後ヲ襲フ、北軍乃チ退キ、犀  
 崖ニ屯ス、犀崖ハ城北名殘町ニ接スルノ一岡陵ナリ、  
 北坡峻急、斷崖ヲナス、故ニ此稱アリ、此下、陷溝アリ、  
 約長五六  
 十間、深二  
 樹木繁茂シ、溝中闇冥、深淺ヲ知ラス、三方原ノ

犀崖古戰場

大塚山

戰、大久保忠世・章旗ヲ此ニ建テ、以テ散卒ヲ聚ム、北兵以  
 テ家康トナシ、爭ヒ之ニ赴ク、家康因テ城ニ入ルヲ得、夜  
 ニ迄ンテ家康復忠世ヲ遣リ北軍ヲ窺フ、忠世・天野康景・  
 近藤秀用等ト銃手僅ニ七十人ヲ率ヒテ此ニ登リ、俯シテ敵  
 營ヲ亂射ス、北軍驚擾、溝中ニ陥リ死ル者多シ、其明・忠世  
 兵ヲ出シテ又其營ヲ切カス、信玄其強項ヲ恐レ、軍ヲ收  
 シテ刑部出前ニ退ク、城ノ西北・三方原トノ間ニ連ナル、丘  
 陵中一坐ノ小山アリ、火燈山ト稱ス、北軍ノ勝ニ乘シテ  
 城下ニ至ル、城兵甚寡ナク、殆ト守禦ニ欠ク、岡部政定松  
 士ノ急ニ城内ノ奴僕ヲ收メ之ヲ率ヒテ火ヲ此山上ニ焚  
 ク、北軍回顧シ、敢テ城ニ迫ラヌト云フ、馬込川次南ニ  
 流レテ龍禪寺村ニ至リ、一小流ヲ右ニ納レ、次テ中田島

村ヲ過キ、流末東南ニ轉シテ海ニ朝ス、長五里濶二十五  
 間、此河ノ東西ニ數小流アリ、芳川・沼田川稍著ハル、芳川  
 東ニアリ、北・大蒲村長道上郡ニ列スアリヨリ濫觴シテ南ニ流  
 ル、沼田川ハ西ニアリ、源ヲ西北・蓮池濱松縣西ニ發シテ東  
 南ニ流レ、流末共ニ馬込川ト相接シテ海ニ朝ス、共ニ平  
 地ヲ貫流シテ水疾カラズ、此河以西國道ニ至ルノ地尙  
 數流アリ、直ニ海ニ朝セス、テ皆濱名灣ニ注入ス、左ニ  
 枚舉ス

第二 都田川ハ、觀音山引佐豐田二郡ニ屬スノ西北・澁川  
 山中ヨリ濫觴シ、左右ニ諸溪流ヲ合シテ東南ニ下リ、四  
 方淨村ヲ過シ、此村山中ニアリ、山徑ノ交叉點北ハ栗山  
 的井越谷村ニアリ、次テ都田村ニ至ツテ西南折流シ、水

南支ノ陣

刑部寨址

路零三方原ノ西北部ニ并行シテ祝田村ヲ過シ、橋アリ、  
 祝田橋ト云フ長一七間濱松以北三方原ヲ貫キ、的場  
 及狩宿二山徑ニ通スル里道線ヲ通ス、前山村・橋南ニ近  
 シ、其地三方原ニ屬シテ地形大ニ開ケ、道路ノ交叉點ニ  
 アリ、三方原ノ戰、信玄初メ此ニ陣ス、寨址アリ、陣ノ平ト  
 號ス、次ニ西流シテ上刑部村ニ至リテ、一派ヲ分ツテ刑  
 部村ヲ過キ、西井伊川ニ注キ、本流ハ西南ニ轉シテ、其派  
 ト油田村ノ三角島德大ヲ抱キ、引佐細江ナ瀆ノ下ニ揚ク  
 ニ朝シ、水路山隘ヲ激流シテ屈曲多シ、刑部村ニ寨址ア  
 リ、今川氏ニ屬ス、永祿十一年、徳川家康ノ本國ニ入ル、菅  
 沼近藤用秀ノ諸士、其教導ヲナシ、攻メテ之ヲ陷ル、家康  
 因テ菅沼又左衛門定臣ヲ置ク、尋テ武田氏ニ屬ス、元龜



三年十二月、武田信玄・濱松城ヲ過キテ此ニ屯シ、終ニ旃  
ヲ返シテ大ニ三方原ニ戰フ、其址今ハ竹林トナル

第三 井伊川ハ、源ヲ西・黒田村郡引佐ニ發シテ東南ニ下

山縣昌景ノ陣地

リ、其上谷ハ的場越ノ山徑四境縣第ヲ開キ、伊平村ヲ過

井伊氏ノ古城址

ク、山縣昌景ノ陣地ナリ、次テ井伊谷村ニ至リ、俄ニ折レ

テ西南シ、右ニ神宮寺川ヲ納ル、城址アリ、山脚上ニ位シ、

二水井伊川神ノ會合點ニ臨ム、今ニ城山ノ稱アリ、寛弘

七年以降、井伊氏久シク此土ヲ領有シ、其祖・共資ノ子・共

保ノ築キシ所ト傳フ、延元元年、其裔・道政・奥山等ト宗良

親王ヲ奉シテ之ニ據ルト云フ、井伊直政モ亦其遠裔ナ

リ、此地ヨリ出テ、徳川家康ニ仕ヘテ創業、武臣ノ第一ニ

列ス、橋アリ、スグレ橋ト云フ、長一十三間西北的場越ニ達

神宮寺川

スル山徑ヲ通ス、其神宮寺川ノ源・奥山村郡引佐ノ山中ニ

發シ、初ハ東北ニ下ツテ後・西流シ、井伊谷村ニ來ツテ井

奥山ノ城址

伊川ニ朝ス、其上谷ハ符宿越ノ山徑四境縣第ヲ開キ、國

境ニ接連シテ兩岸峻岨ナリ、奥山村ニ城址アリ、四境縣

ノ又一寺ヲ存ス、方廣寺ト云フ、寺域甚廣シ、百四十七坪

元中元年、城主奥山朝藤ノ創建ト傳フ、堂宇堅牢、位置又

高シ、徳川家康ノ初テ本國ヲ畧スル、符宿越ヨリ入ッテ

此ニ陣シ、次テ井伊谷城ニ屯スト云フ、井伊川次テ西南

ニ流レ、氣賀ノ東ニ至ッテ縣道線街本坂ヲ截流シ、左ニ郁

田川ノ分派ヲ納レ、引佐細江ニ朝ス、水路屈曲、山隘間ヲ

激流シ、兩岸ノ地・東・都田川ト畧、其形勢ヲ同フス、氣賀ハ

縣道線街本坂ニ列スル小驛次ナリ、郡役所郡引佐管玉ニナ

堀川塞址

置ク、其西堀川塞址アリ、同名ノ流末ニ接シ、東南小灣佐  
江ニ臨ム、永祿十二年三月、徳川家康掛川城ヲ攻メテ下  
ラス、更ニ壘築ヲ増築シ、諸將ニ分テ守ラシメ、將ニ岡崎  
田三河額ニ歸ラントス、氣賀ガ土寇相聚リ、尾藤主膳村山修  
理ヲ推シテ將トナシ、祠官僧徒等又之ニ黨シ、壘ヲ高フ  
シ、遑ヲ深フシ、西堀川ノ水ヲ濬ヘ、其衆千六百人ノニ據  
ル、之ヲ堀川壘ト云フ、土寇相議シ、家康ノ歸路ヲ絶テ、遊  
ヘ撃ントス、家康知ラス、僅ニ十七騎ト過ク、賊其兵ノ寡  
キヲ見テ家康トセス、石川數正・殿シテ過ルニ及ヒ、賊始  
テ之ヲ覺リ、其出テ撃サルヲ悔ルト云フ、家康既ニ岡崎  
ニ歸リ之ヲ聞キ、即チ精兵ニ將トシ急ニ來リ攻ム、賊堅  
ク守テ降ラス、此地險隘、俄ニ拔キ難シ、乃チ轉シテ吉見

引佐峠

村西波名南岸ノニ出テ、水路波名直ニ灣内ヲ横キツテ、東方  
宇布村東波名南岸ノニ達シ、次テ西北ニ繞ツテ其對岸ニ陣  
ス、堀川ノ壘・東引佐細江ニ枕ム、潮・盈レハ則船ニ乗シテ  
出入シ、潮ニ退ケハ則徒涉ス可シ、此日潮大ニ退ク、家康  
ノ軍・機ニ乘シテ齊ク涉リ、直ニ壘下ニ迫リ、肉薄シテ之  
ヲ攻ム、壘兵・狼狽支フル者ナシ、壘忽チ陷ル、此壘・兩國江  
河三ノ要路ニアリ、家康石川半三石川弟數ヲ諸士ノ中ニ拔  
キ、此ニ置キ、兼テ傍近ノ地ヲ治メシム、半三・驚狂兼テ撫  
御ニ長ス、賊・屏息シテ復・勦カス、家康因テ其兵ヲ東スル  
ヲ得ルト云フ、堀川以西・本坂街道益・登ツテ益・險、其最高  
部ヲ引佐峠ト云フ、畧・郡界引佐數知ニ接ス、家康既ニ三河ヲ  
平定シ、兵ヲ遠江ニ出サント欲ス、先ツ其將酒井忠次ヲ

日本部

日本部

遠江國志

三十五

遣り、地勢ノ險夷、道路ノ通否、人心ノ向背ヲ窺ハシム、忠次乃チ本坂越ヨリ入ル、四近引佐郡等ノ城寨既ニ概武田氏ニ通シ、忠次ヲ引佐峠ノ險ニ要シ、銃ヲ發シテ之ヲ拒リ、忠次歸リ其狀ヲ言フ、家康人ヲ遣シ、近藤康用ノ伊井谷ニ諭シ降ラシム、奥山・中泉・見附等ノ土豪モ亦遙ニ款ヲ送ル、乃チ自ラ歩騎八千ニ將トシ、路ヲ轉シテ狩宿越ヨリ入り、終ニ本國江ヲ定ムト云フ、引佐峠ノ南・水ニ臨ンテ二城址アリ、一ハ都築村ニアリ、古ヘ佐久城ト稱シ、一ハ野地村ニアリ、宮崎城ト稱ス、永祿中、濱名頼廣・其佐久城ニ居ル、頼廣徳川氏ニ敵シ甲州ニ奔ルニ及ヒ、大屋政頼・其弟頼次等ト亦之ニ據リ徳川氏ニ抗ス、家康本多忠勝等ヲ遣リ之ヲ攻ム、位置要害、俄ニ陥ラス、家康乃チ人

都築村古

野地村古

日比津

ナシテ説テ之ヲ降スト云フ、野地城址ハ其西・大谷川ノ流末ニ接ス、濱名ノ族・頼親ノ居シ所ト云フ、此城・佐久城ト前後共ニ陥ル、家康本多信俊ヲ置ク、其址・今ニ御殿場ノ稱アリ、半島上ニアリ、水ニ臨ム

第四 東川ハ、平山村郡知ノ山中ヨリ濫觴シ、其上谷ハ宇利峠ノ山徑ヲ開キ、東南ニ下ツテ日比津村ヲ過ク、寨址アリ、縣道線街本坂ニ臨ム、後藤佐渡之ニ據リ、永祿十一年十二月、濱名頼廣城佐久等ト酒井忠次ノ入ルヲ拒ム、幾モナクシテ家康ノ逐フ所トナル、次テ縣道線街本坂ヲ截流シ、左右ニ二溪流ヲ納レテ猪鼻湖ニ朝ス、三箇日村・流末ニアリ、本坂街道ニ列シ、二山徑ノ岐分點ニ臨ム

東川ノ南・何數小流アリ、然レモ濱名灣ノ水、西境脈ノ山、

東西ヨリ相迫ツテ其地ヲ檢束シ、地勢頗狹マリ、流水亦隨ツテ頗短ク、記スルニ足ルモノナシ、故ニ省ク  
 該名灣ハ國ノ西南、敷知郡ノ中央ニアリ、往古ハ總テ陸地ニ屬シ、山香長上二郡ノ稱アリ、永正七年八月中、地大ヒニ震ヒ、甚雨烈風又之ニ次キ、洪水一夜二郡ノ地ヲ陷没シ、一大水ヲ湛フ、本國ノ大灣ナリ、敷知郡ノ南、東西ノ地、古ヘ相對シテ灣口ヲ約シ、相距ル大約一丁五十間、灣口直ニ南、遠州灘ニ向ヒ、海潮毎ニ相來往ス、其中間ニ沙島アリ、稍北ニ位ス、辨天島ト云フ、其形東西ニ長ク、恰門門ヲナス、往古ハ橋アリ、東海道ヲ通スト云フ、中絶ヘテ渡トナル、今切ノ渡即是ナリ、水路斜ニ辨天島ノ北ヲ過キ、舞坂若クハ荒井驛ニ達スヘシ、近時再ヒ長橋ヲ連架

猪鼻湖

引佐細江

ス、木橋ナリ、國道線<sub>二</sub>東<sub>一</sub>ヲ互續ス、本邦第一ノ長橋ナリ、橋ノ北、灣内廣濶、其水汪洋トシテ海ノ如ク、深キ處ハ十尋ニ過キ、淺キ處亦三尋ニ下ラス、灣内更ニ數多ノ小灣、若クハ小湖ヲナス、其水多少、陸地ニ灣入シテ深淺アリ、其西北ニ在ツテ稍大ナルヲ猪鼻湖ト云ヒ、深ク東北ニ浸入スルヲ引佐細江ト云ヒ、東ニアルヲ佐鳴湖ト云フ、沿岸ノ地、爲メニ大ニ出入シテ參差屈曲多ク、或ハ岩石高ク突出シ、或ハ砂土低ク連リ、其形勢一ナラス、沿岸ノ路隨ツテ險夷アリ、其猪鼻湖ノ形、零圓ク、北ニ東川、大谷等ノ衆水ヲ納レ、無數ノ小嶼、其南口ニ羅列シ、潮水相通ス、地學上、瀉ヲ以テ稱スヘシ、引佐細江又氣田灣ト呼フ、都田・井伊及ヒ堀川ノ數流、其北方ニ注入シ、其西南口

云嶋湖

新所  
留新所  
同ノ新造

ハ稍廣シ、佐鳴湖・恰モ楢圓狀ヲナシ、其漏口ハ西南ニアリ、其水一渠ヲ經テ濱名灣ニ朝ス、此渠ハ航溝ナリ、維新ノ初ニ鑿ツ所ナリ、東・堀留濱・西南濱ノニ起ツテ西・本灣濱灣ニ通ス、爾來水路ノ便大ニ開ケ、灣内ニ小汽船アリ、東西ニ相通シ、小舟アリ、溝中ヲ來往ス、堀留以西・國境ニ至ル、水陸合シテ六里十丁余、行旅其近キヲ利シ、概路ヲ此ニ取ル、故ニ濱松郡・新所郡・全間ノ水路、行客來往毎ニ頻繁ト云フ

江津

濱名灣・沿岸ノ地、往時ハ城寨甚多シト云フ、其址今ニ存スルモノ、北ニ佐久野地・宮崎郡・筑前郡ニアリ、東ニ堀江村・志津村・串ア・西ニ宇津山村・出延兼山・吉見市アリ、堀江寨址ハ引佐細江ノ南・半島上ニ位シ、西岸ニ濱ス、

志津寨址

宇津山城址

延兼山寨址

永祿中、大澤基胤之ニ據ル、十二年三月、家康ノ攻ムル所トナリ、山テ降ル、王政革新、別ニ一藩ヲ建テ、堀江ト稱ス、其裔・基壽之カ主タリ、既ニシテ改メテ縣トナス、志津寨址ハ其南端ノ岬角上ニ位ス、井伊氏ノ遠祖・共資初、此ニ居ル、寛弘七年、井伊谷城引佐・前郡ニアリ、移ルニ迄、テ寨廢ス、宇津山城址ハ猪鼻湖ノ南・半島上ニアリ、三面北・東及・水深フシテ城邊ニ通シ、船舶毎ニ來往シ、南ハ斷崖壁立シテ形勢頗ル峻岨ナリ、大永七年、今川氏ノ築キ、所ニシテ、其將長田親能ヲ置キ、西境ニ備フ、永祿七年、小原鎮實・吉田城三河・河邊ニアリ、徳川家康ノ迫ル所トナリ、退キ、此ニ保ス、後十一年十二月、酒井忠次來リ攻ム、鎮實支ヘス、城ヲ開イテ復、花澤城阿・河ニ退クト云フ、延兼山

荒井驛

寨ハ其南ニアリ、相距ル遠カラス、東北・濱名灣ニ臨ミ、西  
 南・高師山ヲ負フ、永祿十年、今川義元此地ヲ相テ新ヲニ  
 築キ、其親將ヲ置キ、西境ニ備フト云フ、其位置・妙立寺ノ  
 域内ニ屬ス、今ハ竹林トナル、高師山ノ東南ニ一驛アリ、  
 東方・水ニ濱ス、荒井ニ一作新居ト云フ、市閭南北ニ長ク、  
 四十間南北、東南・水ヲ隔テ、遙ニ舞坂驛ハ八口一、千ヲ望  
 ミ、濱松ノ西・四里余ニアリ、國道線ニ號東ニ列ス、名邑ナ  
 リ、驛ノ東口ニ關址アリ、俗古ヘ呼ソト云フ、今切徳川氏ノ時  
 藩士ヲ置キ、水陸兩路ノ往來ヲ紮スノ所ニシテ、其嚴函  
 根、碓氷ノ兩關ニ亞スト云フ、舞坂以東ノ地、沙ヲ雜ヘテ  
 路・坦夷、松樹兩傍ニ列ヲナシテ、東・濱松驛ニ達ス、此間三  
 荒井以西ハ國道頗ル高低アリ、其最高部ヲ汝見坂ト云

荒井ノ關

白須賀驛

フ余ノ西一里、南海一望ニアリ、西ニ下レハ白須賀驛ア  
 リ、人烟甚繁カラス、四百余ノ國境ニ近シ  
 本州海岸ノ大半ハ、南方直ニ太平洋ニ面接シ、丘陵連続  
 シテ畧、東西ニ直シ、故ニ岬角島嶼絶テ無クシテ、僅ニ濱  
 名・掛塚・福田ノ三港灣アリ、掛塚・福田・港口廣フテ直ニ  
 大海ニ面シ、港内淺フシテ大船ヲ容ル、能ハス沿岸附  
 近ノ海、掛塚港以西ヲ白羽濱ト云ヒ、福田港以東ヲ大浦  
 又袖子浦ト云ヒ、又其東ヲ志留波、磯ト云フ、以上所謂遠  
 州灘ニ屬シテ風濤毎ニ荒シ、志留波ノ東・海岸俄ニ西北  
 ニ彎入シテ漸ク東北ニ延キ、遙ニ駿河灣ニ連ナル、其屈  
 折スル處・一大岬角ヲナス、御前崎ト云フ、西北・山脈大井  
 ナルモ、連ノ東南端ニ屬シ、海中ニ突出スル凡二里余、岬

御前崎

頭・東南ヲ指シ、岩石壁立其餘勢水中ニ入ツテ暗礁多ク、  
 相密集シテ岬東一里許ニ及ヒ、其數・總テ九十九、其稍大  
 ナルヲ岬島ト稱ス、海水之ニ激シテ其聲喧シク、白波・散  
 シテ恰・雪ノ如シ

交通路

國道 第二

東海道

金谷<sup>+</sup> 丁一里 十二間 十四  
 袋井<sup>+</sup> 丁一里 十一間 十二  
 坂<sup>+</sup> 丁一里 十間 十一  
 須賀<sup>+</sup> 丁一里 十間 十一  
 三丁 五拾七間

日坂<sup>+</sup> 丁一里 十三間 十八  
 見付<sup>+</sup> 丁一里 十三間 十八  
 新居<sup>+</sup> 丁一里 十三間 十八  
 掛川<sup>+</sup> 丁一里 十三間 十八  
 濱松<sup>+</sup> 丁一里 十三間 十八  
 白

縣道

森町街道 野田 信濃 遠江 伊國 奈川 坂田 二 三 長

大龜村 三十里 八三間 十三  
 上平山村 九三間 十二  
 相月村 十五里 十三間 一  
 領家村 十三里 二

長野縣 信濃國 伊奈郡 境合 二十一里 二十七丁 三十九間  
 五尺

姫街道 愛知縣 三河國 八數名郡 嵩山村 二

濱松 十三里 三十四尺 丁  
 氣賀町 丁二里 五十二間 一  
 三箇目村 二  
 五間 三尺

新所街道 靜岡縣遠江國敷知郡濱川  
 新所村 四十一里三町  
 堀留里 余路五  
 濱松 三十四里三町二十  
 原 五十一里六町  
 愛知縣三河國澁美郡二川驛合七里二十  
 丁八間三尺

秋葉風來寺路 靜岡縣遠江國敷知郡八濱

名郡馬路山

濱松 五里七町三二尺  
 二俣村 二里三十一尺一丁  
 光明山 三十三里  
 秋葉山 七里十  
 西川村 三二里  
 石打 十二里二丁  
 熊村 三二里  
 大平村 三二里  
 愛知縣三河國八名郡爲麻山  
 合二十三里十三丁三十八間

上薪田路 靜岡縣遠江國敷知郡上遠新

村路ニ續ス

濱松 十三里六尺三  
 中泉 十四里二  
 横須賀 五里七町三  
 相  
 長丁 十一里三町十  
 柏原村 十三里三町  
 靜岡縣駿河國志太郡  
 上薪田村合十八里八丁二十間三尺

横須賀街道 靜岡縣遠江國敷知郡野須賀

南西鄉村 十二里四一尺四  
 高御所村 四里六尺三  
 山崎村 一  
 十二里五三尺四  
 横須賀合三里十八丁三十一間

沿革史零

本國上古ハ三河ト一國タリ、遠淡海ト稱ス、後割テ本國  
 ナ置ク、國ニ大湖古今ノ淡水名ナリアリ、因テ近江國ニ對  
 シテ遠江國ト號シ、以テ遠近ヲ別ツト云フ、文武帝慶雲

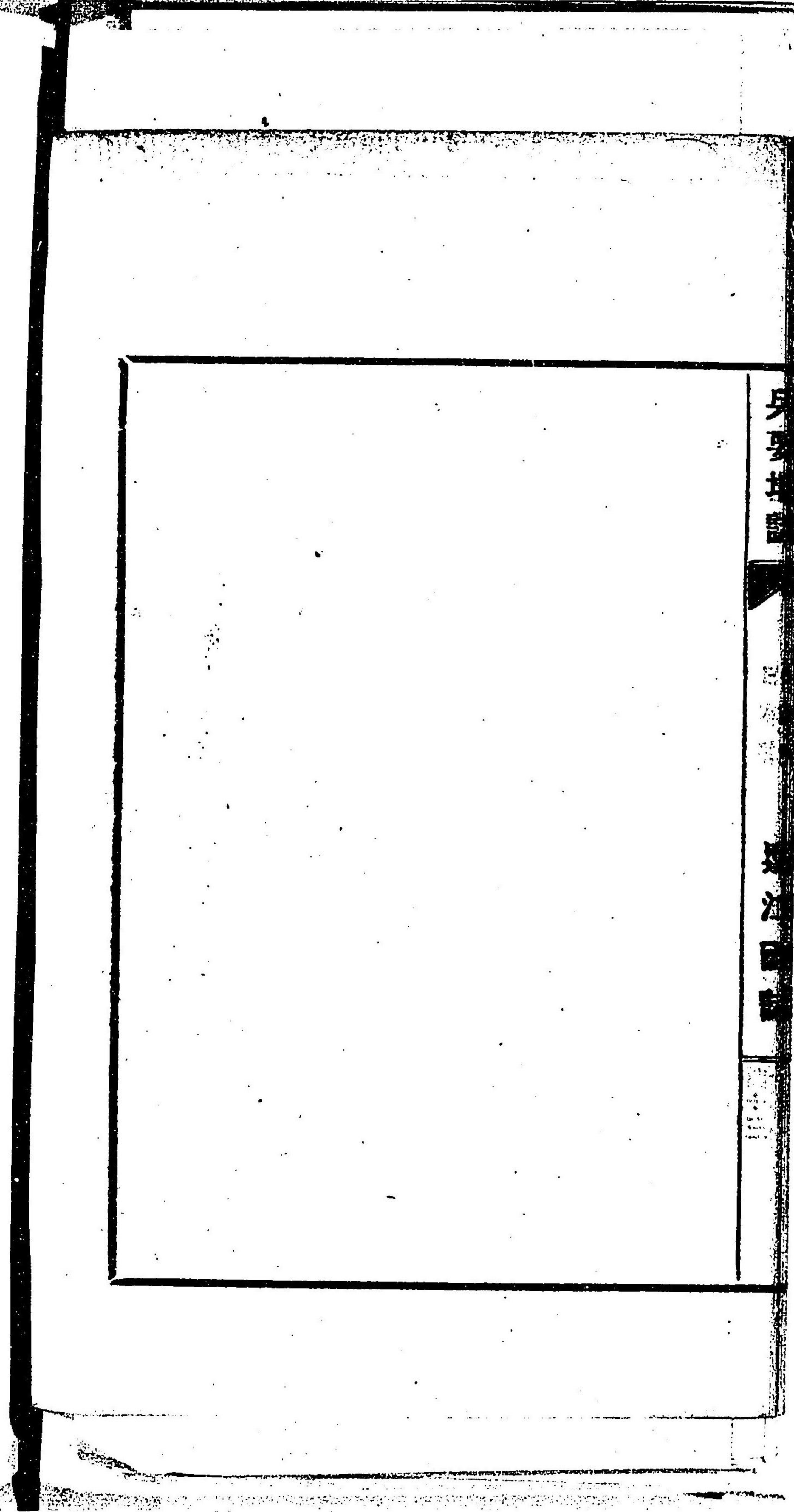


四年、勤廣壹漆部造道磨ヲ以テ始テ遠江守ニ任シ、國府  
 ナ豐田郡ニ置シ今ノ見附爾後國守ノ任、歷世絶ヘス、睦  
 峨帝弘仁十一年、本國及駿河ニ配スル所ノ新羅七百人、  
 國民ヲ殺シ伊豆ニ入り、海ニ泛ヒテ逃ル、追兵擊テ之ヲ  
 殲ス、鎌府ノ初、源賴朝奏請シテ安田義定ヲ守護ニ補ス、  
 之ヲ守護ノ始トス、安定尋テ遠江守ニ任セラル、建武中  
 興、足利直義ヲ以テ守護トス、直義國ニ就クニ及ハス、親  
 王成良ヲ輔ケ鎌倉親相ニ鎮シ、兄尊氏ト共ニ反ス、延元元  
 年、井伊道政親王宗良ヲ奥山城引佐郡ニ奉シテ勤王ス、  
 後、遷テ井伊谷城引佐郡ニ居ル、國人叛テ尊氏ニ應ス  
 ル者多シ、是ニ於テ尊氏其將今川範國ヲ以テ守護トス、  
 宗良上テ駿河信濃諸國ノ將士ヲ招集シ、後吉野和ニ赴

ク、元弘ノ初、再ヒ井伊谷ニ來テ薨ス、井伊氏終ニ今川氏  
 ニ屬ス、範國死シ、子貞世、孫仲秋貞世ノ弟トス、貞守護ヲ  
 襲シ、應永中、將軍義持、斯波義重ヲ守護トス、今川氏猶其  
 東境ヲ領ス、永正ノ末、今川氏親盡ク全國ヲ併セ、傳ヘテ  
 孫氏興ニ至ル、永祿ノ末、武田信玄駿河ヲ取ル、氏興走ッ  
 テ本國ニ入り、掛川城佐野ニ保シ、又徳川氏ト兵ヲ構フ、  
 氏興支ヘス、相摸ニ出奔ス、家康徒テ濱松城教知ニ治シ、  
 屢武田氏ト國中ニ戰フ、已ニシテ信玄ト三方原教知ニ戰  
 ルニ互ニ戰ツテ大ニ敗ラル、武田氏亡フルニ及ヒテ、國盡  
 ク徳川氏ニ歸ス、天正十八年、家康關東ヲ遷ルニ及テ、豊  
 臣氏堀尾吉晴ヲ濱松ニ、山内一豊ヲ掛川ニ、有馬豊氏ヲ  
 横須賀城東ニ封ス、關原ノ役後、三氏ヲ轉封シ、更ニ濱松

ナ松平忠頼ニ掛川ヲ松平定勝ニ横須賀ヲ松平忠政ニ  
 與フ、慶長十四年、三藩ヲ徙シテ徳川頼宣ヲ封ス、元和五  
 年之ヲ紀伊ニ移シ、再、濱松初高力忠房掛川定綱平横須賀  
 重平ノ三藩ヲ建ツ、寛永ノ初、掛川・横須賀二藩ヲ轉封シ、  
 徳川忠長ニ駿河ヲ與ヘ、本國千石余九ヲ兼領セシム、九  
 年忠長罪有テ收封セラレ、横須賀ヲ井上正就忠後成四尾ニ、  
 掛川ヲ青山幸成ニ與フ、後太田寶曆中、田沼意次忠後相良  
 原ニ封ス、其嗣意明岩代國信夫郡下村ニ轉封ス、凡テ四  
 藩、王政革新、四藩ヲ安房・上總ニ徙シ、地・皆静岡藩家徳川ニ  
 屬ス、別ニ一藩ヲ建テ堀江ト云フ、大澤既ニシテ管改メ  
 テ縣ト爲シ、尋テ悉ク之ヲ廢シ、更ニ濱松縣ヲ立テ、縣廳  
 ナ濱松ニ置ク、九年ニ至リ又廢シテ静岡縣ニ合ス、軍管

ハ、六管欽差設置以來、第三軍管名古屋、第五、第六師管ノ  
 管内ニ隸セシカ、十七年一月師管ノ番號ヲ第五ト改メ、  
 全國尙舊管ニ依ル



五

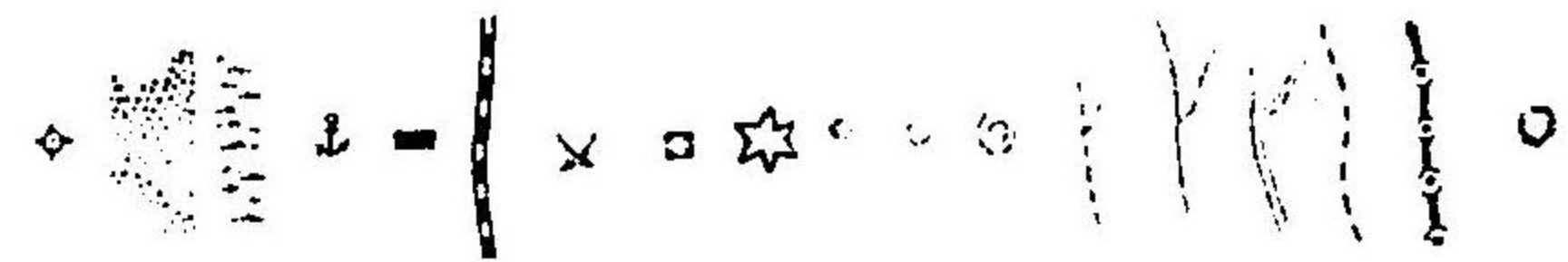
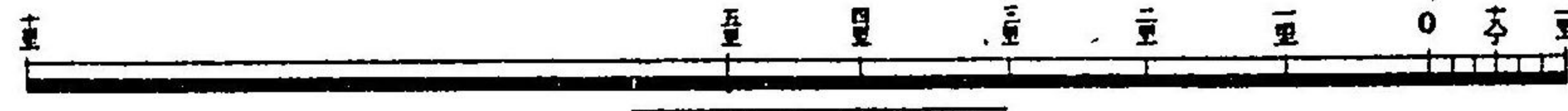
五

# 兵要地誌附圖

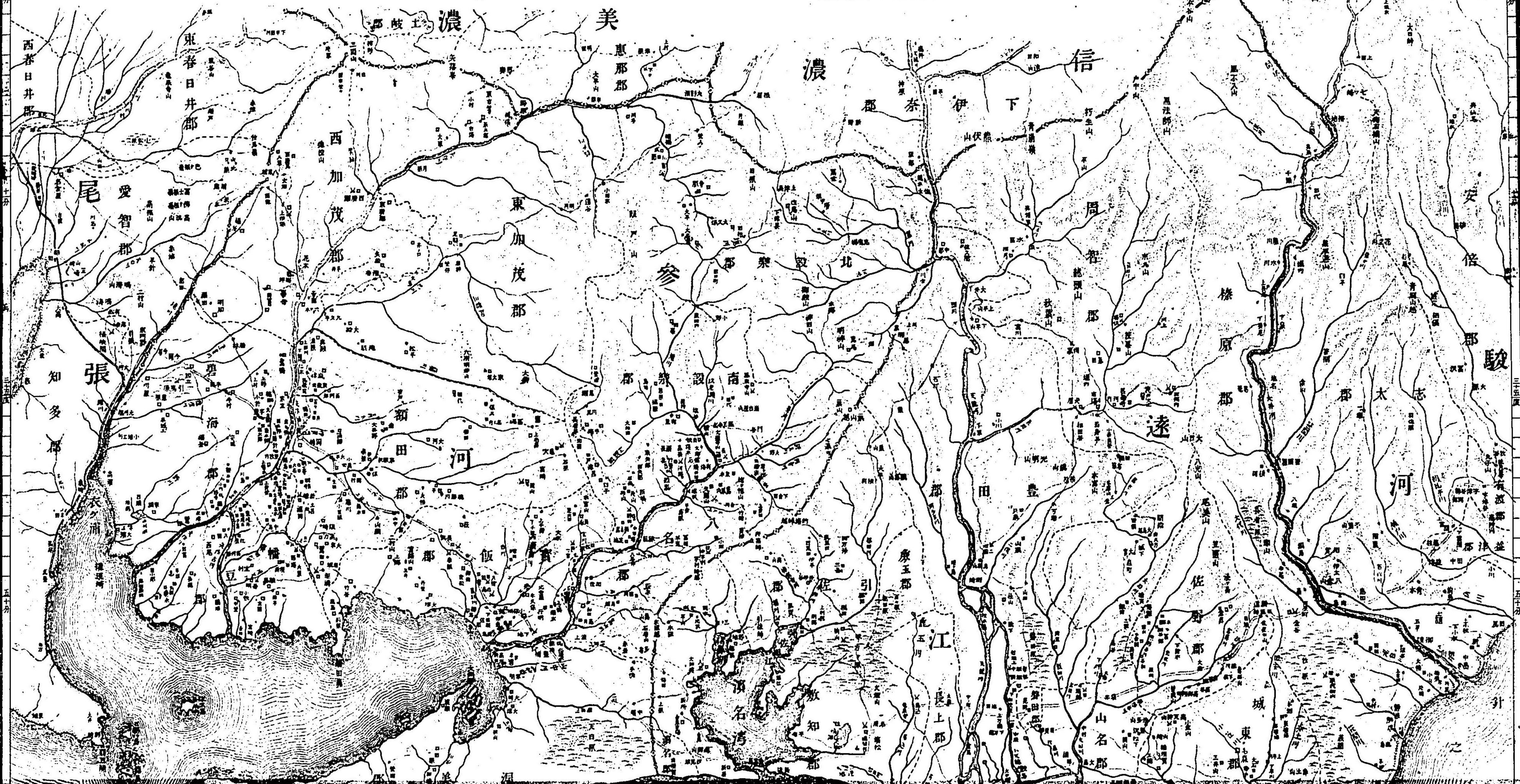
大日本參河遠江國

四十五萬分一縮尺

陸里



縣界 郡界 國界 縣道 郡道 市 落 宿 村 陸軍 古城址 古戰場 古蹟 港 原 砂 燈 臺 洲 野 湊 場 路 場 址



明治二